

ナリ。

斯ノ如キハ或ハ本來政府自ラ之ヲ行フヘキ性質ノ事業ト爲シ得ヘキモ、右事業カ緻密ナル計算ノ上ニ立チ、商機ノ微妙ナル洞察ヲ必要トスル關係上、便宜會社組織ト爲セルモノニシテ、其ノ眞意ハ獎勵機關タル滿洲棉花協會同様政府ノ代行機關タラシムルニ在リ。仍テ政府ハ本公司ニ對シ政府所有株ノ利益配當ヲ免除シ、且年額十萬圓ヲ限度トシテ事業欠損ヲ補償シ、他方棉花收買、棉花收買地域ノ指定、公定價格ノ決定、格付、經營ノ監督等ニ關シ嚴重ナル監督條項ヲ規定シ、相俟テ本公司ノ公益的使命ノ發揮ニ留意セリ。

棉花改良増殖事業ノ目標

初年度	二年度	三年度	四年度	五年度	六年度	七年度	八年度	九年度	一〇年度
四〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	六二,〇〇〇	七八,一二五	九七,六五六	一二二,〇七〇	一五二,五八八	一九〇,七三三	二三八,四一九	二九八,三三〇
三〇〇	六七一	二,三一九	六,三五五	一二,八二八	三九,六八二	七七,二〇六	一四七,六五二	二二七,七九七	二九八,三三〇
二四,〇〇九	三一,二六五	三七,八六五	四七,九三八	六一,〇五五	八〇,七七五	一〇六,五〇〇	一四三,六三九	一八八,三三二	二三九,三三四

備考 優良棉種普及面積中第十年度ニ於テ改良陸地棉作付地一三五,三二四陌、優良在來棉作付地一六三,二六六陌ニシテ、之ニ對シテハ第十年度以降ニ於テ陸地棉ニ更新スルモノトス

六 特産共同販賣會ノ設置及特産貸款ノ實施

農作増加並國際經濟諸事情ニ基ク對外輸出ノ不振及其ノ必然ノ結果トシテノ農産物價格ノ崩落ハ遂ニ重要輸出品タル大豆ノ主要生産地北滿地方ニ深刻ナル豐作饑饉ヲ招來スルニ至レリ。(第三節參照)。之ヨリ前北滿農民ハ既ニ久シキニ亘リ匪害ヲ蒙リ、更ニ大同元年ニ於ケル未曾有ノ大水害ニヨリ重大ナル打撃ヲ受ケタルヲ以テ政府ハ大同二年春季ニ於テ之カ救済ノ爲鈔カラサル春耕資金ノ融通ヲ圖レリ。然ルニ其ノ後農民ハ政府ノ春耕貸款其ノ他民間負債ノ返済期ニ當リ前述ノ農産物價ノ暴落ニ遭遇セルモノニシテ、農民ノ苦難、債權者ノ不安ハ地方經濟ニ重大ナル結果ヲ及ホサントセリ。

仍テ政府ハ之カ對策トシテ(一) 大同二年度生産大豆ノ賣殘ヲ生セシメサル様、適當ナル消化方法ヲ講スルコト、(二) 農民ノ賣急キニ因ル價格低落ヲ防止スルコト。(三) 農民ノ實收入ヲ多カラシムル爲、賣買手數料、保管料其ノ他ノ低減ヲ圖ルコトニ付キ對策ヲ決定シ、官業部、財政部及交通部主管ノ下ニ大豆輸出策協議會、召集並ニ特産共同販賣會ノ組織ヲ見タリ。即チ前者ハ大豆ノ消化ヲ迅速且ツ大量ナラシムル爲、特産關係各機關ノ共同活動ノ必要アルニ鑑ミ、滿鐵、鐵路總局、國際運輸會社等ノ運輸關係機關ニ、特産商、油房業者、取引所等ノ特産取引關係者ノ一團ヲ加ヘテ各責任アル代表者ノ參集ヲ求メ、政府亦委員ヲ任命シテ對策ヲ協議セルモノニシテ、他ハ農民ノ勞銀支拂、買入金決済、生活必需品ノ一部購入等ノ爲、賣急キヲ要スル事情ニ鑑ミ、北滿ニ於ケル大豆主要集散地ニ設置シタル特産共同販賣會ナリ。該會ハ會員ヨリ大豆ノ保管及販賣ノ委任ヲ受ケ、特産貸款監理委員會ノ監督指導ノ下ニ收穫大豆ニ對スル金融ヲ圖リ、共同シテ販賣ヲ行ヒ、相場ヲ指導シ、農民ノ賣急キ、其ノ他ニ依ル相場ノ低落ヲ防止スル等、農民ノ負擔ヲ輕減スルヲ以テ使



命トセリ。

七六八

斯クテ特産共同販賣會ハ黑龍江省内主要集散地二十一個所ニ設ケラレタルカ、委託合計一三八名、其ノ受入大豆合計六、〇九二、三七七、六五担、之ニ對スル特産貸款一〇〇、九〇五、五圓ニ上レリ。

尙特産共同販賣會ノ設置箇所及其ノ内容ハ次ノ如シ。

特産共同販賣會

- イ、設置箇所及會數 黑龍江省管内主要集散地二十一箇所。
- ロ、組織 一定地域ノ農民ニシテ大豆ノ保管及販賣ヲ委託スル者ヲ以テ會員トシ會長及委託者代表ヲ置キ會務ヲ處理ス。
- ハ、業務 特産貸款辦法ニ準據シ委託者(借款人)ノ委任ヲ受ケ、委託者ノ共同計算ニ依リテ左ノ事務ヲ行フ。  
大豆共同保管、大豆保管證發行、保管大豆ノ共同販賣
- ニ、計算 大豆販賣代金及會ノ損益金等ハ委託大豆數量ニ依リ按算出シテ會員ニ配分ス。
- ホ、融資機關 中央銀行
- ヘ、貸付額 春耕貸款未済者ハ該款元利合計額迄ハ其ノ擔保地權ヲ共通擔保トシテ大豆時價ノ九掛迄貸付ス。但シ大豆貸款ノ半額ハ春耕貸款ノ元利金トシテ中銀ニ入金ス。其ノ他ノ者ニハ時價ノ七掛マテ貸付ス。
- ト、貸付期間 最長手形期間三個月トシ事情ニヨリ手形ノ書換ヲ爲スコトヲ得
- チ、利子 月息七厘。

特産貸款監理委員會

省長ヲ會長トシ省公署ニ本部、縣ニ縣分會ヲ設ケ、共同販賣金ヲ監視スルト共ニ大豆販賣ノ指導ヲ行ヒ、又國際運輸會社ヲシテ出保管ヲ爲サシメルコトニ付キ考究セシム。

政府ノ補助トシテ左ノ二項アリ。

イ、特産物共同販賣會ニ對シ設立費及本部顧問、招牌費ノ一部ヲ補助ス。

ロ、中央銀行及國際運輸會社ニ對シテノ特別ナル事項ヲ命シタル場合ハ之ニ對シ考慮ス。

### 第三節 農業事情

#### 一 農 耕 地

土壤 我國ノ地質ニ關シテハ既ニ第一編第二章ニ記シタル所ナルカ、之ヲ農業上ヨリ見ルトキハ、北滿地方ハ黑土質ノ沖積土多ク、南滿地方ハ概シテ黃土質ノ洪積土ヨリ成リ農作ニ適スルモ、西北部一帯ニ展開スル砂丘ハ農業的利用價值皆無ト稱シテ妨ケナシ。而シテ農業化學ノ見地ヨリスレハ、有機質並窒素分缺乏シ石灰硫酸加里缺乏スルト雖モ磷酸加里ノ含有相當量多シ。又理學的性質ニ於テハ埴土ハ比重重ク、吸水力、容水力、土壤孔隙、容氣量共ニ過少ニシテ一般ニ不良ナレトモ、壤土ニ在リテハ大體ニ良好ナリ。只有機物及窒素含有量缺乏セルコトト、概シテ重粘ナル缺點アリ。

土地利用狀況 松花江、遼河、嫩江等諸大河ノ横流ニヨリ、中心地帯ニ南北ニ長ク廣袤千里ノ沃野展開シ、山岳地帯モ全般的ニ高原丘陵等ノ傾斜緩漫ナル地帯多ク、從テ可耕地面積ニ對スル割合ハ極メテ高率ナリ。興安各分省及熱河省ヲ除ク



可耕地面積ノ總面積ニ對スル割合ハ四八・六%ニシテ、内既耕地ハ一七%、殘餘ノ三一・五%ハ今猶未耕地トシテ存スルノ状態ナリ。

土地利用狀況 (單位平方料)

地名	耕地		計	不可耕地	總面積	總面積ニ對スル比率	
	既耕地	未耕地				既耕地	未耕地
吉林	1,170,000	1,211,000	2,381,000	2,260,000	1,170,000	49.1%	
黑龍江	1,000,000	7,110,000	8,110,000	1,110,000	1,000,000	12.3%	
三江	7,110,000	1,110,000	8,220,000	1,110,000	7,110,000	86.6%	
安東	7,110,000	1,110,000	8,220,000	1,110,000	7,110,000	86.6%	
奉天	1,110,000	1,110,000	2,220,000	1,110,000	1,110,000	50.0%	
錦州	1,110,000	1,110,000	2,220,000	1,110,000	1,110,000	50.0%	
熱河	1,110,000	1,110,000	2,220,000	1,110,000	1,110,000	50.0%	
計	1,170,000	12,110,000	13,280,000	2,260,000	11,020,000	82.9%	

備考 左記各縣ハ調査不詳ニ付キ之ヲ省キテ計算ス  
 吉林地方(雙陽、伊通、德惠、農安、九台、永吉、盤石、榆樹) 龍江地方(突泉) 黑河地方(鶴浦、呼瑪、遜河、佛山) 三江地方(依蘭、寶清、撫遠)  
 濱江地方(阿城、雙城、密山、虎林、呼蘭、巴彦、綏化、鐵嶺) 錦州地方(錦西、興城、綏中、義、北鎮、台安、朝陽、阜新) 安東地方(安東、鳳城、岫巖、寬甸、通化、臨江、長白) 奉天地方(遼中、撫順、鐵嶺、海城、復、興京、清原、昌圖、梨樹、海龍、輝南、東豐) 以上五十二縣

### 二 農業氣象

我國ノ氣象ノ特長ハ第一編第二章ニ記セルカ如ク春秋期短少ニシテ、夏冬ノ期長ク寒暑ノ較差大ナリ。雨量、雲量ノ寡

少ハ日照時數ノ過多ナルコトヲ説明スルモノニシテ、農耕期間中風速強烈ナルコトト相俟チテ蒸發量ノ増大ヲ齎シ、初霜ノ到來早キニ對シ晚霜遲延スル等殆ト全地域ニ互リ大陸の氣候ノ諸特性ヲ有ス。從テ其ノ氣象條件ノ農業經營上ニ及ホセル影響ハ幾多ノ制約ヲ爲セリ。今之ヲ列記スレハ次ノ如シ。

- (イ) 栽培作物ノ制限 空氣乾燥、蒸發量ノ著大、降水量ノ寡少ナル結果トシテ、栽培作物ハ高粱、大豆等比較的乾燥ニ耐エ得ル畑作物ヲ選擇セシメタリ。
- (ロ) 農耕利用ノ制限 作物ノ生育期間短キ結果、所謂裏作ヲ行フコト不能ニシテ、一毛作ニ止メサルヲ得ス。
- (ハ) 耕種作業ニ及ホセル關係 降水量少キ關係上、土壤ノ保水ニ就キ考慮ヲ必要トス。即チ在來農法ノ技術ハ極メテ簡易ナリト雖モ、歐米ニ行ハルル乾燥農法ト略同様ノ原理採用セラレ、雨水ヲ永ク地下水トシテ保留シ置キ、之ヲ毛細管現象ニ依リ、逐次乾燥期ニ於ケル土壤ノ水濕ヲ補フ耕作法ニ則レリ。
- (ニ) 農具ニ及ホセル影響 降水量少ク土壤常ニ乾燥ヲ來ス結果、畑作ノ粗笨的耕作行ハレ、從テ經營面積モ相當廣範圍ニ亘リ得ル關係上、畜力ヲ動力原トシ、農具ハ構造不完全ナカラ、相當大農具ヲ使用セリ。

### 三 農業ノ經營

農業ノ經營態樣 地主、自作農、自作兼小作農、小作農ノ諸階級アリ  
 自作農 自作農ハ通常之ヲ本地本種或ハ自己兒地自己兒種ト稱ス。  
 小作農 普通小作ハ租又ハ佃ト稱シ小作人ハ租戶或ハ佃戶ト稱ス。二年乃至三年以内ノ契約ナルモ稀ニ、十年、二十



年ノ長期ニ亘ルモノアリ。小作料ハ金納、穀納ノ二種アリ。此ノ他官地、公地、王公莊田及蒙地等ハ永小作（永租）制度行ハレ、北滿及舊蒙古開放地帯ニハ分益小作法行ハル。永小作權ハ子孫ニ相續又ハ之ヲ轉賣スルコトヲ得、假令其ノ土地ノ地主ニ變更アリト雖モ、絶對ニ土地ノ返還、借料ノ増加ヲ請求セララルコトナシ。分益農（分種辦請）ノ契約期間ハ普通一個年ニシテ、其ノ方法ニ二種アリ。一ハ辦裡請ト稱シ、地主ヨリ家屋、農具、種子、肥料、日用品、衣服、食料ニ至ル一切ヲ貸與シ、收穫後之等消費シタル一切ノ代價ヲ支拂フモノニシテ、此ノ場合ノ分配率ハ地主六―七分、小作人三―四分ナリ。他ノ一ハ辦外請ト稱シ家屋ノミヲ支給スルモノニシテ、其ノ分配率ハ地主四―五分小作人五―六分ナリ。

協同農ト請負農 協同農（插具）トハ二三農家カ各人所有ノ牛馬農具ヲ離出シ各自所有耕地ノ耕作ニ共同出資スルモノニシテ、關東州内ニ多シ。請負農（牛具）ハ所有家畜ナキ農家又ハ勞力ニ不足ヲ告クル者或ハ農業者以外ノ耕地所有者等ノ耕地ノ耕作ヲ請負フモノニシテ、其ノ請負額ハ播種ヨリ收穫ニ至ル迄、十畝一天約十五圓内外ナリ。又除草、中耕等ノミノ部分的請負アリ。

農業労働者 我國ノ顯著ナル大陸的氣候ハ季節的ニ農業労働ノ分配ヲ不平均ナラシム。蓋シ春秋ノ慌シキ經過ハ採種ト取入レノ操作急ナルヲ要シ、殊ニ經營規模ノ比較的大ナルカ爲、年内労働ノ繁閑ノ差異著大ニシテ一時的ニ労働ノ輻輳ヲ來シ、已ムヲ得ス雇傭勞力ヲ以テ之ヲ補ヘリ。年々多數ノ労働者カ山東方面ヨリ渡來スルハ以上ノ如キ農業ノ特質カ主要ナル誘因ヲ爲スモノナルコトヲ看過スヘカラス。

農耕法 我國ノ農業ハ自然的及社會、經濟的諸條件ノ直接的制約ニ順應シ、漂泊農法、燒畑農法、休閒農法等農耕法上ニモ諸特殊性ヲ顯現セリ。之ヲ要約スレハ、我國ノ農業ハ技術程度未タ低位ニシテ粗笨ナリト言フヘク、更ニ大別スレハ蒙古人農法ト漢人農法ニ區分スルコトヲ得、蒙古人ハ寧口牧畜ヲ主業トナスモ、漢人ノ移住ニ伴ヒ其ノ刺戟ヲ受ケ、農業

ニ從事スル者ヲ生シタルカ、其ノ方法ハ草原中ノ地味肥沃ナル處ヲ擇ヒテ耕作シ、地力ノ有ラン限り糜子等ヲ連作シ、其ノ地力衰耗スレハ他ニ移動シテ之ヲ繰返ヘス一種ノ漂泊農ナリ。漢人農法ハ所謂畑地主穀畜力農業ニシテ休閒農法及輪作農法ノ二種アリ、休閒法ハ土地ノ餘裕アル蒙地並各未開地ニ行ハレ、其ノ規則的ナルモノハ圃場ヲ三分シ、毎年三分ノ二ヲ耕作シ他ノ三分ノ一ヲ休耕セシムル三圃農法類似ノモノナリ。輪作法ハ我國全般ニ行ハレ南部地方ニ在リテハ玉蜀黍ヲ主作トシ、粟、高粱、大豆等ト三年又ハ四年輪作ヲ行ヒ、中部地方ニ於テハ、高粱、大豆ヲ主作物トシ粟小麥等ト三年輪作ヲ行フ。北滿地方ニテハ大豆、小麥ヲ主作物トシ粟、玉蜀黍、糜子等ノ輪作ヲ以テ普通トセリ。燒畑式ハ主トシテ吉林省方面其ノ他森林地方ニ行ハル。

#### 四 農產物ノ種類及生産額

種類 我農產物中主要ナルモノハ大豆、高粱ニシテ、就中大豆ハ其ノ加工品タル豆油、豆粕ト共ニ海外ニ輸出セラレテ滿洲特產ノ名ヲ忝ニシ、高粱ハ食料家畜飼料及高粱桿燃料トシテ餘ス所ナク國內ノ需要ヲ充シ、餘剩ハ中華民國ヲ首メ其ノ他諸國ニ輸出セララル。之ニ次クモノ、粟、玉蜀黍、小麥、稗ニシテ更ニ近年朝鮮人ノ濕地移住ト共ニ水稻、陸稻ノ生産額増加ノ傾向ニアリ。特用作物ハ棉花及煙草首位ヲ占メ、線麻青麻等ノ麻類、蘇子、瓜類、落花生等之ニ次ク。

而シテ以上農產物中棉花及果實類カ南部地方ニ於テノミ栽培セラルルヲ除キ、他ハ悉ク全國ノ農業地帯ニ生育ス。先ツ大豆ノ栽培ハ南、奉天省復縣ヨリ、北ハ松花江ノ上流ニ及フモ南滿ニ比シ北滿ニ多ク、高粱ハ南滿ニ特ニ多ク滿鐵本線及奉山線沿線並ニ東山地方其ノ主產地タリ。玉蜀黍ノ栽種ハ復縣蓋平縣ヨリ黃海沿岸ノ諸縣ニ著シク、東山地方之ニ次ク。



小麥ハ北滿殊ニ濱北沿線及北鐵南部線ニ主産シ、粟ハ主要農業地帯ニ普遍的ニ栽培セラル。水稻ハ現在南滿ニ多ク奉天、撫順、新京、安東附近及間島ヲ主産地トスルモ、將來ハ日鮮農ノ移住ニ依リ灌漑ニ便ナル所遠ク北滿ニ及フヘシ。落花生ノ栽培ハ果實ト共ニ關東州及其ノ接壤地域ヲ以テ主産地トシ、煙草ハ安奉線沿線及吉林省ノ東南部地方ニ多ク産出ス。生産額 主要農産物生産額ヲ示スニ凡ソ次ノ如シ。

主要農産物收穫高

(滿洲農産物收穫高豫想調査聯合會)  
大同二年第三回收穫高豫想ニ據ル

品名及地方	大同二年		大同元年		比較年 增加度	大同元年度ヲ一 〇〇トスル指數
	收穫高	單位	收穫高	單位		
黃豆	11,000,000	石	11,200,000	石	102	112
其他豆類	1,200,000	石	1,100,000	石	92	104
高粱	1,000,000	石	1,100,000	石	110	119
粟	1,100,000	石	1,200,000	石	109	124
玉蜀黍	1,200,000	石	1,100,000	石	92	104

五 農村事情

農村聚落ノ分布、戸口數、農業經營面積ノ大小別農家戸數、自作農及小作農ノ數竝其ノ割合等ニ關スル農村社會ノ説明資料トシテ全國的ニハ之ヲ得サルモ、黑龍江省各縣ニ就キ同省々公署ノ調査發表セルモノアリ。各表數字ニ聊カ矛盾ヲ發見スルモ、從來斯カル資料ナキヲ以テ參考ノ爲掲クルコトトセリ。

(1) 黑龍江省各縣別村落數並一村落實り戸口數

小	南滿地方		北滿地方		計	一村落實り戸口數
	村落數	戸口	村落數	戸口		
麥	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	111
水	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	112
陸	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	113
其他雜數	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	114



















リタルモ、各作物生育期間中乾燥ニ過キタル數旬ノ天候ト、秋收作物ノ結實期ニ於テ稍々陰濕ノ嫌ヒ有リタル旬日ノ天候トハ、人爲的農耕管理ノ不充分ト相俟テ著シク收穫ヲ害シタリ。然レトモ未曾有ノ水災ニ襲ハレ、大損害ヲ蒙リタル前年ニ比スレハ遙ニ良好ナリシト謂ヒ得ヘシ。

農作物作付面積 大同二年ノ第三回滿洲農產物收穫高豫想ニ據レハ、同年ノ作付面積ハ南滿地方ニ於テ約三萬六千陌ノ増加ヲ見タルモ、北滿地方ニ於テ約二十一萬陌ノ減少ヲ來シタルヲ以テ、差引約十七萬陌ノ減少トナレリ。尙滿洲農業統計ニ據リ地方別ニ各作物別作付面積ヲ示セハ次ノ如シ。

農作物作付面積

一、普通作物

(康德元年五月一日現在) (單位陌)

品名	吉林地方	龍江地方	黑河地方	三江地方	濱江地方	間島地方	安東地方	奉天地方	錦州地方	熱河地方	計
大豆	九六,九〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
小豆	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
其他豆類	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
高粱	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
粟	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
蜀黍	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
小麦	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
燕麥	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
蕎麥	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
其他雜穀	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
計	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇

品名	吉林地方	龍江地方	黑河地方	三江地方	濱江地方	間島地方	安東地方	奉天地方	錦州地方	熱河地方	計
水稻	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
陸稻	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
其他雜穀	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
計	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇

一、特用作物

品名	吉林地方	龍江地方	黑河地方	三江地方	濱江地方	間島地方	安東地方	奉天地方	錦州地方	熱河地方	計
棉花	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
烟草	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
麻	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
其他	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇
計	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇	一〇,一〇〇

註 右表ニハ左記各縣調査不詳ニ付キ加算セズ  
吉林地方ニ德惠縣。龍江地方ニ突泉縣。黑河地方ニ遜河縣。三江地方ニ依蘭縣。濱江地方ニ密山、虎林二縣。奉天省ニ撫順縣。  
錦州省ニ錦西、朝陽、阜新ノ三縣。

收穫高 作付面積ハ前年ニ比シ減少ヲ呈シタルモ、收穫高ハ概況ニ於テ述ヘタル如ク、天候ノ順調ニ惠マレ各作物トモ前年ニ比シ増收ヲ見タリ。「滿洲國農業統計」ニ據ル地方別各作物ノ收穫ハ次ノ如シ。



大同二年農作物收穫高 (單位 匁)  
一、普通作物

品名	吉林地方	龍江地方	黑河地方	三江地方	濱江地方	間島地方	安東地方	奉天地方	錦州地方	計
大豆	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	10,000,000
小豆	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	5,000,000
其他豆類	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	2,000,000
高粱	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	15,000,000
粟	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	10,000,000
玉蜀黍	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	5,000,000
小麦	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	10,000,000
大麦	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	5,000,000
燕麥	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	5,000,000
水稻	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	10,000,000
水稲	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	10,000,000
陸稻	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	5,000,000
其他雜穀	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	5,000,000
計	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	100,000,000

品名	吉林地方	龍江地方	黑河地方	三江地方	濱江地方	間島地方	安東地方	奉天地方	錦州地方	計
線	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	1,000,000
苧	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	500,000
苧	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	500,000
落	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	1,000,000
花	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	500,000
藍	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	500,000
計	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	10,000,000

註 左記各縣調査未詳ニ付キ計上セス。  
吉林地方ニ德惠縣。龍江地方ニ突泉縣。黑河地方ニ通河縣。三江地方ニ依蘭縣。濱江地方ニ密山、虎林二縣。奉天地方ニ撫順縣。  
錦州地方ニ錦西、朝陽、阜新三縣。

**主要農産物價格ノ暴落** 各農産物ハ前年ニ比シ增收ヲ見タリト雖モ、中華民國ノ滿洲生産品ニ對スルボイコツト的關稅政策ノ強行日本内地ノ需要減、加フルニ最大需要國タル獨逸カ封鎖政策ヲ採ルニ至リシコト等幾多惡材料ノ續出ニ因リ、終ニ國內農作饑饉ノ聲ヲ聞クカ如キ状態ヲ現出セリ。即チ主要作物ノ月別現物相場ニ依リ此ノ間ノ動向ヲ窺ヘハ、高粱、玉蜀黍、粟等ハ年初ヨリ崩落ノ一途ヲ辿リ、大豆ハ前半期ニ稍々高調ヲ呈シ、平均相場ハ六月一三・八六五匁、七月一三・四六匁ト高値ヲ呼ヒタルモ、八月ヨリ俄然一一圓台ニ顛落シ、新穀上場ト共ニ、十月ニハ一一圓台ヲ割リ、十一月ニハ一一圓台ヲ割リ、年末ニハ遂ニ八・七一〇匁ト十數年來ノ安値ヲ示セリ。



月別	大豆			高粱			包米(玉蜀黍)			小米(粟)		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
一月	1,800	1,100	1,450	6,200	5,800	6,000	1,100	1,000	1,050	1,300	1,200	1,250
二月	1,800	1,100	1,450	6,200	5,800	6,000	1,100	1,000	1,050	1,300	1,200	1,250
三月	1,800	1,100	1,450	6,200	5,800	6,000	1,100	1,000	1,050	1,300	1,200	1,250
四月	1,800	1,100	1,450	6,200	5,800	6,000	1,100	1,000	1,050	1,300	1,200	1,250
五月	1,800	1,100	1,450	6,200	5,800	6,000	1,100	1,000	1,050	1,300	1,200	1,250
六月	1,800	1,100	1,450	6,200	5,800	6,000	1,100	1,000	1,050	1,300	1,200	1,250
七月	1,800	1,100	1,450	6,200	5,800	6,000	1,100	1,000	1,050	1,300	1,200	1,250
八月	1,800	1,100	1,450	6,200	5,800	6,000	1,100	1,000	1,050	1,300	1,200	1,250
九月	1,800	1,100	1,450	6,200	5,800	6,000	1,100	1,000	1,050	1,300	1,200	1,250
一〇月	1,800	1,100	1,450	6,200	5,800	6,000	1,100	1,000	1,050	1,300	1,200	1,250
前年	1,800	1,100	1,450	6,200	5,800	6,000	1,100	1,000	1,050	1,300	1,200	1,250
本年	1,800	1,100	1,450	6,200	5,800	6,000	1,100	1,000	1,050	1,300	1,200	1,250

月別	大豆			高粱			包米(玉蜀黍)			小米(粟)		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
一月	1,800	1,100	1,450	6,200	5,800	6,000	1,100	1,000	1,050	1,300	1,200	1,250
二月	1,800	1,100	1,450	6,200	5,800	6,000	1,100	1,000	1,050	1,300	1,200	1,250
前年	1,800	1,100	1,450	6,200	5,800	6,000	1,100	1,000	1,050	1,300	1,200	1,250
本年	1,800	1,100	1,450	6,200	5,800	6,000	1,100	1,000	1,050	1,300	1,200	1,250

備考 呼値ノ單位大豆、高粱、包米ハ一石(以上新京)、小米ハ一斗(開原)

### 第四節 蠶業

柞蠶業 我國ニ於ケル柞蠶飼育ハ約二百數十年前ニ始マリ、特ニ近年ニ及ヒテヨリ柞蠶繭ハ我國物産中重要ナル地位ヲ占ムルニ至リタリ。柞蠶ノ産地ハ奉天省遼河以東、遼東半島ヲ最トシ、東豊、西豊、蓋平、岫巖、安東ノ各縣著名ニシテ、鳳城、海城、莊河之ニ亞ク。其ノ他遼陽、鐵嶺、昌圖、復、本溪、懷仁、通化、臨江、輯安、興京、海龍等ノ各縣ニ於テモ多少ノ生産アリ。

柞蠶繭ノ生産額ハ正確ナル數字不明ナルモ、約八十六億粒ト稱セラレ、内奉天省七十六億粒(二十三萬籠)、其ノ價格一千百萬圓内外ヲ占メ、安東附近ハ約七萬籠、三百三十萬圓内外ト言ハル。集散市場ノ主ナルモノハ安東及蓋平ニシテ、年集散額前者ハ七萬籠、後者ハ四萬籠、其他海城、黃土坎、松樹等七千籠内外ナリ。

尙柞蠶繭及其ノ製品ノ輸出額ヲ觀ルニ近年價格ノ暴落ニヨリ漸減ノ步調ヲ辿レルモ尙年々一千萬圓ヲ超過セリ。



種別	大同二年		大同元年	
	數量	金額	數量	金額
野蠶繭及同製品	88,116斤	100,000圓	32,700斤	111,111圓
柞蠶繭	1,186,250斤	3,381,126圓	1,122,000斤	1,474,212圓
柞蠶繭製品	1,186,250斤	3,381,126圓	1,122,000斤	1,474,212圓
計	3,260,616斤	4,762,152圓	2,577,700斤	2,659,535圓

右表ニ據レハ大同二年度ハ前年ニ比シ價額ニ於テ約百萬圓ノ減少ヲ見タルモ、數量ニ於テ約百二十萬斤ノ増加ヲ來セリ。從ツテ大同二年ニ於ケル柞蠶繭ノ生産ハ前年ニ比シ稍々增收ヲ齎ラセルコトヲ推定シ得ヘシ。

家蠶業 從來各地農家ニ於テ稀ニ家蠶ノ養育ヲ試ミル者アリト雖モ、未タ純然タル養蠶業ナルモノ存在セシコトナシ。然ルニ近年滿鐵熊岳城農事試驗場及關東廳蠶業試驗場ノ試驗ノ結果、滿洲ニ於ケル養蠶業有望ナルコト立證セラレテ以來、漸次勃興ノ機運ニ向ヒツツアリ。現在ニ於テハ未タ副業ノ域ニスラ達セサルモ、關東州内ニ於テハ成績相當見ルヘキモノアリ、收購量ハ最近年額四十噸ニ及ヘリ。

## 第三章 畜産業

### 第一節 概 說

#### 一 畜産業一般

我國ノ畜産業ハ經營形態上、中央平原地帯ニ於ケル農家ノ主穀式畜力農業經營上必要トスル家畜飼養ト、熱河及興安各省ノ草原地帯ニ水草ヲ追ウテ營ム蒙古民族ノ遊牧ノ二種ニ分タル。而シテ我國ハ牧野面積ノ廣大、家畜飼料ノ生産豊富ナルコト等牧畜ニ必要ナル條件ヲ具備スル關係上、之ヲ數量ヨリ觀ルトキハ家畜、家禽共ニ多ク有ス。斯クシテ畜産ノ國民經濟上ニ於ケル地位ハ、農業ト共ニ經濟的根幹ヲ作成シ、畜産地帯ニ於ケル全生活資料ノ源泉タルニ止ラス、農業地帯ニ於テモ其ノ飼養ハ農家經營上不可缺ノ存在タリ。即チ農民ハ能ク廢物ヲ利用シテ之ヲ飼育シ其ノ排泄物ヲ以テ唯一ノ肥料トナシ、各種ノ動力耕作補助、交通運搬具其ノ他各方面ニ亘リテ利用シ、近代の諸機械ノ流入アルニモ拘ハラズ、依然トシテ其ノ根強キ經濟力ヲ保持セリ。

然リト雖モ其ノ資質ニ至リテハ、飼育管理方法ノ原始的且ツ粗雜ナルコトニ因リ極メテ不良ニシテ、能力及利用價值等諸外國ニ比シ遙ニ劣等ナリ。又家畜傳染病ノ不斷ニ流行スルコト、家畜飼育者ニ多大ノ損害ヲ與フルト共ニ、著シク國內畜産資源ノ利用價值ヲ減殺スルモノナリ。



## 二 畜産行政

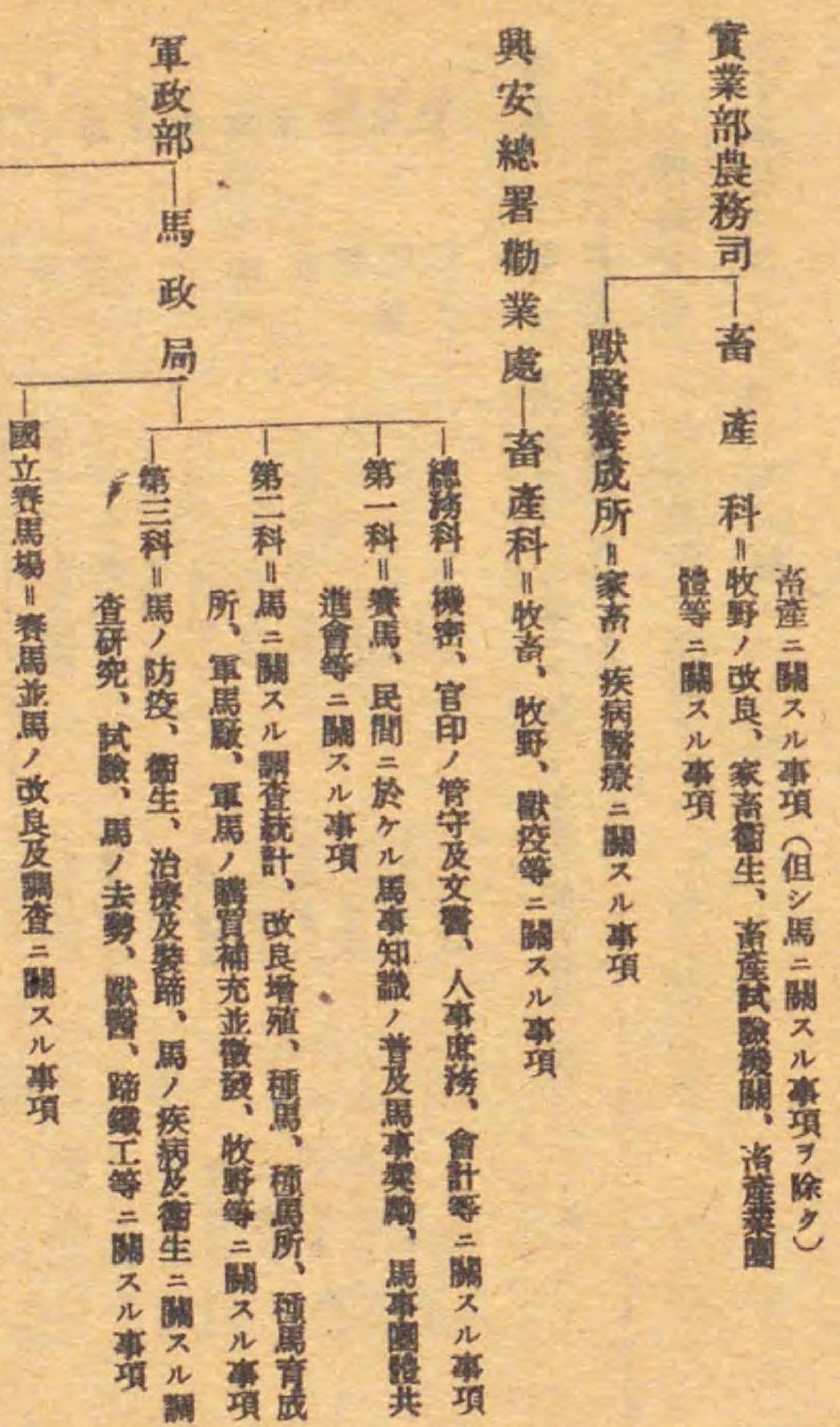
畜産改良増産根本方策及其ノ實施 政府ハ建國以來畜産資源ノ開發ヲ考究シ、家畜頭數ノ増加ト共ニ品種ノ改良ヲ企圖シ經濟建設綱要中ニ於テ其ノ方策ヲ明示セリ。

而シテ右根本方策ニ從ヒ、漸次其ノ實施ニ入レルカ、大同二年度ニ於テハ改良種畜ノ配給、畜産市場ノ統制ヲ行ヒ獸疫ノ豫防撲滅ニ關シテハ奉天ニ獸醫養成所ヲ設置セル外、應急策トシテ必要箇所ニ獸醫ヲ配置シ、無料ヲ以テ血清豫防注射ヲ行ヘリ。其ノ他主要ナル事項ヲ掲ケレハ次ノ如シ。

(一)馬ノ改良増産 馬匹ノ改良増産ハ軍事上ノ必要ヲ充スト共ニ交通及産業ノ開發ニ重要ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ、軍政部外局トシテ馬政局ヲ設置シ、賽馬法ヲ制定シテ競馬ヲ行ハシメ馬匹ノ改良ニ資センコトヲ期セリ。斯クシテ四十五年後ニ於テハ民有馬中少クモ改良馬二百萬頭ヲ保持セントスルモノニシテ、現ニ馬匹資源ノ調査ヲ初メ種馬場ノ設置、牧廠ノ經營等ニ努力シツツアリ。

(二)綿羊ノ改良増産 綿羊ノ改良増産ハ滿日兩國ノ經濟政策上重要項目ヲナスヘキモノナルヲ以テ、政府ハ新ニ綿羊一千五百萬頭ノ保持ヲ目標トスル五ヶ年計畫ヲ確立シ、之ニ關シ近ク國立種羊場ヲ設置スヘク計畫中ナリ。

畜産行政機構 右ノ如ク馬ニ關シテハ其ノ專管機關トシテ馬政局ヲ設置セル外主務大臣ノ諮問機關トシテ馬政委員會ナル機關ヲ設置セルカ、尙一般畜産行政事務ノ擴大強化ヲ圖ルノ要ヲ認メ實業部、興安總署ノ内容ヲ充實セシメタリ。各機關ノ組織系統並主管事項ヲ示スニ左表ノ如シ。



馬政委員會 軍政部長官ノ諮問ニ應ジ馬政ニ關スル審議並建議ヲ爲ス  
尙地方施設トシテハ奉天省ニ省内ノ家畜改良ノ爲、洮南縣及遼源縣ニ官營牧場ヲ設ケ、熱河省ニハ承德縣ニ牧畜試驗場ヲ設置シ、省内ノ家畜改良ヲ考究セシメツツアリ。

## 第二節 畜産事情

畜産業ノ現状ニ關シテハ前述セル所ナルヲ以テ(本章第一節參照)以下項ヲ分チ説明スヘシ。







第四編 畜産業 第三章 畜産業

縣	雞	家鴨	家	雞	豚	羊	驢	馬	牛	名	縣
雙陽	11,111	000	000	102,222	000,000	012,222	000,000	000,000	000,000	陽	雙陽
長嶺	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	春	長嶺
農安	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	安	農安
德惠	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	惠	德惠
舒蘭	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	蘭	舒蘭
永吉	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	吉	永吉

七九七

吉林省

○印ハ大同元年度調

縣	雞	家鴨	家	雞	豚	羊	驢	馬	牛	名	縣
綏德	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	德	綏德
興安	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	安	興安
錦州	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	州	錦州
義州	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	州	義州
北鎮	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	鎮	北鎮
黑龍	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	龍	黑龍
盤石	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	石	盤石
台安	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	安	台安
遼寧	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	寧	遼寧
新賓	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	賓	新賓
彰德	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	德	彰德
計	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	計	

縣	雞	家鴨	家	雞	豚	羊	驢	馬	牛	名	縣
通遼	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	遼	通遼
雙陽	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	陽	雙陽
開通	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	通	開通
安東	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	東	安東
鎮賚	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	賚	鎮賚
洮安	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	安	洮安
洮南	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	南	洮南
廣德	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	德	廣德
德惠	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	惠	德惠
圖庫	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	庫	圖庫
庫倫	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	倫	庫倫
廣原	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	原	廣原
原州	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	州	原州
豐寧	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	寧	豐寧
安東	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	東	安東
松原	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	原	松原
白旗	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	旗	白旗
江安	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	安	江安
計	000	000	000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	000,000	計	

七九六



縣名	牛	馬	騾	驢	羊	豚	鶏	家鴨	鶩
龍江	2,616	2,616	2,616	2,616	2,616	2,616	2,616	2,616	2,616
甘肅	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
景南	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
泰來	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
大寶	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111

黑龍江省

縣名	牛	馬	騾	驢	羊	豚	鶏	家鴨	鶩
方正	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
河東	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
珠河	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
阿城	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
濱州	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
雙陽	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
五峰	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
扶餘	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
乾安	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
九台	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
計	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111

縣名	牛	馬	騾	驢	羊	豚	鶏	家鴨	鶩
伊通	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
龍江	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
延吉	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
和龍	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
延壽	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
江寧	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
敦化	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
安圖	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
穆稜	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
東寧	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
寶清	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
虎林	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
同慶	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
富錦	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
勃利	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
依蘭	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
計	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111







縣名	牛	馬	騾	驢	羊	豚	鶏	家鴨	鶩
計	四七〇	二九〇	四〇	四〇	計山綿 二六、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇	七、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	一、〇〇〇

分布 以上ノ各家畜ハ種類ニヨリ地方ノ分布ノ状態ヲ異ニス。牛ノ產地ハ主トシテ奉天省及吉林省ノ東部山岳地帯(長白山脈地帯)ト西部蒙古地方(興安各分省、熱河省及奉天、吉林、黑龍江省各管内ノ舊蒙古地域ヲモ含ム)トニシテ、南北滿洲中央部ノ平原地帯ニハ其ノ産出僅ナリ。之レ東部ノ山岳地帯ニ於テハ牛ヲ農耕役畜ニ使用スルコト多ク、西方蒙古地帯ニ於テハ牛ヲ役用ノ外乳用ニ供シ、又未墾ノ原野廣大ナルカ爲ナリ。

次ニ馬ハ南北滿洲中央部平原地帯及西方蒙古地方ニ多ク東部山岳地帯ニ少シ。騾ハ各地方ノ漢人農業地帯ニ於テ生産ニ使役サルルモ、其ノ頭數ハ南滿舊墾地方ニ多ク、北滿及蒙古ノ新墾地方ニ少シ。興安各分省ノ蒙古人ハ全然騾ノ生産使役ヲ爲サス。驢モ開拓年次古ク農業經營比較的集約的ナル奉天省及熱河省南部等ニ多ク、北滿及蒙古地方ニ僅少ナリ。興安各分省内ノ遊牧地方及準遊牧地帯ニ於テハ之カ生産ヲ見ルコト稀ナリ。

豚ハ漢人種ノ最モ愛好スル肉畜ニシテ、漢民族ノ居住スル所之カ飼育ヲ見サルナク、分布最モ廣範圍ニ亘ル。然ルニ蒙古人ハ元來慣習上豚ノ飼育ヲ厭ヒ、蒙古ノ純牧地帯ニ於ケル豚ノ生産ハ皆無ノ状態ナリ。  
綿羊及山羊ハ未墾ノ原野及不可耕地多キ興安各分省、熱河省及奉天、吉林、黑龍江三省ノ舊蒙古地域ニ多ク中部以東ニハ殆ト其ノ飼育無シ、綿羊、山羊飼養地ノ中地勢險峻ナル山岳地帯ニ於テハ多ク山羊ヲ飼養シ、以外ノ地ニハ綿羊、山

羊相半シ又ハ綿羊ヲ多ク飼養セリ。  
駱駝ハ蒙古特ニ其ノ興安嶺山脈西北ニ多ク、興安嶺東南方蒙古ニモ多少ノ産出ヲ見ルモ、奉、吉、黑三省ニハ産出皆無ナリ。

鶏其ノ他家禽類ハ豚ト分布同シク漢民族農業地帯ノ何レノ地方ニモ之ヲ産シ、蒙古人ノ純牧地帯ニハ之カ産出無ク、開拓地方ノ蒙古人ノミ多少ノ飼育ヲ爲セリ。  
蜜蜂ハ奉天省、吉林省ノ山岳地帯ニ多少ノ飼養アルノミナリ。

一 畜産經營形態及飼養狀況

經營形態 我國ニ於ケル畜産經營形態ヲ觀ルニ、奉天、吉林、黑龍江及熱河省ノ漢民族ノ居住スル者多キ農業地帯ニ於ケル夫ト、興安各分省ノ蒙古人遊牧地帯ニ於ケルモノトノ間ニ在リテハ大ニ其ノ趣ヲ異ニセリ。  
農業地帯 奉天、吉林、黑龍江及熱河省等ニ於ケル農業ハ所謂畜農業ニシテ、畜産ハ農業ノ一部門トシテ存立發達シ、農業中重要ナル一部門ヲ形成セリ。之等ノ地方ニ於ケル農家ハ耕作ニ必要ナル牛、馬、騾、驢等ノ役畜ヲ飼養スルト同時ニ、餘剩穀糞稈類、稗糠類、厨房ノ殘物等ヲ飼料トシ、或ハ附近ノ原野、收穫後ノ耕地等ヲ放牧地トシテ利用シ、且老幼婦女子等ノ餘剩勞力ヲ以テ各種家畜飼養ヲ飼養シ、此等役畜及用畜ノ畜力及畜産物ノ利用ハ盡シ得テ剩スナシ。即チ漢民族農家ハ耕土、播種、中耕等ノ圃場作業、肥料及收穫物ノ運搬等ニ役畜ヲ使用スルノミナラス、脱穀、精穀、製粉等ニモ牛馬ヲ使用シ又家畜家禽ノ生産物ハ皮、毛、肉、卵等ハ勿論、糞尿ニ至ル迄餘ス所ナク有効ニ之ヲ利用ス。從ツテ此等



ノ地方ニ於ケル畜産ハ農業ニ於ケル他ノ部門耕種ト關聯シ、完全ニ農業經營中ニ織込まレ、農業經營上必要缺クヘカラサル一要素ヲ爲ス。

舊蒙地域 興安各分省ニ於ケル蒙古人ハ牧畜ヲ以テ唯一或ハ主要ナル生業トナシ、畜産ハ概ネ耕種ト關聯ナク獨立シ、或ハ半獨立シテ經營セラル。現在ノ蒙古人ノ生業ハ地方ニ依リ異リ、興安嶺山脈西北呼倫貝爾（興安北分省）等ノ蒙古人ハ全ク耕種ヲ營マス遊牧ヲ事トシ、牧畜ヲ以テ唯一ノ生業トス。然ルニ興安嶺山脈東南方地帯ノ者ハ概ネ穀作ヲモ營ミ、半農半牧ヲ以テ生業トセリ。又奉、吉、黑、熱各省ノ舊蒙古地域ニ居住スル者ハ現在概ネ漢民族ト同様ニ農業ヲ營メリ。斯ク舊蒙古地域ニ專ラ牧畜ノ行ハルル所以ハ、元來蒙古民族カ遊牧民族トシテ牧畜ヲ以テ唯一ノ傳來生業トスルノミナラス、蒙古ノ土地カ大半砂地又ハ強アルカリ性ノ不可耕地ニシテ氣候亦乾燥ニ過キテ耕種ニ適セサルカ爲ナリ。

飼養管理狀況 我國ニ於ケル家畜飼養管理ノ方法ヲ見ルニ、一般ニ甚タ粗放ナルモ、尙滿洲ノ農業地帯ト、蒙古ノ牧畜地帯トニ於テハ稍々其ノ方法ヲ異ニス。蒙古ノ遊牧地帯ニ於テハ何レノ家畜モ年中山野ニ放牧飼養シ、穀類、乾草等ノ飼料ヲ給スルコト殆ト皆無ノ狀態ナリ。然ルニ滿洲ノ農業地帯ニ於テハ役畜及豚ニハ大低年中飼料ヲ給與シ、役畜以外ノ牛、羊等ニモ冬期ノミヲ補給セリ。然レトモ此ノ地方ニ於テモ餘地アレハ可及的山野ニ放牧セントスルヲ見ル。

畜舎ハ農業地帯ニノミ見ラレ、粗末ナルモノヲ築造シテ夜間家畜ノ收容ニ充ツルモ、純牧地帯ニ於テハ畜舎ノ設備全然無ク、野外ニ放置ス。

家畜ノ繁殖育成等ニ關シテハ、漢民族、蒙古人共ニ概ネ之ヲ自然ニ放任シ、人爲的保護ヲ加ヘルコト薄シ。去勢ハ農業地帯、純牧地帯ヲ通シ遍ク行ハル。

### 三家畜ノ資質

凡ソ生物ハ環境ノ產物ニシテ家畜ト雖モ其ノ支配ヲ免レス、其ノ生育生存スル風土ノ適否ト之ヲ飼養スル人ノ文化ノ如何ニヨリ資質ヲ異ニス。滿蒙ノ風土ヲ見ルニ土壤ハ一部地方ヲ除キ概ネ肥沃ナルモ、氣候概シテ寒冷ニシテ冬期長ク、且大陸性氣候ハ冬季ノ寒氣、夏季ノ暑熱共ニ酷烈ニ過キ、家畜飼養上眞ニ惠マレタル氣候ト稱シ難シ。從テ我國十二於テ優良ナル改良家畜ヲ飼養セント欲セハ、自然的惡條件ニ對シ人爲的保護ヲ必要トスルヤ切ナリ。然ルニ住民ハ未タ一般ニ家畜改良及改良家畜飼養ノ知識ニ缺クル所尠カラズ。斯クノ如キ自然的及人的環境ニ生存スル滿蒙ノ家畜ノ資質ノ良好ナラサルハ蓋シ當然ノ事ト謂ヒ得ヘシ。即チ我國ノ家畜ハ其ノ種類ノ何レヲ問ハス、起源以來全ク人爲的改良淘汰ヲ受ケサル原始的土產家畜ニシテ、假令滿蒙ノ風土ニ適シ民度ニハ相應スルモノナリトモ、其ノ能力竝利用價值ニ至ツテハ劣等ニシテ時勢ノ要求ニ適合セサルモノアリ。

主要家畜ノ資質ニ就キ略述スルニ次ノ如シ。

牛 我國在來種トシテハ滿洲牛、蒙古牛ノ二種アリ。前者ハ吉林、奉天兩省ノ東部長白山脈地帯ニ産シ、後者ハ蒙古及滿洲西部ノ平原地帯ニ産ス。奉天、吉林、黑龍江及熱河省ニ於ケル漢人農家ハ牛ヲ役肉兩用ニ供シ、興安各分省其ノ他ノ蒙古人ハ牛ヲ乳、肉、役用ニ供セリ。

蒙古牛及滿洲牛ハ何レモ晚熟土產牛ニシテ、毛色體型體軀等兩者略相似シ一般ニ體軀矮小ナリ。其ノ體高體重ノ限界ヲ見ルニ次ノ如シ。



種別	體高	體重
北牛	一〇〇—一二〇	二〇〇—三〇〇
關牛	一一〇—一二五	三〇〇—四五〇
牝牛	一〇五—一二五	二五〇—四〇〇

牝牛體高比較表

蒙古牛	一〇七・五五(+)・〇・二三九	(興安南省產牛二〇〇頭均)
滿洲牛	一一二・二六(+)・〇・四一一	(關東州產牛五〇頭平均)
北鮮牛	一二七・九二(+)・〇・五五三	(朝鮮平安北道產牛五一頭平均)
南鮮牛	一一七・六六(+)・〇・一六〇	(同慶尚北道產牛二〇〇頭平均)
見嶋牛	一一六・三六(+)・〇・一九九	(日本山口縣見嶋產牛二〇〇頭平均)
褐毛肥後牛	一一二・七九(+)・〇・二〇〇	(同岡山縣產牛二五〇頭平均)
神戸牛	一一七	(同廣島縣產牛一〇二頭平均)

右ニ見ル如ク蒙古牛及滿洲牛ハ朝鮮牛及日本牛ニ比シ體軀矮小ニシテ、役牛トシテ輓曳力弱ク速力遲シ。肉牛トシテハ體軀矮小ナル爲、枝肉量及肉量少ク、枝肉歩止リ良好ナラス。又兩種共甚シク晩熟ニシテ肥膩性ニ欠ケリ。且肉質ハ水分多量ニシテ筋束間ノ脂肪ノ沈積少ク、味良好ナラス。

上述ノ如ク役肉牛トシテノ滿蒙牛ノ第一ノ缺點ハ體軀矮小ナルコトニアルモ、特ニ牝牛ハ一般ニ體軀矮小纖細ニ過キ、役牛トシテ使役シ得サルノミナラス、肉牛トシテモ極メテ劣等ナリ。關牛ハ牝牛ニ比シ體軀稍々大ナルモ、猶役肉用トシテ充分ノ體軀ノ大サヲ有スルモノハ全體ノ二割程度ニ過キス。

馬、騾及驢 馬ハ總テ所謂蒙古馬ニシテ、蒙古及滿洲各地ニ生産ス。蒙古馬ハ矮小ニシテ體高普通一二〇—一四〇、平均一三〇、種内外ナリ。外貌粗野ナルモ骨格太ク、體ノ構造均衡ヲ得四肢強健ナリ。蒙古馬ハ粗放ナル飼養管理ニ耐エ、

持久力ニ富ム長所ヲ有スルモ、體軀矮小ナルカ故ニ體格強大ニシテ輓曳量、負擔量、速力ニ優レタル改良馬ニ比スヘクモアラス。

騾ハ體高普通一三〇—一六〇、種ニシテ蒙古馬ヨリ稍々大ナリ。馬ニ比シ更ニ粗食、粗管理ニ堪ヘ、飼料處置量少シ。滿洲ニ於ケル騾ニハ頭排騾子及二排騾子ノ二種類アリ、前者ハ牝馬ニ大驢(西驢)ヲ配シ、後者ハ牝馬ニ小驢ヲ配シタルモノナリ。

驢ニハ大驢及小驢ノ二種アリ、大驢(西驢)ハ體高一二〇—一五〇、種ニシテ、山東、河北省地方ヨリ輸入セラレ、種トシテ騾ノ生産ニ使用セララルモノハ重ニ小驢ニシテ體高八八—一〇〇、種程度ナリ。

綿羊 綿羊ハ産地ニヨリ多少體軀ノ大小、體型ヲ異ニスルモ、凡テ蒙古種ナリ。生體量四〇—七〇、牝三〇—五〇、程度ニシテ、體ノ幅廣ク四肢細ク強健ナリ。尾ハ特殊ナル形狀ヲ有シ廣クシテ多量ノ脂肪ヲ沈積シ、其ノ形圓形ニシテ體ノ後方ヲ蔽フ。

蒙古羊ハ肉羊トシテ良好ナルモ、體軀稍々小、屠體中精肉少量、脂肪過多ナルヲ缺點トス。滿鐵農事試驗場ノ試驗成績ニ依レハ、肥臘セル蒙古羊一六頭ノ平均生體量五〇、屠體歩合五三%、精肉歩合三四%、脂肪歩合一三%ニシテ、脂肪歩合ノ多量ナルハ脂肪尾ノ有ル爲ナリ。

蒙古羊ノ産毛能力ハ極メテ劣等ニシテ、産毛量少キノミナラス毛質亦不良ナリ。滿鐵農事試驗場ノ試驗成績ニヨルニ蒙古羊ノ産毛量次ノ如シ。



種別	平均別毛量			計	剔毛延頭數			剔毛直後平均生體量
	春季	秋季	冬季		春季	秋季	冬季	
蒙古羊 牝	0.10	0.00	0.00	1.10	11	11	11	
蒙古羊 牡	0.10	0.00	0.00	1.10	11	11	11	
メリノ 牝	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0	0	
メリノ 牡	0.00	0.00	0.00	0.00	0	0	0	

蒙古羊毛ハ粗毛 (Fair) ト絨毛 (Wool) ト混生シ、粗毛ハ更ニ普通ノモノトケンブ (Kemp) トニ分タル。蒙古羊毛ノ絨用原料トシテノ大ナル缺點ハ粗毛ノ存スルコトニシテ、從ツテ纏絡性縮絨性ニ乏シク、繊細ナル毛絲ノ紡績不能ナル爲、下等羅紗、毛布、フェルト、絨氈等ノ原料トシテ利用セラルルノミナリ。然レトモ蒙古羊皮ハ毛量少ナル爲、毛皮トシテハ比較的良好ナリ。

豚ハ漢人種ノ最モ愛好スル肉畜ニシテ到ル處ニ飼養セラレ、其ノ頭數ハ我國家畜中最モ多シ。元來我國ノ豚ハ南方ヨリ漢人ノ移住ト共ニ移入サレシモノニシテ所謂支那豚ナリ。大型、中型、小型ノ三種アリ。三種ノ生體量、成熟期間等次ノ如シ。

種別	成熟期間	成熟時體量	形	態	分布區域
大型種	二年—二年半	三〇〇—四〇〇斤	耳極メテ大ニシテ下垂シ、胴長ク、頸及體ニ多數ノ皺ヲ有シ尻ハ急傾斜ス	新京地方ヲ中心トシ開原地方迄分布ス、頭數少シ	
中型種	一年半—二年	三〇〇斤内外	耳ハ大型種ヨリ短ク、胸稍短シ、頸及體ニ皺アレトモ少シ	遼陽、蓋平ヲ中心トシ各地方ニ分布ス	

小型種 一年—一年半 一七〇斤内外 耳小サク立チ、頸ノ皺極メテ少シ、被毛短ク皮膚薄シ 遼西地方ヲ主トシ殆ソト全滿ニ分布ス

支那豚ハ蕃殖力強ク、多産ニシテ一腹能ク一〇—一五ノ仔豚ヲ産ム。然リト雖モ體ノ幅狹ク肉付不良ニシテ、屠體歩合少ク且一般ニ晩熟ナリ。滿鐵農事試驗場ノ試驗ニヨル滿洲豚ノ發育及屠殺成績ハ次ノ如シ。

種別	生 産 時 満 六 ケ 月 滿 十 二 ケ 月
パルクシャヤ種 (關)	一〇・六五
滿洲種 大型	〇・九二九
〃 中型	〇・八四六
〃 小型	〇・八〇一

屠體歩合

種別	頭數	月齡	生産量	屠體量	内臟量	骨量	皮量	利用部分
パルクシャヤ種	六	一	1.10%	6.0%	9.0%	11.0%	6.0%	7.0%
滿洲種 大型	九	一	1.10%	6.0%	9.0%	11.0%	6.0%	7.0%
〃 大型	四	一	1.10%	6.0%	9.0%	11.0%	6.0%	7.0%
〃 中型	九	一	1.10%	6.0%	9.0%	11.0%	6.0%	7.0%
パルクシャヤ種 雜種	九	一	1.10%	6.0%	9.0%	11.0%	6.0%	7.0%
滿洲種 中型	九	一	1.10%	6.0%	9.0%	11.0%	6.0%	7.0%
滿洲種 小型	九	一	1.10%	6.0%	9.0%	11.0%	6.0%	7.0%



八二〇  
雞 鶏ハ國內到處ノ農家ニ飼養セラレ、凡テ土産ニシテ、羽毛ハ茶、漣、黒、白等種々アリ、體型亦雜然タリ。一般ニ小ニシテ普通體量一・二—一・三疋、年産卵數一〇〇個内外ナリ。

#### 四畜 疫

我國畜産界ニハ由來家畜傳染病多ク牛疫、牛肺疫、炭疽、鼻疽、流行性驚口瘡(口蹄疫)、豚コレラ、豚疫、羊痘、家禽コレラ、狂犬病、畜牛結核等ノ各種家畜禽傳染病アリ、屢々各地ニ流行猖獗ヲ極メ、年々多數ノ家畜之カ爲ニ斃死セリ。蓋シ從來獸疫ノ豫防制遏ニ關シ何等施設スル處ナク、住民亦人畜衛生ニ關スル智識ナキニ基クモノニテ、獸疫ニ依ル損害ハ實ニ莫大ナルモノアリ。建國以來コレニ對シ適當ノ措置ヲ講セルモ獸醫警察ニ關スル施設未タ完備セサル現狀ニ於テハ遺憾ナカラ防疫充分ナラス、又損害高モ正確ニハ之ヲ知ルヲ得サルモ、推定ニヨレハ獸疫ニ依リ斃死スル各家畜ノ頭數ハ毎年各總頭數ノ二—三%乃至十數%ニ上リ、大小家畜合セテ斃死頭數約一萬頭、其ノ損害二千萬圓以上ニ達スヘシ。而シテ右推算ニ於テハ斃死ニ至ラサル罹病家畜ノ損害ヲ加算シアラサルヲ以テ、之ヲ考慮ニ容ルルトセンカ、實際ノ被害ハ更ニ甚大ナリト謂ビ得ヘシ。斯クシテ獸疫ノ流行猖獗ハ管ニ農家其他ニ多大ノ經濟的損害ヲ與フルノミナラス、我國ノ畜産界ハ之ニ依リ多大ノ脅威ヲ受ケ其ノ發達ヲ阻害セラレ、且ツ畜産資源ノ利用價值ヲ著シク減殺スルモノナリ。茲ニ家畜傳染病ニ付其ノ概略ヲ記スルニ左ノ如シ。

牛 疫 本病ハ畜産界ニ於ケル一大脅威ニシテ、國境ノ鴨綠江、圖們江ノ沿岸地方ニハ絶エス其ノ發生ヲ見ル狀態ナリ。民國十五年頃ニハ洮南、通遼方面及本溪湖、鞍山附近ニ大流行ヲ見タリ。最近ニ於テハ大同二年晚秋ヨリ復縣及莊河縣方

面ニ多數發生セリ。之カ豫防ニ關シテハ免疫血清及豫防疫ノ應用ヲ試ム。

牛肺疫 本病ハ慢性傳染病ニシテ牛屬ヲ胃ス。殊ニ潜伏期比較的長ク豫防防遏上之カ爲困難ヲ覺エ、病畜ハ國內ノ諸家畜市場並ニ屠場ニ於テ時ニ發見セララルニ過キササルモ、大同元年ニハ甚タシキ流行ヲ見、畜産界ニ大脅威ヲ與ヘタリ。

口蹄疫 散發的ニ其ノ發生ヲ見、大同元年ニハ南部蒙古及奉天省内ニ罹病セルヲ發見セリ。

氣腫疽 北滿西部地方ニテ時ニ發生スルモ南滿地方ニハ殆ント之ヲ見ス。

鼻 疽 慢性傳染病ニシテ我國ノ特殊病トモ謂フヘク、到ル處馬屬ニ廣ク蔓延シ居ル狀態ナリ。鼻疽ハ人ニモ感染スルモノニテ殊ニ北滿地方ニ多發ス。之カ傳染ニ依リ人命ヲ奪フモノ少カラスト認メラル。本病ノ治療法豫防方法ハ共ニ未發見ナルハ遺憾トスル所ナリ。

炭 疽 急性傳染病ニシテ凡ユル家畜ニ感染發病スルノミナラス人體ニモ感染ス。本病ハ季節的ニ流行スルコトアルモ概シテ散發的ニ發生ス。最近ノ發生狀態ヲ見ルニ殊ニ北滿地方ニ多ク、大同元年黑龍江省境內嫩江沿岸訥河、嫩江、甘南地方ニ大流行シ、同地方家畜ハ殆ント全滅ニ陥リタリ。大同二年ヨリ康德元年ニ亘リ其ノ餘菌擡頭シ、黑河、瑗瑗、克山方面ニ散發シ、更ニ甘南縣四方山、龍江縣、七棵樹方面及ヒ齊々哈爾市内等ニモ發生、北鐵沿線海拉爾、博克圖方面ニモ最近續發セリ。之等蔓延ノ原因ハ大同元年ニ於ケル大水害ニ因ル所大ナル如シ。

畜牛結核 本病ハ國內ノ乳牛ニ著シク多ク、實ニ六十パーセント以上ノ多數ヲ見ル。之レハ其ノ豫防上ニ就テ何等ノ規定ト取締ノ無カリシニヨルモノニシテ、マタ從來國外ヨリ淘汰サレシ不良乳牛ノ輸入ニヨルモノト認メラル。

豚コレラ 本病ハ急性又ハ慢性ノ傳染病ニシテ其ノ死亡率ハ約八十%ナリ。傳播力モ甚タ速カニシテ全群ノ飼豚ヲ胃シ養豚業者ニ多大ノ損害ヲ與フルコト珍シカラス。大同元年全滿ニ流行シ最近ニ於テモ滿鐵沿線鐵嶺、安東、鞍山方面ニ散



發シ居ル状態ナリ。

豚痘 本病モ亦急性又ハ慢性ノ傳染病ニシテ殊ニ中豚以下幼豚ヲ冒スコト多シ。全國到ル處ニ年々散發シ、多クノ場合豚コレラト併發ス。

羊痘 北滿及内外蒙古羊ニ廣ク蔓延シ、屢々鐵道沿線ニモ侵入ス。本症ニ冒サルル時ハ斃死損失ノ外ニ肝要ナル羊毛ノ損害モ顯著ナルモノアリ。又本病ハ治癒ノ後モ健康恢復期間ハ極メテ長ク、其間營養衰へ毛質ハ著シク粗惡トナルモノナリ。

東瀛コレラ及家禽ベスト 家禽コレラハ比較的其ノ發生少キモ、家禽ベストハ家禽ニ最モ恐ルヘキ急性傳染病ニシテ時ニ家禽全滅ノ慘ヲ招クコトアリ。地方ニ依リ季節的ニ流行シ、殊ニ秋ヨリ冬ニ亘リ大流行ヲ見ルコトアリ。狂犬病 一般ニ本邦人ハ好ンテ多數ノ犬ヲ飼フ風習アリ、從ツテ狂犬ノ發生スルコト尠シトセス、之カ爲犠牲者モ亦多數ニ上ルヘシ。

### 五 屠畜場及屠畜數

我國人ノ生活ニ役畜ノ缺クヘカラサルト同シク、肉類ハ食料トシテ最モ重要視セラルル所ナリ。住民ノ大半ヲ占ムル漢民族ハ一般ニ牛肉ニ比シテ豚肉ヲ賞用スル爲、屠畜數ニ於テモ豚其ノ首位ヲ占ム。但シ慣習上或ハ宗教上禁忌スルモノモアリ。例ヘハ回教徒ハ豚肉ヲ一切用ヒス羊肉、牛肉ヲ食シ、又蒙古ニ於テハ主トシテ羊肉ヲ攝リ豚肉ヲ用フルコト少キカ如シ。此ノ他一般ノ食用ニ供セラルルモノトシテ鶏肉、鶏卵アリ。

### 屠畜場

民政部衛生司大同二年度調査ノ結果ニ據レハ合計九十九ヶ所ニシテ、之ヲ屠殺種類別ニ見レハ次ノ如シ。

豚、牛、羊	四五箇所	豚、牛	二箇所
豚、羊	一〇〇	牛	一
豚	三〇〇	計	九九
牛、羊	二〇〇		

尙之ヲ營業別ニ見レハ官立八三、市立五、私立一〇、日滿合辦一ナリ。

屠畜數 右九九箇所ノ屠殺場ノ屠殺數ニ就キテノミ判明スルニ過キササルモ、各地方別ニ開示スレハ次ノ如シ。

地方別	屠畜場數	牛	羊	豚	計
奉天省	六五	五三、四五三	六三、一五八	二一八、九四一	三三三、五五二
吉林省	二二	九、五一六	七、二四八	五二、二九四	六九、〇五八
黑龍江省	五	三、三三四	五、三一六	二四、四〇八	三三、〇四八
新京特別市	二	二、〇〇〇	一、四四〇	一三、二〇〇	一六、六四〇
哈爾濱特別市	三	二七、五四〇	二五、八六〇	一一七、三六〇	一七〇、七六〇
北滿特別區	二	一、一〇四	一一、八九三	五四四	一三、五四一
計	九九	九六、九三七	一一四、九一五	四二六、七四七	六三八、五九九

尙各省屠畜數ヲ各縣別ニ見レハ次表ノ如シ。

### 奉天省各縣別屠畜數

(大同二年實業部調査)

縣別	牛	羊	豚	計
撫天市	八、六四〇	一、九三三	六、六八〇	一七、二五三
撫順市	五〇〇	一、八九八	三、三三三	六、六六〇



縣別	牛	羊	豚	計
法昌	1,000	1,000	1,000	3,000
梨樹	2,000	2,000	2,000	6,000
懷德	3,000	3,000	3,000	9,000
突泉	4,000	4,000	4,000	12,000
洮安	5,000	5,000	5,000	15,000
通榆	6,000	6,000	6,000	18,000
新通榆	7,000	7,000	7,000	21,000
遼寧	8,000	8,000	8,000	24,000
雙陽	9,000	9,000	9,000	27,000
北安	10,000	10,000	10,000	30,000
義和	11,000	11,000	11,000	33,000
錦州	12,000	12,000	12,000	36,000
興安	13,000	13,000	13,000	39,000
綏化	14,000	14,000	14,000	42,000
計	100,000	100,000	100,000	300,000

縣別	牛	羊	豚	計
遼陽	1,000	1,000	1,000	3,000
安平	2,000	2,000	2,000	6,000
東遼	3,000	3,000	3,000	9,000
遼寧	4,000	4,000	4,000	12,000
通遼	5,000	5,000	5,000	15,000
金州	6,000	6,000	6,000	18,000
海州	7,000	7,000	7,000	21,000
通遼	8,000	8,000	8,000	24,000
遼寧	9,000	9,000	9,000	27,000
遼陽	10,000	10,000	10,000	30,000
遼寧	11,000	11,000	11,000	33,000
遼陽	12,000	12,000	12,000	36,000
遼寧	13,000	13,000	13,000	39,000
遼陽	14,000	14,000	14,000	42,000
計	100,000	100,000	100,000	300,000

縣別	牛	羊	豚	計
遼陽	1,000	1,000	1,000	3,000
遼寧	2,000	2,000	2,000	6,000
遼陽	3,000	3,000	3,000	9,000
遼寧	4,000	4,000	4,000	12,000
遼陽	5,000	5,000	5,000	15,000
遼寧	6,000	6,000	6,000	18,000
遼陽	7,000	7,000	7,000	21,000
遼寧	8,000	8,000	8,000	24,000
遼陽	9,000	9,000	9,000	27,000
遼寧	10,000	10,000	10,000	30,000
遼陽	11,000	11,000	11,000	33,000
遼寧	12,000	12,000	12,000	36,000
遼陽	13,000	13,000	13,000	39,000
遼寧	14,000	14,000	14,000	42,000
計	100,000	100,000	100,000	300,000







荒廢ヲ告クルニ至リタリ。

斯ノ如クシテ、木材ハ漸次經濟的貨物トシテノ價值ヲ加ヘ來リタルカ、時ノ政府之カ管理ヲ策セス、經營亦何等施ス所ナク、移住民ノ濫伐ニ委ネ居タル後、光緒三、四年ノ頃ニ至リ初メテ大東溝ニ木稅局設置セラレ、茲ニ漸ク組織的ナル林業經營ノ端緒ヲ見タリ。其ノ後同十八年官商合辦ノ木植公司設立セラレタルモ、年ト共ニ經營當ヲ失シ、爲ニ商民ノ怨恨ヲ買ヒ經營頗ル困難ニ陥レリ。時恰モ北方ヨリ侵入シ來レル露國ハ、此ノ機運ニ乘シテ新ニ森林會社ヲ設立シ、活動ヲ開始スルニ至レル結果、木植公司ハ多大ノ打擊ヲ蒙リタリ。現在森林開發ニ最モ盡シツアル鴨綠江探木公司ノ設立セラレタルハ清朝光緒三十四年ノコトナリ。

次ニ吉林方面ノ森林ハ、長ク圍場或ハ貢山區域トシテ人民ニ對シ禁伐鍵鑿ノ政策ヲ採レル爲、大天然林トシテ存置セラレシカ、此ノ制ヲ廢スルニ及ヒ山東移民來リテ伐採ニ從ヒ、漸次農耕地ト化スルニ至レリ。其ノ後光緒三十三年吉林省當局ハ吉林省城ニ林業公司ヲ設立シ、森林ノ管理ヲモ行ハシメタルモ、收支相償ハス營業年餘ニシテ休止シ、爾來今日迄多數林業會社ノ設立ヲ見タルモ多クハ失敗ニ終レリ。

北滿鐵路沿線ニ於ケル森林ノ開發ハ該鐵道ノ建設ト共ニ始マル。即チ露國ハ同鐵路ノ建設材料及燃料用トシテ盛ニ材木ヲ採伐シ、且鐵路當局ハ自ラノ必要ト露人ノ移住獎勵トヲ兼ネ、民間移住者ニ幾多ノ便宜ヲ與ヘタルヲ以テ、露人ノ租借林區ノ此方面ニ存スルモノ多シ。

斯ノ如ク滿洲ノ森林ハ移民ノ開拓ニ從ツテ或ハ燒カレ或ハ濫伐ヲ蒙リ、逐年荒廢ニ赴クノミナリシカ、民國時代ニ入り同元年民國政府初メテ東三省國有林發放規則ヲ公布シタリ。同規則ハ國家直接經營スル場合以外ノ國有林拂下ニ關シテ規定スルモノニシテ、之ニ依リ森林ノ收益ヲ舉クル爲濫伐ヲ抑制シ、林力ノ保續ヲ圖ラントシタルモ、其ノ結果ハ却ツテ

林場ノ設定簇出シ、森林ノ破壞ヲ助長シ、累ヲ今日ニ殘スニ至レリ。

建國直前ニ在リテハ、森林行政ノ監督官廳トシテ各省ニ實業廳アリ、奉天省ニ在リテハ實業廳ノ下ニ地方ニ林區駐在所ノ設アリテ國有林ノ管理、伐採木ノ檢査及國有林管理費ノ徵收業務ヲ行ヒ、又吉林省ニ於テ國家指定ノ國家直營林場ヲ管理スル爲ニ延吉ニ延琿森林事務所ノ設アリタルノミニテ、其ノ他ノ各地方ニ於テハ兩省共ニ各地方廳ニ夫々擔任者ヲ置キ、主トシテ林木ノ短期拂下ヲ行ハシメ居リタルモノニシテ經營上何等見ルモノナカリキ。

尙北滿鐵路東部線沿線ノ森林ニ關シテハ、其ノ伐採ノ法律關係特殊ナル爲、從來其ノ管理機關ヲ異ニシ、初メ木植公司之ニ當リシカ後二三ノ變遷ヲ經テ、民國五年以來哈爾濱木石稅費總局ノ管掌スル所トナリ建國後ニ及ヘリ。(後哈爾濱木石稅捐局ト改稱ス)

林政上ノ施設 建國以來政府ハ諸制度ノ改革ヲ實施スルニ當リ、林政ニ就テモ方針ヲ定メ、中央地方ニ於ケル機關ノ整備充實ヲ計リ、林業ノ合理的經營ノ爲着々施設ヲ行ヒツツアリ。

林務司ノ獨立 建國ノ當初ヨリ林野行政ハ實業部ノ所管ニ屬シ、先ツ農務司ヲ置キテ之ヲ司掌セシメタルカ、次テ大同二年九月三十日鑛務司ノ獨立ト共ニ農林司ヲ置キテ之ニ當ラシメ、康德元年三月十五日更ニ林務司ヲ獨立セシムルコトトナリ、同林務司ニ林政林業兩科ヲ置キ林野行政及國有林ノ管理經營ニ任シツツアリ。

森林事務所ノ設置 建國後暫ク森林經營ノ監督及其ノ實施ハ各省各縣ノ地方行政機關ニ委ネ居タルモ斯クテハ充分ナル業ヲ舉クルコト不可能ナルヲ以テ、先ツ實行機關ノ設立改善ヲ必要ト認メ、大同二年十月中央銀行ニ於テ伐採權ヲ有セシ林場ヲ同行ヨリ接收スルト共ニ、大同三年一月十八日實行機關タル森林事務所官制ヲ公布シ、同年二月三日吉林省額穆縣蛟河、及敦化縣敦化ニ兩森林事務所ヲ設置シ、同日吉林省公署ノ所管ニ係ル延琿和江森林事務所ヲ實業部ノ直轄ニ移



シ、延琿森林事務所ト改稱シ、次ニ康德元年三月七日吉林省五常縣五常、及黑龍江省龍鎮縣北安鎮ニ森林事務所ヲ、同日又海倫ニ、六月九日黑河ニ北安鎮森林事務所出張所ヲ設ケ、局部的ナルモ實業部ノ直轄機關トシテ國有林經營ノ第一歩ヲ踏ミ出シタリ。進ンテ十月奉天省ノ林區駐在所ヲ實業部直轄ニ移スト共ニ更ニ十五個所ノ森林事務所ヲ設置スルニ及ヒ、局部的ヨリ略全般的ニ實行機關網ノ配置ヲ見ルニ至リタリ。現在森林事務所ノ名稱、位置及管轄區域左ノ如シ。

森林事務所ノ名稱位置及管轄區域

各縣	位置	管轄區域
敦化森林事務所	敦化縣敦化	敦化縣一圓
蛟河森林事務所	額穆縣蛟河	永吉縣一圓、額穆縣大部(牡丹江本支流域)、樺甸縣一部(松花江本支流域但シ松花江輝發河合流點ヨリ上流域ヲ除ク)、磐石縣一部(瑪馬河流域)
延吉森林事務所	延吉縣延吉	和龍縣及延吉縣一圓、汪清縣大部(嘎呀河流域)、安圖縣一部(豆滿江本支流域)
五常森林事務所	五常縣五常	舒蘭縣及五常縣一圓、額穆縣一部(拉林河流域) 蕪河縣一部(牝牛河及沖河流域)
北安鎮森林事務所	龍鎮縣北安鎮	通化縣大部(占河及通肯河流域ヲ除ク)、龍鎮縣大部(鎮清河及科洛河流域ヲ除ク)
安東森林事務所	安東縣安東	鳳城縣安東縣及本溪縣一圓、岫巖縣大部(大洋河流域)、寬甸縣、輯安縣、臨江縣及長白縣大部(鴨綠江流域但シ渾江流域ヲ除ク)、興京縣一部(太子河流域)
通化森林事務所	通化縣通化	桓仁縣及通化縣一圓、寬甸縣、輯安縣及臨江縣一部(渾江流域)
朝陽鎮森林事務所	海龍縣朝陽鎮	東豐縣、海龍縣、金川縣、輝南縣及清源縣一圓、興京縣大部(蘇子河流域) 磐石縣大部(輝發河本支流域)、西豐縣一部(清河流域)
撫松森林事務所	撫松縣撫松	嫩江縣及撫松縣一圓、樺甸縣一部(松花江本支流域但シ松花江輝發河合流點ヨリ二道河頭道白河合流點迄) 長白縣一部(松花江流域)
安圖森林事務所	安圖縣安圖	安圖縣大部(松花江流域)、樺甸縣一部(松花江流域但シ二道河頭道白河合流點ヨリ上流域)
琿春森林事務所	琿春縣琿春	琿春縣一圓

穆稜森林事務所	穆稜縣穆稜
寧安森林事務所	寧安縣寧安
依蘭森林事務所	依蘭縣依蘭
通河森林事務所	通河縣通河
湯原森林事務所	湯原縣湯原
綏化森林事務所	綏化縣綏化
海倫森林事務所	海倫縣海倫
嫩江森林事務所	嫩江縣嫩江
黑河森林事務所	瑯琿縣黑河

東寧縣、密山縣及穆稜縣一圓、汪清縣一部(松谷河流域)  
 寧安縣一圓  
 依蘭縣及勃利縣一圓、方正縣一部(牡丹江流域、樺川縣及費清縣一部(王媽河流域))  
 鳳山縣、木蘭縣、通河縣及延壽縣一圓、方正縣一部(松花江流域)  
 湯原縣一圓、龍北縣南半部(黑龍江第四谷哨所ヨリ下流)  
 東興縣、綏化縣、慶城縣及鐵嶺縣一圓、海倫縣一部(諾敏河流域)  
 海倫縣大部(諾敏河流域ヲ除ク)、通化縣一部(通肯河流域)  
 嫩江縣大部(老萊河流域ヲ除ク)、龍鎮縣一部(科洛河流域)  
 瑯琿縣、漠河縣、圖們縣、呼蘭縣、奇克縣、通河縣、烏靈縣及佛山縣一圓、龍北縣北半部(黑龍江第四谷哨所ヨリ上流)、龍鎮縣一部(鎮清河流域)、通化縣一部(占河流域)

森林事務所ノ業務ハ其ノ官制ニ示スカ如ク管理區域内ニ於ケル國有林野ノ管理及事業ノ實行ニ關スル事務ヲ掌ル外、一般ノ需要ニ應ジ公私有林野經營ノ指導ヲ爲シ得ルコトナリ居レルカ、更ニ之ヲ具體的ニ述フレハ現在ニ於ケル主ナル業務ハ左ノ如シ。

- 一、森林調査
- 二、公私有林並私有林地ニ關スル調査
- 三、荒廢林地並原野調査
- 四、開墾適地並無墾開墾地調査
- 五、產物ノ處分
- 六、產物ノ検査
- 七、產物拂下代金徵收ニ關スル事務



八、運材ニ關スル諸施設  
九、生産費調査

- 一〇、木材出廻市場調査
- 一一、農民ノ自家用材及自家用薪炭材需給關係ニ關スル調査
- 一二、林野副業ニ關スル調査並獎勵

地方林務機關 各省實業廳ニハ農林科又ハ農務科アリテ、林業ニ關スル諸施設ヲ行ヒツツアリ。奉吉黑三省ノ國有林ニ關シテハ、上述森林事務所開設ノ結果、從來省ノ所管ニ屬シタル國有林管理機關廢止セラレタルモ、熱河省ニハ未タ森林事務所ノ設置ヲ見サル爲、從ツテ實業廳ニ對シ公私所有林ノミナラス國有森林ノ管理經營ヲモ委託ス。尙各實業廳ニ於テ苗圃造林場ヲ經營スルモノアルモ、將來ハ公私所有林ノ造成ノ必要加ハルニ從ヒ施設ノ擴充ヲ爲ス豫定ナリ。

林場權ノ整理 林場權ハ條約又ハ特殊協定ニ基クモノノ外、東三省國有林發放規則、國有林發放章程並其ノ施行法ノ附屬規定及遼寧省國有林整理暫行章程、吉林省填發臨時執照簡章及民國十三年黑龍江省森林局布告第四號等ニ依リ設定セラレタルモノニシテ、從來東三省ノ森林ハ無限ノ寶庫ナリト稱セラレ居ルモ、民國以來無定見無方針ニ國有林ノ長期伐採ヲ許可シタル爲（大同二年現在ノ林場數二五五、其ノ面積一二七、〇〇〇方滿里（但シ條約又ハ特殊協定ニ依ルモノヲ除ク）、運搬便利ナル地方ノ優良森林、殊ニ吉林省內ニ於ケン美林地ハ多ク此等承領者ノ手ニ歸シ濫伐セラレタルト、國家ノ森林ニ對スル保護管理殆ント顧ミラレサリシトニ依リ濫伐ト山火ノ爲荒廢甚シク、森林ノ現狀ハ寧口世人ノ期待ニ反スルモノアリ、此ノ儘推移スル時ハ白國木材ノ供給ニ不足ヲ來スヘキノミナラス、國土保安上ニモ憂慮スヘキモノアルニ付、康德元年六月九日林場整理法ヲ制定公布シ、之ニ依リ權利ノ歸趨ヲ明ニシ、林場權附帶國有林ノ施業取締ヲ嚴

ニシ、漸次國有林ノ合理的經營ヲ期セントス。

林場權ハ目下前配整理法ニ依リ本部ニ於テ審議中ナルモ、申請期日タル康德元年九月十日迄ニ之カ審定ノ申請ヲ爲ササルモノ一三〇餘件ナリ。

林場ノ發放 林場ニ付テハ建國以來之カ整理回收ニ努メツツアリ、新ニ之カ發放ヲ行ヒタルモノナシ。前記ノ如ク現存ノ林場トハ條約又ハ特殊協定ニ基クモノノ外、主トシテ東三省國有林發放規則、國有林發放章程並遼寧省國有林整理暫行章程等ニ依リ發布セラレタルモノニシテ、長期ノ國有林伐採許可ヲ意味ス。而シテ此等規則ニ依ル國有林木ノ拂下ハ雷ニ森林ヲ荒廢セシムルノミナラス、幾多ノ弊害ヲ伴フモノナルヲ以テ、大同元年十月訓令ヲ發シ、先ツ林場ノ發布ヲ停止スルト同時ニ、林場權ノ讓渡ヲ禁止セリ。次テ康德元年五月實業部ハ再ヒ訓令ヲ發シ、發放林場ノ執照ノ檢査並書替ヲ中止スルト同時ニ、從來各縣ニ於テ取扱ヒ來レル國有林短期伐採ヲモ禁止セリ。

即チ大同二年中ニ於テハ林場ノ發放ハ一件モナク、滿期ニ依リ林場權消滅セルモノ奉天省ニ於テ三十一件ニ及ヘリ。苗圃及模範造林場ノ設置 各地ノ森林カ濫伐、開墾、山火等ニ依リ逐次荒廢シツツアル爲、舊東北政權時代ニ於テモ造林ノ必要ヲ認メ、苗圃及造林場ヲ設置シ、森林造成ノ計畫ヲ樹テタリ。而シテ苗圃ニ付テハ既ニ第二章中ニ集録セルヲ以テ茲ニハ大同元年末現在模範造林場ヲ掲クルコトトス。

模範造林場

省別	縣別	別名	稱	創設時期	面積 (平方米)
奉天省	營口	第一模範造林場		民國十二年	2,100
遼寧省	遼東	第二模範造林場		同十九年	2,000
安東省	東遼	第三模範造林場		同十八年	1,100

第四編 產業 第四章 林業



省別	縣別	名稱	創設時期	面積(平方米)
奉天省	遼寧	第一模範分場	同二十三年	7,000
"	"	第二模範分場	同二十三年	10,000
"	"	第三模範分場	同十四年	10,000
黑龍江省	龍江	省立農林試驗場	民國十四年	11,000
計	計	計	計	37,000

森林調査 我國ノ森林面積ハ約三千五百六十萬陌其ノ立木蓄積約四十億立方米ト稱セラシ居ルモ、此等ノ數字ハ民國年間初期ノ調査ニ基クモノニシテ、其ノ實數明カナラス、速ニ之カ實狀ヲ知ルコトハ諸般ノ計畫上極メテ緊切ナルコトナリ。然ルニ山地ノ狀況ハ未タ大規模ニ亘ル地上調査ヲ許ササル狀況ニ在ルコトト、經濟關係トニヨリ航空機ニヨル調査ヲ最モ效果的ナリト認メ、康德元年四月吉林省老爺嶺山脈、長白山山脈、完達山山脈、察庫蘭山脈、黑龍江省小興安嶺山脈、興安省大興安嶺山脈ノ視察ヲ了リ、康德元年度ニ於テハ安圖、撫松、長白、臨江、濛江、樺甸、額穆、敦化、舒蘭、五常、寧安、和龍、延吉、琿春、汪清、方正、依蘭、勃利、葦河等各縣下ノ森林中主要ナルモノ約一五〇萬陌ノ垂直寫真撮影ヲ行フ豫定ナリ。

林產物處分 林木ノ短期伐採處分ハ、從來奉天省ノ如ク林區駐在所ニ依ル以外各省ニ於テハ之ヲ縣ニ委任シ行ハシメ居タルカ、森林ノ保護、國土ノ保安、出材ノ統制等ノ見地ヨリ自由處分ヲ禁シ、各省公署實業廳ニ申請セシムルコトト

シタル外、新設セラレタル森林事務所管内ニ於テハ、本部ニ於テ處分ノ許可ヲ與ヘ、森林事務所ヲシテ其ノ實行ニ當ラシメタリ。尤モ蛟河、敦化兩森林事務所ヲ除ク他ノ森林事務所ニ在リテハ、伐木事業期ノ中途ヨリ事務ヲ引繼或ハ新設ヲ見タル等ノ爲主トシテ無斷伐採ノ取締ニ任シ新規處分ハ少ナカリシモ、住民ニ對シ國有林ノ存在ヲ明ニシ、且森林ノ保護上少ナカラサル效果ヲ舉グルコトヲ得タリ。現在ニ於ケル林產物ノ處分ハ林木ニ在リテハ豫メ伐採ヲ許可シ、一定地ニ搬出セラレタル後之ヲ檢收處分シ居ル狀態ニシテ、林木利用上遺憾ノコトト認メ居ルモ、山地ノ實狀ヨリ已ムヲ得サル處ナリ。然レトモ短期處分ニ對シテハ可成迅速ニ立木拂下ヲ行ハンコトヲ期シ居ルモノナリ。

大同二年度ニ於ケル各森林事務所ノ林產物處分ハ左ノ如シ。

森林事務所別	一般用材	枕木	電柱	根柵	薪	木炭	足場丸太	坑木	雜木	金	額
敦化森林事務所	3,600	1,400	2,000	9,700	5,500	7,700	1,100	5,900	10,000	10,000	50,000
蛟河森林事務所	2,800	1,000	1,000	11,200	3,200	1,700	5,900	5,000	10,000	10,000	50,000
延吉森林事務所	11,700	1,000	1,000	11,200	3,200	1,700	5,900	5,000	10,000	10,000	50,000
北安嶺森林事務所	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
五常森林事務所	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
計	10,200	4,400	5,000	32,800	12,800	12,000	14,900	17,900	36,000	36,000	150,000

造林ト植樹節 我國ニ於ケル森林ノ更新ハ、立地ノ狀況ヨリ察シテ天然更新ニ依ルコト可能ナリト思料セララルカ故ニ、其ノ方法ヲ誤ラサレハ林力ノ保護ヲ期シ得ルモ、治水、防風、砂防等國土ノ保安、産業ノ保護、林野拓殖上進シテ荒廢山地及無立木平原地方ノ人工造林ヲ行ハサル可ラス。然レトモ造林事業ハ長年月ヲ要シ、且國家的事業ナルカ故ニ官民協力ヲ要スルノミナラス、民間事業トシテハ殊ニ我國民ノ如ク造林思想ノ幼稚ナル國ニアリテハ物質上ノ補助ヲ與ヘ、之ヲ奨



勵セサルヘカラス、即チ之カ爲ニハ國營苗圃ノ設置、官行造林ノ實行、民間造林事業ノ獎勵、愛林思想ノ普及ヲ必要トス。而シテ荒廢地復舊ノ急ヲ要スル地方ノ造林ハ主トシテ官行ニ依ルヘク、特ニ熱河省ニ於テハ大規模ノ造林ヲ行フ目的ヲ以テ調査ヲ行フヘク計畫中ナリ。國有林野トシテ存置ノ必要ナキ地帯ノ造林及無立木平原地方ノ造林ハ主トシテ地方機關又ハ民間事業トスルヲ適當トスヘク、之カ爲ニハ條件附荒廢地無償讓與ニ依ル造林組合及部落入會林ノ設立等ニ付考究中ナリ。造林思想ノ普及愛林思想ノ喚起ニハ自ラ樹ヲ植エ自ラ撫育セシメ之ヲ體得セシムルニ如カス。帝政實施記念事業トシ毎年穀雨ノ日(四月二十一日)ヲ以テ許可セラルルコトトナリタル植樹節ハ、即チ此ノ具現ニシテ、大同二年度ニ於テハ此ノ日苗木百萬本ヲ配付シ、全國主要都市ニ於テ綠化運動ヲ起シ、官民大衆ノ植樹ヲ行ヒタル外、學校苗圃設置ニ付助成シタリ。

**林業發展** 現在伐採セラレツツアル森林ノ荒廢ヲ防キ其ノ林力ノ保續ヲ圖ルコトハ、森林經營上現下ノ最大緊要事ナリ。仍テ天然更新法ニ關スル作業試驗ヲ行ヒ、其ノ作業法ヲ決定スル必要アリ。尙造林上ノ適樹適地試驗ニ俟ツモノ多シ。故ニ康德元年度ニ於テハ試驗林地ノ選定其ノ他之ニ伴フ計畫ヲ行フ豫定ナリ。

**農林技術員養成所ノ設置** 將來地方ニ於テ農林業ノ指導並實務ニ當ルヘキ技術者ヲ養成スル目的ヲ以テ康德元年八月八日農林技術員養成所ヲ設置シ、現在ハ寬城子ニ於ケル北滿特別區第七中學校ノ一部ヲ借用之ニ當テ居レリ。現在三十人ヲ收容ス。

以上ノ外林野ノ官民有區分、國有林野ニ就テハ要存置林野、不要存置林野ノ區分、要存置林野ニ就テハ施業案ノ編成、民有地上林木ノ所有權ノ確定、特種協定ニ依ル林場權ノ整理、條約ニ依ル森林經營權ノ規整、天然保存林ノ設定、勸業機關ノ充實等實施ヲ要スヘキ事項多ク、之等ハ財政ノ許ス限り且現地治安ノ許ス範圍ニ於テ速ニ其ノ實施ヲ期シ居ルモノナリ。

## 第二節 森林ノ現況

**森林分布** 滿洲ニ於ケル森林ヲ河流山脈等ノ自然的境界ト鐵道沿線ノ如キ人爲的境界トヲ以テ十大區ニ分チ、各區ニ就テ其ノ分布狀況ヲ見ルニ

**鴨綠江流域** 鴨綠江及渾江ノ合流點ヨリ其ノ水源ニ至ル區間即チ寬甸、輯安、通化、臨江、長白ノ諸縣ニ跨リテ連ル森林ハ、面積約六十六萬二千陌、其ノ現在立木蓄積量約七千六百萬立方米ナリ。然レトモ大江本流及各道溝ニ近キ平地ハ移民ニ依リ盛ニ伐採開墾セラレ、或ハ野火ノ害ヲ受ケタル等ノ爲昔時ノ林相ヲ失ヘリ。

本地域ノ森林ハ、奧地ニ進ムニ從ヒ潤葉樹ヲ主トスル散生林ヲ現シ、更ニ擇伐跡地タル針潤兩葉樹混生林ヲ經テ漸次針葉樹ノ數ヲ増加シ、分水嶺附近ニ於テ原生林ヲ見ルノ狀態ニアリ。而シテ大江流域ニ於テハ帽兒山ヨリ上流各道溝ノ上半部及長津江、南社水等ノ支流域ニ良好ナル森林ヲ保有シ、又渾江流域ニ於テハ通化以北ノ哈泥河、羅圈河、紅土崖、三岔子等ノ上半部ニ優良林アリト認メラル。之ヲ綜合スルニ本流域ニ於テ全蓄積量ノ五割五分、渾江流域ニ於テ四割五分ヲ占ムルモノト見ラル。

更ニ此等森林ノ保有スル林樹トシテハ紅松、杉松、黃花松等ノ針葉樹、水曲樹、胡桃楸、色木、柞、黃蘗木、榆刺楸、樺、楊、檀等ノ潤葉樹アルモ一般ニ散生地ハ殆ト潤葉樹ヨリ成リ、擇伐跡地ハ針葉樹四、潤葉樹六、之ニ反シテ原生林ニ至リ



テハ針葉樹六、闊葉樹四ノ割合ヲ以テ混淆セリ。

**圖們江流域** 本流域ニアル森林ハ圖們江本流及其ノ支流タル嘎呀河、琿春河上流一帯ノ地ヨリ老爺嶺ニ至ル地域ニ分布スルモノニシテ、吉林省和龍、延吉、汪清、琿春四縣及奉天省安圖縣ノ一部ニ亘リ、面積約八十二萬五千陌、其ノ現在立木蓄積量約一億一千六百萬立方尺、内四割ハ針葉樹林ナリ。然レトモ琿春、汪清兩縣ニハ未タニ優良ナル森林ヲ保有シ原生的美林ニ乏シカラサルモ、延吉、和龍兩縣ニ至リテハ極メテ一局部ニ止マリ、大半ハ山地ト雖モ散生ノ雜木林ニアラサレハ無立木地ニシテ、僅カニ土民ノ燃料ヲ供給スルニ足ル程度ナリ。

**松花江流域** 第二松花江流域即チ奉天省撫松、安圖ノ兩縣及吉林省濛江、樺甸、額穆ノ三縣ニ跨ル一大園地ヲ爲セル森林ニシテ、其ノ總面積ハ約百四十二萬陌、現在立木蓄積量ハ約二億四千二百萬立方尺、内針葉樹ハ四割五分ト推定セラレ。而シテ此ノ流域ニ存スル森林中、安圖、撫松ノ二縣ニ在ルモノハ頭道江及二道江ニ沿ヘル一帯ヲ除キ、山嶽及臺地ハ伐木搬出ノ便ヲ缺キ、加之移民ノ影響ヲ蒙ラサリシ爲幸ヒ濫伐ヲ免レタルモ、該地方ハ人蔘ノ栽培盛ニシテ逐次林地ヲ縮小スルト共ニ、針葉樹ヲモ減少シツツアリ。次ニ濛江ノ北部ハ殆ト闊葉樹林ニシテ其ノ南部ニ幾分ノ針闊兩葉樹ノ混淆林ヲ殘シ、濛江、二道花園河ヨリ以南ハ針葉樹ノ混淆度ヲ著シク増大ス。更ニ樺甸、額穆ノ二縣ニ於テハ其ノ地勢上濫伐ノ害ヲ免レ、從テ樹林最豐富ニ殘存ス。

**牡丹江流域** 牡丹江ハ源ヲ吉林省敦化縣牡丹嶺ニ發シ、額穆、敦化兩縣ノ諸流ヲ合セテ寧安縣ニ入り、鏡泊湖、東京城ヲ經テ、更ニ北流シテ寧古塔ニ至ル。本區域ハ右三縣内ノ諸川流域ヲ總稱スルモノニシテ面積約六十三萬陌、現在蓄積量約一億一千七百萬立方尺、内針葉樹五割ト推定セラレ、他地域ニ比シ針葉樹ノ蓄積量最多シト云ハル。此ノ區域ニアル張廣歲嶺、新開嶺、及牡丹嶺ノ北側ニ於テハ木材搬出不便ノ爲、濫伐ヲ免カレ最美林ニ富ムト雖、其ノ他ノ方面ニハ既

ニ林相ノ惡變ヲ來シ、殊ニ大歳子、木箕河附近ニ至リテハ優良樹種ニ乏シク、闊葉樹林地若ハ散在ニ過キサル状態ナリ。要スルニ以上三江流域ニ於テ、古來一般ニ繁茂セシ針葉樹林ハ、其ノ後變遷シテ針葉樹混淆林ト化シ、且隨處各異ノ混淆状態ヲ呈シ、現ニ其ノ歩合ハ各縣ヲ通シテ針闊兩葉樹相半スルカ若ハ針四、闊六ヲ普通トス。

樹種トシテハ針葉樹中紅松最多ク沙松、魚鱗松、黃花松之ニ亞キ闊葉樹ニアリテハ椴、柞、榆、水曲柳、樺類、色木、楸、楊等ナリ。

**拉林河流域** 拉林河ハ吉林省舒蘭縣ノ呼蘭嶺、太平嶺、蘭陵嶺及額穆縣北部ト北嶺嶺及五常縣東部ノ山脈ヨリ發シ、其ノ流域ハ舒蘭、五常ノ兩縣及額穆縣ノ北部ニ亘ル。此ノ區域ニ於ケル森林面積ハ約六十三萬陌其ノ蓄積量ハ約八千三百萬立方尺ト概算セラレ。本河上流地域ニアル所謂四合川森林ハ嘗テ美林ト稱セラレタルモ、現今ニテハ全ク昔日ノ面影ヲ失ヘリ。本流域ニ於ケル森林地ノ樹種モ亦圖們江流域ト大差ナシ。

**三姓地方一帶地域** 本地域ハ松花江、黑龍江及烏蘇里江ノ間ニ挾マレ、深ク北方ニ突出シテ黑龍江ト烏蘇里江トノ合流點ニ達シ、吉林省方正、依蘭、勃利、樺川、富錦、同江、寶清、撫遠、虎林、饒河、密山ノ各縣ニ跨ル滿洲最北部ニ位スル林地ニシテ、面積約五百二十五萬陌、現在立木蓄積量約七億二千七百萬立方尺ニ上ルト言ハル。而シテ此ノ地域ニ於ケル林況ヲ觀ルニ、方正縣内ノ森林ハ今日ニ至ル迄伐採ヲ續ケラレ、現ニ其ノ材積減少セルノ感ナキニアラサルモ尙針闊混淆ノ一大天然樹林ヲ有シ、將來極メテ有望ナル林区ニシテ樹種ハ針葉樹ニテハ紅松最多ク、杉松、臭松、之ニ亞キ、闊葉樹ニテハ榆、黃蘗木、樺、水曲柳、柞、椴等ノ順序ナリ。

次ニ本地域内各地方ニ於ケル森林ニ付テ見ルニ、樺川縣ハ東南山嶽地帯ニハ紅松ノ良材豐富ナルモ、運搬交通ノ利便ナル地方ハ既ニ伐採シ盡サレ、松花江岸ヨリ稍々遠隔セル高地ニ於テノミ柞、樺等ノ闊葉樹疎林ヲ見ルニ止マリ、富錦縣内



ニ於ケル諸山岳ハ何レモ原始的森林ヲ以テ蔽ハレ、紅松、油松、杉松等ノ良材尠カラサルモ、松花江岸ニ近キ地方ニ在リテハ良材ニ乏シク、各丘串及平地ハ潤葉樹林點在ス。同江縣内ノ南方山嶺ハ其ノ大部分樹林ヲ以テ覆ハレ、樹種ハ主トシテ潤葉樹ニシテ針葉樹少ク、撫遠縣ノ諸山亦殆ト森林ナルモ原始的針潤兩葉樹混淆林ハ饒河縣境ノ高地一帶ニ限ラル虎林縣ノ山地一帶ハ鬱蒼タル美林極メテ多ク、其ノ樹種ハ針葉樹類及楊ヲ最トシ、柞、樺類之ニ次キ、烏蘇里江岸ニ點在スル疎林ニハ主ニ柞、樺、楊ノ生成ヲ見ル。密山縣内ノ山地ハ現今尙悉ク森林ヲ以テ蓋ハレ、其ノ北部ニアル諸山脈地方ハ搬出不便ナル爲廣大ナル地域ニ亘テ未タ斧鉞ノ入ラサル針潤兩葉樹混淆ノ原始林アリ。又西方南境一帶ハ紅松、杉松、柞樾等針潤兩葉樹ノ混淆林地ニシテ、殊ニ高峰峻嶺地帯ハ四時綠葉蔥鬱タル針葉樹ヲ以テ蔽ハレ西部ニアル山嶽地方ハ極テ良好ナル原始的ノ針潤混淆林ヲ保有ス。其ノ他松阿察河沿岸ニハ楊、樺、柞、椴、黃蘗木等ヲ主トスル所謂古董林アリ。

北滿鐵路東部線沿線地域 哈爾濱ヨリ東行シテ滿露國境ニ至ル間ノ鐵道沿線ノ兩側ニ位スル森林地帯ナルカ、主トシテ吉林省、賓、延壽、寧安、穆稜及東寧ノ諸縣並汪清縣ノ東部、即チ老爺嶺及石頭、大平等ノ諸山脈以東ニ及フモノニシテ、其ノ面積約二百四十二萬陌、現在立木蓄積量約一億五千萬立方米ト概算セラル。而シテ賓縣ヨリ東方各高地及山地帶ノ所々ニハ柞、楊、椴ヲ主トスル潤葉樹林ヲ見、更ニ東部境界ニハ原始的針潤兩葉樹ノ混淆林存在シ、延壽縣内中東鐵路ヲ距ルコト遠ク、搬出極メテ不便ナル箇所ニハ針、潤兩葉樹混淆シテ密林ヲナシ、未タニ原始的ノ狀態ヲ保テリ。右ノ外運搬ノ便利アル部分ニ於ケル針葉樹ノ良材ハ、漸次擇伐セラレテ針潤混淆ノ疎林トナリ。或ハ濫伐久シキ爲、針葉樹林一變シテ潤葉樹林トナルモノト年ト共ニ多キヲ加ヘ、然モ此ノ潤葉樹スラ薪材トシテ伐採セラレツツアル爲、此ノ種ノ林地ハ順次無立木地若ハ耕地ニ變シツツアル狀態ナリ。寧安縣ニ於ケル林相ヲ見ルニ、鏡泊湖以南ハ各溪谷ノ入口ハ既ニ開墾

セラレ、更ニ南方ノ山地帯ニ至リ初メテ針葉樹六、七割ヲ混淆セル大森林ヲ見得。其ノ樹種中最多キハ杉松ニシテ紅松、臭松之ニ次キ、潤葉樹中最多キハ色木、榆ニシテ、水曲柳、楊、椴等之ニ亞ク。鏡泊湖ヨリ東方馬蓮江流域ニアル大森林地帯ハ原始的針潤混淆林ニシテ、針葉樹其ノ五、六割ヲ占ム。針葉樹トシテハ杉、松最多ク紅松之ニ亞キ、潤葉樹トシテハ榆、色木、椴其ノ大部分ヲ占メ、水曲柳、楊、樺之ニ次ク。鏡泊湖以北牡丹江左右兩岸ニ於ケル交通運搬ノ便利ナル地帯ハ既ニ伐採シ盡サレテ、農耕地若ハ荒蕪地、散生地ト變シタルモノ多ク、其ノ右岸蛤蟆河上流域ニハ原始的ノ針潤混淆林アリ。其ノ六、七割ヲ占ムル針葉樹中ニハ紅松、杉松、臭松最多ク、潤葉樹ニテハ樺、椴、柞ヲ主トシ榆、楊等ヲ交フ、又其ノ左岸ノ森林ハ茨老茅山、老嶺、畢度窩、集嶺一帶ノ高地ニアリ、特ニ海浪河、本支流流域ニアル林區ニハ未タ伐採ニ着手セサルモノ多ク、臭松、魚鱗松、紅松、樺、椴、色木、柞、楊、水曲柳、榆等ニ富ム。更ニ頭道河薩林河等ノ各流域ヲ占ムル森林地帯ハ運搬稍不便ナル爲未タ組織的伐木業者ノ入山スルモノナク、原始林相ヲ維持スル地域少カラス、數千町歩ニ亘ル針葉樹ノ純林ヲ見ル、此ノ流域ノ樹種ハ、針葉樹ニテハ臭松、魚鱗松多ク又紅松ヲ交ヘ、潤葉樹ニテハ榆、樺、椴、色木等最多ク水曲柳、黃蘗木、胡桃楸、槐等ノ良材ヲ混生ス。

大興安嶺地域 南ハ洮兒河流域並索爾濟山ヨリ起リ、北ハ黑龍江沿岸ニ至ル大興安嶺ノ本支脈ヲ蔽フ森林ニシテ、舊龍江道ノ西半部及呼倫貝爾ノ東部ヲ占メ、林地面積約一千三百九十萬陌、現在立木蓄積量實ニ十五億五千六百萬立方米ト推定セラル。而シテ此ノ地域内ニ生成スル樹種ハ黃花松、樺、柞等ヲ主トシ、其ノ他西比利油松柳、楊類等ヲ雜フ。北滿鐵路西部線沿線地域 哈爾濱ヨリ滿洲里ニ至ル鐵道沿線ニアル諸縣ノ内黑龍江省呼蘭、肇州、安達、龍江等本沿道ノ大半ヲ占ムル地域ハ、一望無碍ノ茫漠タル一大草原ニシテ、興安北省ニ屬スル新巴爾虎右翼旗内ニハ黃花松及油松アルモ其ノ蓄積量少ク、殆ト林地トシテノ價值ナク、僅ニ興安東分省、莫力達瓦旗、布特哈旗ノ二旗ニ存スルモノヲ擧ケ得ルニ過



キサルカ、之亦其ノ大半ハ散在地ニシテ優良森林ト稱シ得ルモノニ至リテハ、多ク大興安嶺ノ峰筋、即チ鐵道沿線ヨリ約八十軒ヲ距ル遠地ニアリ。此ノ區域ニ於ケル林地ノ面積ハ約七一九萬陌、其ノ現在立木蓄積量ハ約一億四千八百萬立方メートルト想定セラレ、樹種ハ黄花松、樺、檀最多ク、此ノ外西比利油松、楊、柳、柞等ヲ混エ而シテ黄花松ハ大面積ニ跨リ單純林ヲ爲ス所アルモ、多クハ帶狀又ハ群狀ヲナシテ樺林ト混淆シ、其ノ割合ハ針葉樹五乃至七割、闊葉樹三乃至五割ト見テ大差ナシ。

小興安嶺地域 大興安嶺中ノ英吉黒山ヨリ起リ黒龍江支流ノ呼嗎爾河、嫩江ノ支流甘河及黒龍江本流ニ沿ヒテ東南ニ走リ松花江ノ本流ニ終ル小興安嶺ニ屬スル地域内ニアル森林ハ、舊黒河道、綏蘭道及龍江道ノ東半部ニ跨ル廣大ナルモノニシテ、面積約九百九十二萬陌、現在立木蓄積量無慮九億七千三百萬立方メートルヲ有スト稱セラル。樹種ハ黄花松及樺ヲ主トシ、臭松、杉松、紅松、魚鱗松、榆、水曲柳、胡桃楸、檀、椴、柞、柳等混生セリ。

重要樹種

針葉樹

テウセンマツ (紅松)

最重要樹種ニシテ大ナルハ樹高百三十尺胸高直徑四尺ニ達ス、普通一尺七、八寸ノモノ多シ建築、橋梁、電柱、棺材用材

テウセンモミ (杉松)

テウセンタウヒ (魚鱗松)

エンマツ (//)

樹高直徑テウセンマツニ比敵ス、生長速キモ腐朽シ易シ。建築、製函製紙用材

タウシラベ (臭松)

樹高八、九十尺胸高直徑二尺五六寸ニ達ス、普通一尺二、三寸ノモノ多シ。用途ハ前者ニ同シ

タフリカカラマツ (黄花松)

テウセンカラマツ (//)

樹高百尺胸高直徑二尺餘ニ達ス、材質強健耐久力ニ富ム。電柱、枕木、足場丸太建築用材

マンシウアカマツ (油松)

胸高直徑四尺樹高百尺ニ達スルモノアリ、蓄積多カラス。土木、杭木建築用材

闊葉樹

カウライミツナラ (柞樹)

モンゴリナラ (//)

樹高五、六十尺胸高直徑二尺ヲ超ユルハ稀ナリ。建築、家具、裝飾、造船用材

アムールシナノキ (椴樹)

マンシウシナノキ (椴樹)

樹高五、六十尺胸高直徑二尺餘ニ達ス。鉛筆、燐寸、彫刻、家具、薪炭用材、樹皮ハ強靱ナルニ依リ網織物ヲ製ス

オニメダスリ (草新子)

大徑木ナシ、胸高直徑一尺樹高四、五十尺ニ過キス。材質堅硬ナリ。車輛用、小細工用材

イタヤカヘデ (色樹)

直徑二尺樹高六十尺ニ達ス。家具、裝飾用材



マンシウカヘデ (白牛)  
用途前者ニ同シ

ヤラダモ (水曲柳)  
胸高直徑三尺樹高七十尺ニ達ス。枕木、建築、家具、船、車輛用材

ハルニレ (榆樹)  
オヒヨウニレ (ク)  
胸高直徑三尺樹高八十尺ニ達ス、材質固シ。車輛、樺材、枕木、薪炭用材

キハダ (黄玻璃)  
胸高直徑二尺七八寸、樹高七十尺ニ達ス、材質堅硬ナルモ細工容易。家具用材

マンシウクルミ (楸樹)  
大木少シ、材質堅硬強靱、反張彎曲スルコトナシ。家具、裝飾、軍需、船艦、車輛用材

テウセンヤマナラシ (白楊樹)  
テウセンヤマナラシハ胸高直徑一尺余寸ドロノキハ三尺、樹高前者ハ七八十尺後者ハ百二十尺ニ達ス、材ハ白色輕軟。燐寸軸木、經木用材

カライヌエンジュ (槐樹)  
胸高直徑一尺五六寸、樹立六十尺。床、柱床、框諸道具ヲ造ルニ用フ

シラカバ  
材硬ク樹皮ハ白色燃エ易シ。細工、薪炭用材

森林面積及現在立木蓄積

(實業部調査)

森林地名	森林面積 (千陌)	現在立木蓄積 (百萬立方米)
鴨渾江流域	六六二	七六
圖們江流域	八二五	一一六
松花江流域	一、四二四	二四二
牡丹江流域	六二九	一一七
拉林河流域	六二八	八三
三姓地方	五、二四七	七二七
北滿鐵路東部沿線	二、四一五	一四九
大興安嶺	一三、八八四	一、五五六
小興安嶺	九、九一七	九七三
計	三三、六三三	四、〇三九

備考 以上ノ數字ハ民國初期ノ調査ニ基キコレニ若干ノ修正ヲ施シテ得タルモノニシテ昨今部分的ニ調査セシモノニ比シ其ノ蓄積甚ク過大ノ感アリ。之ヲ想像スルニ蓄積二十五億立方米見當ト見ルヲ妥當トセン。

第三節 木材生産並消費狀況

木材ノ生産 木材ハ其ノ生産スル地方ニ依リ鴨綠江材、吉林材、延吉及琿春材、北滿材ノ四種ニ分タル。今其ノ生産ノ概要ヲ述レハ、

鴨綠江材 鴨綠江右岸並渾江流域ヨリ生産シ鴨綠江ヲ流筏シテ安東地方ニ出廻ルモノヲ鴨綠江材ト稱ス。鴨綠江流域ハ



既ニ伐採量盛期ヲ越エ、搬出便ナル箇所ハ伐採シ盡サレ疎林地散生地乃至ハ無立木地トナリ、現在ノ伐採箇所ハ奥地ニ限ラルル爲、搬出費ニ巨額ヲ要シ從ツテ搬出量年年遞減シツツアリ。而シテ中心市場安東ニ集中セラルル木材ハ或ハ此ノ地ニ於テ製材セラレ、或ハ原木ノ儘南滿ヲ首メトシ朝鮮、日本、北部支那ニ輸出セラル。

**吉林材** 吉林材ハ松花江、牡丹江上流地方ニ伐採セラレ、京圖線、拉賓線又ハ河川ノ便ニヨリ吉林ニ集散スル木材ノ總稱ナリ。從來吉林材ハ吉林、新京ヲ經由シ南滿市場ニ覇ヲ唱ヘ居タリシモ、民國八、九年ヲ境トシテ木材界漸ク不況ニ陥リ金融梗塞ト北滿材及米材ノ進出ニ依リ尠ナカラサル打撃ヲ受ケタリ。然レトモ今ヤ京圖、拉賓兩線ノ全通ト國都新京ノ建設ハ吉林材更生ノ契機トナリ、吉林材ハ新京ハ固ヨリ南滿方面ニ進出シツツアリ。尙茲ニ注意スヘキハ京圖線全通ノ結果、木材中心地ハ吉林ヲ離レテ敦化ニ移ラントスル傾向アルコトナリ。

**延吉及琿春材** 圖們江ノ上流域及嘎呀河流域並京圖線哈爾巴嶺以東ノ沿線奥地ヨリ伐採搬出サレ、會寧、清津、雄基、羅津、七里等ニ出廻ルモノヲ謂フ。琿春地方ノ出材ハ日露戰役前ニ於テハ露領方面ヲ唯一ノ販路トシ、同戰後ハ嘎呀河材ト共ニ朝鮮ニ市場ヲ求メテ轉セシモ、民國八年ノ早魃以來振ハサリシノミナラス、今ヤ京圖線全通シタリトハ云ヘ地理上吉林材ニ押サレテ滿鐵沿線ニ出ツルヲ得ス、僅ニ優良材ヲ朝鮮、支那日本ニ輸出シツツアルニ止ル狀況ナリ。然レトモ最近輸出關稅ノ撤廢ヲ見タルヲ以テ、將來ハ該地方ニ於ケル運輸機關ノ完成、日本ノ木材需要等ニ乘シテ大ニ販路ヲ海外ニ擴張シ得ヘシト見ラル。

**北滿材** 北滿鐵道ニ出廻ルモノ及松花江ニ依リ輸送セラルルモノヲ一般ニ北滿材ト稱シ、北滿鐵路及同沿線ノ需要ヲ充スト共ニ哈爾濱經由南下シツツアリ。  
**輸送消費** 木材ノ出廻、輸出入及消費數量ヲ示セハ次ノ如シ。

木材出廻數量

年次	鴨綠江	吉林	間島琿春	北滿	計
康德元年	1,000,000石	1,000,000石	1,000,000石	1,000,000石	4,000,000石
大同元年	1,100,000石	1,100,000石	1,100,000石	1,100,000石	4,400,000石
民國二十年	1,200,000石	1,200,000石	1,200,000石	1,200,000石	4,800,000石
十九年	1,300,000石	1,300,000石	1,300,000石	1,300,000石	5,200,000石
十八年	1,400,000石	1,400,000石	1,400,000石	1,400,000石	5,600,000石
十七年	1,500,000石	1,500,000石	1,500,000石	1,500,000石	6,000,000石

木材輸出入數量

年次	輸出	輸入
康德元年	2,854,250圓	5,504,597圓
(四) 三月迄	3,567,000石	6,888,000石
大同二年	2,187,092圓	9,258,765圓
民國二十年	987,800圓	6,688,300圓
十九年	833,100圓	6,851,000圓
十八年	910,000圓	8,311,000圓
十七年	1,336,100圓	8,521,300圓
十六年	1,411,000圓	4,705,500圓

備考、大同二年及康德元年度石數ハ一石當八圓トシテ金額ヨリ換算。即チ滿洲事變前迄ハ出超ヲ續ケタルモ以後ハ入超ニ轉セリ



年次	出	入	差引消費
民國二十年	三,二八一五	六,八〇〇	三,五八六
十九年	三,〇八七五	六,五〇〇	三,四一三
十八年	三,四九七	六,〇〇〇	二,五〇三
十七年	三,四九七	六,〇〇〇	二,五〇三
十六年	三,八八七	六,〇〇〇	二,一一三

即チ事變前迄ハ大體三百萬石ヲ上下シツツテリシカ、其ノ後建設工事進捗ト共ニ輸入漸増シ、現在ハ四百萬石程度ノ消費ヲ見ツツアルモノノ如シ。

(増補)

滿洲鑛業開發株式會社法 國內ニ於ケル鑛業開發ノ爲メ康德二年八月一日勅令第五十號ヲ以テ滿洲鑛業開發株式會社法ヲ發布セラル。

會社ハ資本ヲ五百萬圓ト定メ、本店ヲ新京ニ置キ、康德二年勅令第九十一號所定ノ鑛物資源ヲ確保シ其開發統制ヲ圖ル爲メ鑛業權ノ取得及租鑛權ノ設定、製煉、鑛業及製煉事業ニ對スル投資及融資ノ事業ヲ營ムコトヲ目的トシ、株式ノ讓渡ニハ會社ノ同意ヲ必要トスルコトヲ定メタリ。

綿羊改良場 綿羊ハ増殖ヲ圖ルノ前改良ヲ要スベキヲ以テ康德二年五月二十四日勅令ヲ以テ綿羊改良場、興安綿羊改良場ヲ置クノ件ヲ公布、綿羊ノ飼養、種綿羊ノ配付、貸附及種附、綿羊飼養ノ指導及獎勵、毛、皮ノ調製加工、實習、見習生ノ養成等ヲ掌ル、興安改良場ハ右ノ外管理蕃殖及改良ニ當ルモノトセラル。

## 第五章 水產業

### 第一節 漁業

#### 一 概 說

漁業一般 我國ハ南ニ黃海、渤海ヲ控ヘ古クヨリ漁業行ハルルモ、其ノ漁獲年額約二百萬圓内外ニシテ、近時關東州ニ於ケル漁業ノ著シキ進展ニ比シ頗ル不振ノ狀態ニ在リ。又國內幾多ノ湖沼河川ニ於ケル淡水漁業ハ漁獲高ハ一個年約四、五百萬圓ト推算セラレ、水産業上重要ナル地位ヲ占ムルモノナルモ、漁法ハ未タ原始的操作ノ域ヲ脱セス、纒ニ北部呼倫池ニ於テ稍々經濟的企業化セル漁業行ハルルニ過キス。從テ水産物ハ國內ノ需要ヲ充タシ得サルノミナラス、年々七、八百萬圓ノ巨額ニ達スル輸入ヲ見ツツアル狀態ナルモ一般漁業知識ノ普及及漁法ノ改善ニ伴ヒ今後相當發達スヘキ餘地ヲ有セリ。即チ海洋漁業ニ在リテハ沖合漁業ヘ進出ヲ圖ルト共ニ漁船、漁具ノ改善、漁港及販賣機關ノ整備ヲ計リ、淡水漁業ニ在リテハ、天然繁殖、人工繁殖ノ道ヲ講シ、資源ノ培養ニ努ムルト共ニ漁撈方法、漁業團體等ノ施設指導宜シキヲ得ルニ至ラハ相當有望ナル將來ヲ有スルモノト謂フヘシ。

水産物ノ需給 財政部發表貿易統計ノ示ス所ニ從ヘハ、大同元年ニ於ケル水産物ノ輸入約七四〇萬圓ニ對シ、輸出約一九五萬圓差引輸入超過約五四五萬圓、大同二年ニ於テハ輸入約八一七萬圓ニ對シ輸出約四八萬圓、差引七六九萬圓ノ輸入超



過ニシテ、更ニ輸入額ニ就キ前年ニ對スル比較ヲ試ミルニ約七七萬圓ノ増加ヲ示セリ。此ノ巨額ノ輸入超過ハ一面我國水産業ノ萎靡不振ヲ説明スルト共ニ改良開發ノ餘地多大ナルモノアルヲ示スモノナリ。

輸入

種別	大同年		二一年		大同年		元年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
鮮魚	1,234,567担	1,200,000圓	1,345,678担	1,300,000圓	1,456,789担	1,400,000圓	1,567,890担	1,500,000圓
鹽魚	567,890担	500,000圓	678,901担	600,000圓	789,012担	700,000圓	890,123担	800,000圓
乾魚	123,456担	100,000圓	134,567担	120,000圓	145,678担	130,000圓	156,789担	140,000圓
計	2,125,913担	2,200,000圓	2,258,546担	2,200,000圓	2,393,579担	2,300,000圓	2,614,802担	2,500,000圓

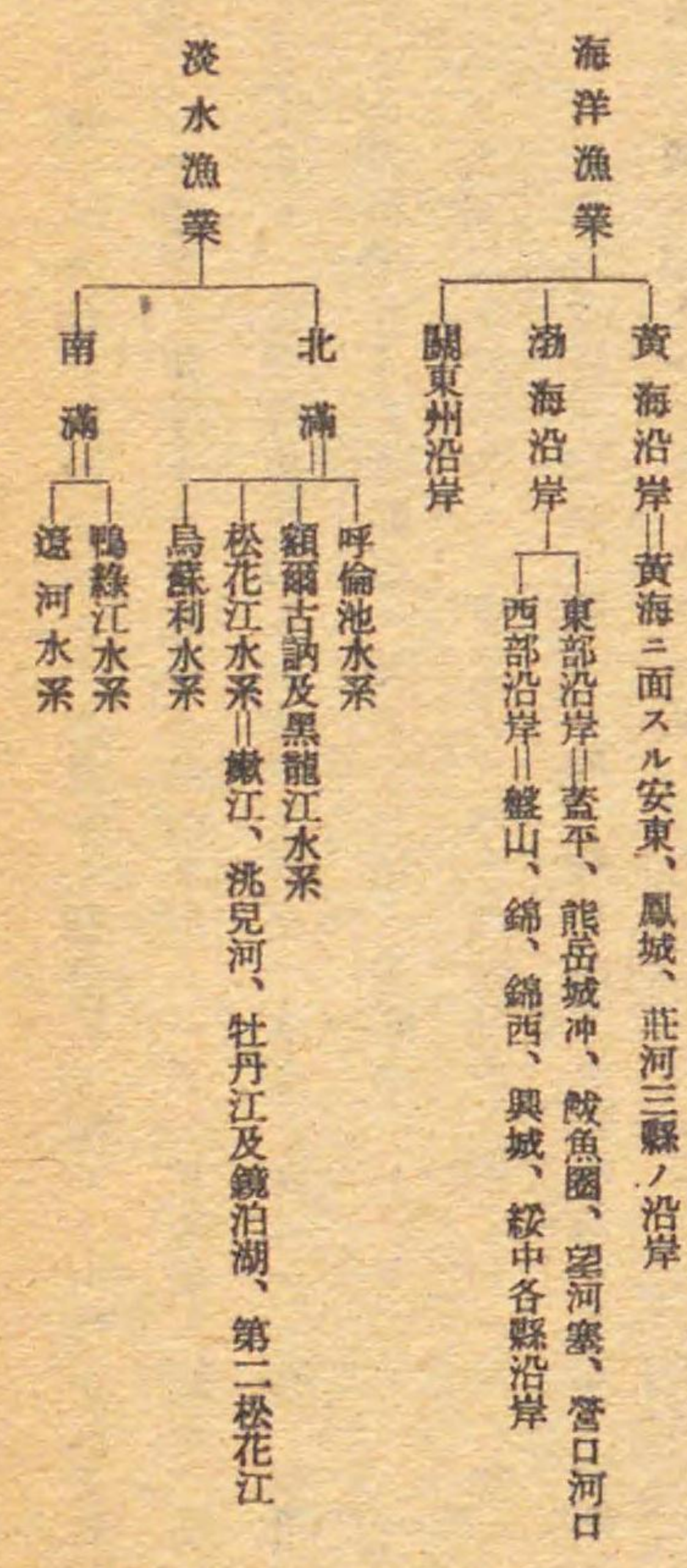
輸出

種別	大同年		二一年		大同年		元年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
鮮魚	1,000,000担	1,000,000圓	1,100,000担	1,100,000圓	1,200,000担	1,200,000圓	1,300,000担	1,300,000圓
鹽魚	500,000担	500,000圓	550,000担	550,000圓	600,000担	600,000圓	650,000担	650,000圓
乾魚	200,000担	200,000圓	220,000担	220,000圓	240,000担	240,000圓	260,000担	260,000圓
計	1,700,000担	1,700,000圓	1,870,000担	1,870,000圓	2,040,000担	2,040,000圓	2,210,000担	2,210,000圓

漁獲高 漁獲高ニ就キテハ未タ精確ノ數字ヲ示シ得サルモ、大同年年度産額概數ヲ示セハ次ノ如シ。

水系	大同年		二一年		大同年		元年	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
松花江水系	1,000,000担	1,000,000圓	1,100,000担	1,100,000圓	1,200,000担	1,200,000圓	1,300,000担	1,300,000圓
呼倫池水系	500,000担	500,000圓	550,000担	550,000圓	600,000担	600,000圓	650,000担	650,000圓
阿爾古河系	300,000担	300,000圓	330,000担	330,000圓	360,000担	360,000圓	390,000担	390,000圓
烏蘇利水系	200,000担	200,000圓	220,000担	220,000圓	240,000担	240,000圓	260,000担	260,000圓
鴨綠江水系	100,000担	100,000圓	110,000担	110,000圓	120,000担	120,000圓	130,000担	130,000圓
計	2,100,000担	2,100,000圓	2,290,000担	2,290,000圓	2,480,000担	2,480,000圓	2,670,000担	2,670,000圓

漁區 我國ノ漁區ハ大體次ノ如ク分タル。尙各漁區別ノ狀況ハ後述ニ讓ル。





## 二 水産行政

前述セルカ如ク國內ニ於ケル水産物ノ需要益々加ハリ、然モ水産資源ニ於テ惠マルモノ尠カラサルニ拘ハラス、之ニ關スル企業未タ發達セス、海外ニ供給ヲ仰キツアル現状ニ鑑ミ、政府ハ水産資源ノ開發、企業ノ發展ヲ促進セシムルヲ急務ト爲シ、實業部農務司ニ水産科ヲ設ケ、水産ニ關スル一般ノ事項、製鹽業ニ關スル事項、水産試驗機關ニ關スル事項並水産業團體及水産業組合ニ關スル事項ヲ管掌セシメタリ。

以下大同二年度ニ於ケル重要ナル水産行政施設ヲ舉クレハ次ノ如シ。

一、新規漁業許可出願ニ關スル件 援用漁業關係法規ナキ爲、漁業許可ニ關スル地方官署ノ權限並漁業出願ニ對スル取扱方ニ關シ據ルヘキモノナキニ鑑ミ、大同二年十月二十五日新規漁業出願ニ對シテハ願書受理官廳ニ於テ之カ許否決定前出願書ニ副申添付ノ上實業部ニ徑伺スヘキ旨ヲ定メタリ。

二、水産市場設立ニ關スル件 水産市場ノ設立ハ舊ニ國內水産業ノ消長ニ關係アルノミナラス、年々多額ニ上ル水産物ノ輸入ト相俟チ、需要ノ調節、市價ノ公正、取引ノ圓滑等ニ重要ナル關係ヲ有スルニ鑑ミ、之カ許可ヲ實業部ニ於テ直接處理スヘキ方針ノ下ニ大同二年十一月二十二日附ヲ以テ關係各官署ニ對シ、右出願アリタル場合ハ所定ノ願書ニ所轄地方官ノ副申ヲ添付實業部ニ徑伺スヘキ旨ヲ訓令セリ。

三、日滿水産打合會議ノ開催 我國地先海面ハ朝鮮及關東州地先海面ト漁業上一帶ヲ爲シ、利害相通スルモノアルニ依リ、我國沿岸漁業者ノ保護、水産資源ノ維持及國外漁業者トノ紛爭防止ヲ目的トシテ、實業部主催ノ下ニ大同二年十一

月及康徳元年三月ノ二回ニ亘リ關東廳、朝鮮總督府側ト會合シ水産打合會議ヲ開催セリ。而シテ打合事項ニ關シテハ三者間ニ意見ノ一致ヲ見タルモ、協定實施手續ニ付テ尙考究ヲ要スヘキ點アルヲ以テ、前記ノ外日本農林省ノ參加ヲ得テ更ニ打合會議ヲ行ヒ之カ實施促進ヲ圖ラントス。

四、營口水産局ノ設置 舊政權時代以來海洋方面ニ於ケル水産行政ヲ主管セル元營口水産總局ハ海上警備事項及徵稅事項ヲ主トシタル爲、水産行政機關トシテノ價值ヲ失フモノアリタルニ鑑ミ、政府ハ從來同局ノ所管セル徵稅事項一切ヲ財政部所屬機關ニ、又警備事項ヲ民政部直轄ノ營口海邊警察隊ニ移管シ、康徳元年五月二十三日新ニ營口水産局ヲ設置セリ、即チ同局ハ黃海渤海及之ニ注ク河川ノ水産ニ關スル試驗調査及指導監督ニ關スル事務ヲ管掌スルモノニシテ、近ク所屬試驗船ノ建造、養殖試驗場ノ整備ト相俟チ、海洋水産業ノ開發ニ資スル所尠カラサルヘキモノト信ス。

五、松花江及嫩江水産調査 從來北滿淡水漁業ニ關シ實地調査ニ基ク資料ヲ缺キシヲ以テ、第一次調査トシテ松花江本流域及嫩江中流地點ヨリ西部松花江本流々域ニ至ル地方ノ水産調査ヲ實施セリ。

尙右ノ外、政府ハ漁業ノ統制ヲシテ實アラシムル爲、漁業法其ノ他ノ法規ノ立案制定ヲ急ク外、各主要都市ニ於ケル水産市場設立ニ付内外關係官廳ト相互ニ連絡統制ヲ圖ルヘク、又各般水産試驗機關ノ充實整備及漁業團體ノ設立ヲ促進セントシツツアリ。

## 三 海洋漁業

概況 我國ハ渤海、黃海ノ二海洋ニ面スルモ、海岸線ノ全長僅ニ八六六軒（關東州ヲ除ク）ニ過キス、然モ灣奥ヲ形成シテ水深淺ク、氣温ノ影響ヲ受ケ易ク、魚類ノ常棲ニ適セス、又回游魚ノ種類比較的少ク、其ノ水産資源豐富ナリト言ヒ







タチウヲ、鯛魚等ヲ産ス。營口水産局ノ調査ニ據レハ本沿岸ニ於ケル漁業戸數一、三五三戸、漁夫數五、三五二人ニシテ、漁船數九二九ナリ。尙之ヲ各漁區別ニ示セハ次ノ如シ

渤海漁業概況

縣	營口	復縣	平縣	蓋縣	漁業戶數	漁船數	漁夫數
營口	二台營	復縣	平縣	蓋縣	二二六	一三〇	一、三〇八
復縣	三井	紅永	沙	岳長	二四一	一九六	六五九
平縣	嶺	嶺	嶺	嶺	二四一	二四一	七〇九
蓋縣	嶺	嶺	嶺	嶺	二四一	二四一	七〇九
合計	計	計	計	計	一、〇〇六	一、〇〇六	三、〇〇六
合計	計	計	計	計	二、二六六	一、三〇〇	四、〇一四

縣	中綏	興城縣	西錦縣	錦縣	合計
中綏	新白	長	約胡馬	西確新	九二九
興城縣	計	計	計	計	九二九
西錦縣	民龍	山	魚蘆石	海鹽開	五、三五二
錦縣	計	計	計	計	九二九
合計	計	計	計	計	一、〇五三
合計	計	計	計	計	一、〇五三
合計	計	計	計	計	九二九
合計	計	計	計	計	五、三五二

漁法 近代的漁法ノ一タル汽機船ニ依ル底曳網漁法ハ、漸ク勃興ノ機運ニ向ヒツツアルモ、未タ一般ニ普及セズ、滿日兩者ヲ合シテ約數十隻、内我國人ノ繰業ニ係ルモノ約三分ノ一ノ見當ナリ。而シテ漁撈ハ一般ニ沿海約二十海里以内ニ於テ行ハルルモノニシテ、少數ノ漁獲機船ヲ除キ多クハ、舊來ヨリ傳習セル特殊ノ漁法ニ依リテ行ハル。即チ其ノ主要ナルモノトシテハ風網、駐木網、延繩、流網、底刺網、梳子網、桁曳網、罽網、地曳網、打網、樹網漁法等ヲ擧ケ得ヘシ。今比較的一般ニ實行セラレツツアル漁法ヲ中心トテシ、漁期、漁場、漁獲物等ニ就キ説明ヲ加フヘシ。

風網漁法 本漁法ハ比較的早クヨリ發達セルモノニシテ、漸次改良セラレテ二艘式ヨリ一艘式ニ變形セラレ、現在水深二



百尋内外ノ近海ニ於テ操業シ、之ニ從事スル漁船數約二五〇隻ノ多キニ達ス。本漁法ハ拖網ノ一種ニシテ、主トシテグチ魚漁獲ニ用ヒラル。本漁法ニ依ル漁獲期ハ四月中旬ヨリ六月下旬ニ至リ、漁獲區域ハ沿岸各所ニ行ハルルモ、望海塞、鯨魚圈ノ二漁場特ニ著名ナリ。

**罾延繩漁法** 最モ廣ク普及セル漁法ニシテ、最近近海ヨリ、遠海ヘト漸次漁獲區域ヲ廣メ、遠ク黄海山東半島沖合ニマテ出漁スルニ至レリ。本漁法ノ漁獲期ハ山東省石島附近ニ於テハ一月ヨリ三月、海洋島圓島間ニ於テハ五月ヨリ、三山島近海ニ於テハ十一月ヨリ十二月迄トシ、夏期ヲ除キ殆ト一年間操業ス。

**木刀魚延繩漁法** 本漁法ハ諸漁法中最モ古クヨリ行ハレタル關係上極メテ一般的ニ用ヒラレ、遠近到ル處ニ於テ操業セラ。三山島沖合（四月ヨリ七月迄）山東半島芝罘沖合（九月ヨリ十一月迄）最モ著名ナリ。

**駐木網漁法** 本漁法ハ其ノ昔山東半島ヨリ傳ヘラレシ定置漁業ノ一種ナルモ、其ノ操法ノ容易ナルト漁具ノ安價ナルトノ點ニ於テ一般ニ普及ス。概ネ沿岸ノ深海ニ使用セララル爲漁獲區域ハ一定セス、漁獲期ハ春季三月ヨリ六月、秋期八月ヨリ十一月、漁獲物ハ主トシテ小海蝦、烏賊、撒丁魚其ノ他ノ雜魚ナリ。

**稻蟹網漁法** 本漁法モ操作極メテ簡單ナル爲、殊ニ農家ノ副業トシテ利用セラレ、三、四月ヲ海參、九、十、十一月ヲ蟹ノ漁獲時期トス。

**纏網漁法** 本漁法ハ民國十六年始メテ山東省ヨリ傳ヘラレタル新法ニシテ、東部沿岸一帶ニ亘リテ使用セララル。漁法ハ定置漁法ノ一種ニシテ其ノ規模ハ稍々駐木網ヨリ大ナルモ、構造ハ殆ト同様ナリ。漁期ハ春季三、四、五月、秋期八、九、十、十一月ニシテ、漁獲區域ハ魏子窩沿岸金州灣一帶、漁獲物亦駐木網ト異ナラス。

**橈子網漁法** 本漁法ハ古ク山東省ヨリ傳ヘラレタルモノニシテ、定置漁法中ノ首位ヲ占ム。春季ハ蝦、ボラ、夏季

ハ、グチ、タチウヲ、蝦、タラ等、秋季ハ、タチウヲ、大鱈子魚、海蝦、鯨魚等ヲ主トシタル漁獲物トシ、三月ヨリ十一月迄ノ長期間ニ亘リ利用セララル。  
**黃花魚流網漁法** 本漁法ハ風網漁法同様、グチヲ目的トセルモノナリ。漁期ハ四五月頃盛ニシテ遠ク芝罘附近ノ沖合ニ於テ迄行ハル。

渤海沿岸漁業戶數、漁船數及漁夫數 (營口水產局調査)

沿岸別	漁具別		漁業戶數	漁船數	漁夫數
	定置漁具	游動漁具			
渤海	五三四	七四二	一一七六	二二〇	二、一五七
黄海	三三九	三三三	三三九	六七二	三、三六六
合計	八七二	一、〇七五	一、六六四	一、六四四	五、五二三
合計	一、九九八	一、六七四	一、六六四	一、六四四	八、八〇一

漁獲高 漁獲高ニ關シテハ、實數ノ申告ヲ缺キ、且陸揚前ニ買買行ハル等ニ因リ正確ナル數字ヲ示シ難キモ、營口水產局ノ調査發表ニ係ル最近五箇年ノ數字ヲ示セハ次ノ如シ。

自民國十八年至大同二年 渤海漁獲高 (營口水產局調査)

年度別	魚類	蝦貝類	計
大同二年	一六、八八五	一〇、六六五	二七、五五〇











## 四 淡水漁業

八五四

概況 國內河川トシテハ松花江本流、嫩江、第二松花江、牡丹江、烏蘇里江、黑龍江本流、遼河等アリ。何レモ其ノ流緩カニシテ且幾多ノ支流ヲ有スル外、湖沼トシテハ呼倫池、貝爾池、鏡泊湖、興凱湖等ノ大湖ノ外多數ノ湖沼アリ、魚族ノ蕃殖棲息ニ適シ、其ノ漁獲高ニ於テモ又開拓ノ餘地ニ於テモ海岸漁業ニ比シ遙カニ優位ニ在リ。尙湖沼中ニハ淡水ニ非スシテ天然曹達或ハ湖鹽ヲ産出スルモノ各地ニ散在セリ。然レトモ此等ノ水産資源ニ關シテハ從來統一ノ調査ヲ行ヒタルモノ無ク正確ナル資料ヲ缺キ、僅ニ斷片的ノ記錄或ハ推定ニ依ル統計アルニ過キス。

漁區 淡水漁業ノ漁區ハ大別シテ南滿ト北滿ノ兩地方ニ區別ス。南部ハ河川ニ乏シク、僅ニ鴨綠江、遼河ノ二漁區アルニ過キス。鴨綠江漁區ハ安東縣ノ上流ヨリ龍岩浦ニ至ル間ニシテ、鯉、鯰、白魚等ヲ主要ナルモノトシ、蝦、ボラ、鱈、鮒、ハゼ等ヲ産ス。遼河ノ魚類ハ平時ノ水量比較的少量ニシテ鯉、蝦、銀魚、鯰、鮒、スッポン等ヲ小規模ニ捕獲シ得ルニ過キス。北部ニ於ケル漁業地方ハ大體、呼倫池水系、額爾古訥及黑龍江水系、松花江水系、烏蘇里水系ノ四系ニ分タレ、就中呼倫池、松花江ノ二水系最モ重要ナリ。

(一) 呼倫池水系ハ呼倫及貝爾ノ兩池及兩池ヲ連絡スル阿爾順河、呼倫池ニ注ク、克魯倫河、貝爾池ニ注ク哈拉哈河ノ二湖三河ヲ包含スルモノニシテ、鯉、タイメンノ漁獲最モ著名ナリ。

(二) 額爾古訥及黑龍江水系、額爾古訥河ハ呼倫貝爾ヨリ海拉爾河、根河及其他諸小流ヲ合シテ、露領後貝加爾州ト呼倫

貝爾トノ國境ヲ北走シ黑龍江ニ注ク河流ニシテ、黑龍江ハ額爾古訥ノ外、露領ヨリノ諸川ヲ合シ、露支國境ヲ流ルル大河ナリ。兩者トモ人煙稀薄、交通不便ニシテ漁業トシテ見ルヘキモノナシ。

(三) 松花江水系 松花江水系ハ嫩江第二松花江ヲ首トシ、拉林河、呼蘭河、牡丹江等ノ諸川ヲ集メ、地域的ニ最モ廣大ナルノミナラス魚類ノ棲息最モ豊富ナリ。第二松花江ハ吉林ヲ控ヘ白魚及鰻魚ノ産著名ニシテ、松花江本流モ亦哈爾濱ヲ首メ下流ニ、三姓、佳木斯、富錦等ノ市場ヲ有シ相當旺盛ナリ。牡丹江ハ上流地方即鏡泊湖及東京城附近ニ於テ小規模ニ行ハルルニ過キス、河流小ナル爲、松花江本流ニ比シ大魚ニ乏シキモ、鯉、白魚、鮒、鰻魚ノ産豊富ナリ。

(四) 烏蘇里江水系、烏蘇里江ハ主トシテ露領住民ニ依リ鮭、鱈ノ漁撈行ハルルニ過キス。  
取引狀況 北滿ニ於ケル淡水魚ノ取引市場ハ最大ノ生産地タル呼倫、烏爾古訥地方ノ漁場經營者ノ根據地タル滿洲里ヲ以テ最大トス。其ノ販路ハ露西亞革命以前ハ主トシテ西伯利及歐露方面ナリシカ、其ノ後漸次滿洲内ニ販路ヲ求メ、一九二一年ヨリ一九二八年ニ至ル間ハ約其半數ヲ凍魚トシテ長春方面ニ仕向ケタリ。然ルニ翌年露支事件ノ勃發ハ主要産地タル呼倫池ニ於ケル漁業者ニ大影響ヲ與ヘ、且運賃ノ關係上哈爾濱ヲ中心トセル淡水魚ノ價格割安トナレル爲、急激ニ需要ヲ喚起シ、松花江水系ノ漁業ヲ著シク進展セシメタリ。

## 第三節 鹽業

### 一 概 說

我國ノ産鹽ニハ海鹽ト池鹽トアリ。池鹽ハ産額極メテ少ク、産地亦僻遠地ニ在ル爲調査未タ全カラス詳述スルコト困難



我國ノ海岸線ハ南部ノ渤海及黃海兩沿岸ヲ合シ、僅ニ約八六六浬、全國周圍總延長ノ約十分ノ一強ニ過キサレモ之ヲ海鹽ノ生産方面ヨリ見ルトキハ、鹽田適地トシテノ干潟地到ル所ニ展開シ、氣象亦採鹽ニ適シ、現今世界有數ノ產鹽地ナリ。我國鹽業ノ起源ハ極メテ古ク、遠ク黃帝ノ世ニ始マルト傳ヘラル。然レトモ其ノ製法ハ所謂煎熬法ニシテ、支那ニ始メテ天日製鹽ノ現ハレタルハ清代康熙年間ノコトニシテ、一外人宣教師ニ依リ傳ヘラレタルモノナリト謂ヒ、爾來此ノ法廣ク一般ニ採用セララルニ至リタリ。而シテ此ノ法カ滿洲ニ入りタル時期ニ就テハ史實ノ徵スヘキモノナキモ、漢民族ノ渡來ト共ニ古ク山東方面ヨリ傳ヘラレシモノノ如ク、復縣小島子、拉銓子ノ兩鹽場竝ニ營蓋孟溝附近ノ鹽場ハ早クヨリ開拓セラレ、其ノ後關東州、貔子窩地方ヲ初メ沿海各地ニ漸次鹽田ノ數ヲ増シテ今日ニ至レリ。

現在海鹽ノ生産高ハ最近五個年間ニ於ケル平均年産額、約四百三十一萬八千餘擔ニシテ、國內消費量ト略々同量ヲ示セリ。蓋シ之レ從來ノ鹽制カ國內自給自足ノ原則ノ下ニ生産數量ヲ制限シ、過剩生産ヲ避ケタル爲ニ外ナラス、今假ニ國內全生産能力ヲ充分ニ發揮セル場合ヲ推定セハ驚クヘキ數量ニ達スヘシ。即チ既成鹽田全部ヲ復活セシメ、且之ニ改良ヲ加フルトキハ一個年ノ生産量ハ過去ニ於テ最高生産額ヲ示セル民國十五年同様七百萬擔ヲ超過スヘク、更ニ國內各沿岸ニ散在スル全干潟地ヲ開拓スルトキハ、現在生産量ノ三、四倍ヲ産出スルコト必スシモ難事ニ非サルヘシ。然ルニ我國現在ノ鹽田狀況ヲ見ルニ數年來新設セラレタルモノナキノミカ、作業ヲ停止スルモノ半數ニ及フカ如キ地方スラアリ。從テ其ノ産額ニ於テモ民國二十年ハ三百三十萬擔、大同元年ハ三百七十萬擔ト從來ニ比シ著シキ減少ヲ來セリ。

政府ハ建國以來斯クノ如キ鹽業不振ヲ挽回センカ爲、積極的ニ斯業開發ノ計畫ヲ樹立シ、大同二年五月後掲ノ如ク工業用鹽輸出暫行辦法ヲ公布シ、鹽ノ輸出解禁ニ依リ現存巨額ノ餘剩鹽ノ消化ヲ計リ、更ニ工業用鹽ノ日本向ケ大量輸出ヲ目

標トシ、先ツ渤海沿岸復縣ヲ中心トスル鹽田ヲ首メ、各製鹽場ノ整備擴張助成ニ努メタル結果、大同二年度ニ於テハ約五百三十萬擔ノ生産ヲ得タリ。

## 二 鹽制並鹽務行政

現在ノ鹽制ニ就テハ財政ノ章ニ於テモ記述セル如ク中央ニ在リテ實業部農務司水産科ヲシテ之ヲ管掌セシメ、別ニ鹽務署ヲ營口ニ置キ、財政部ノ管理ノ下ニ鹽稅及鹽務行政ニ關スル事務ヲ掌ラシメ、鹽務署ノ下ニ場務局及掣驗緝私局ヲ設ケ鹽稅ノ徵收及產鹽ノ監督並掣驗緝私ニ關スル事務ニ當ラシム。又吉黑兩省ニ於テハ鹽ヲ專賣トシ、新京ニ吉黑樵運署ヲ置キ、更ニ其ノ下ニ採運局、緝私局又ハ緝私隊ヲ設ケ、專賣及緝私ニ關スル事務ヲ掌ラシメツツアリ。大同二年ニ於ケル主ナル鹽務行政施設トシテハ實業部關係ニ於テハ日本鹽業調查團ニ參加シ、復縣望海甸海岸一帶ノ地域ニツキ鹽田適地ノ調査ヲナシ、財政部關係ニ於テハ前述シタルカ如ク餘剩鹽ノ消化ト隣邦日本ノ需要ニ應スヘク財政部令ヲ以テ工業用鹽輸出暫行辦法ヲ制定公布セリ。

而シテ右實施ノ結果、既ニ大同二年度ニ於テ約一百萬擔ヲ輸出シ、日本ノ化學工業用鹽ノ需要ニ應シ滿日經濟ノ融和ニ資スル所大ナルモノアリ。尙對內的ニハ復縣鹽場殘存鹽ヲ購入スル外、問島地方一帶ニ亘リ從來ノ鹽價ハ一擔ニツキ延吉、琿春、和龍三縣一二・二〇圓、汪清縣一三・五五圓ナリシモノヲ一律ニ國幣一〇・〇〇圓ニ引下クル等人民ノ生活必需鹽供給ノ圓滑調節ト人民負擔ノ均衡輕減ニ努メタリ。















拘ラス、著シキ發展ヲ遂ケス、加之近年各地ニ匪賊跳梁シ、產鹽ノ盜難夥シキ爲、官鹽ノ販銷高俄ニ激減スルト共ニ鹽價亦低落シ、從ツテ灘戶亦生計ニ困窮スルノ状態ニ陥リ、產鹽高ニ著シキ減少ヲ來セリ。即チ民國十五年ヲ最高トシ年產額七百九十萬擔ニ達シタルコトアルモ、翌年ヨリ四百萬擔台ニ減少シ、民國二十年及大同元年ニ於テハ三百萬擔台ニ低減シ、最高年度ノ約半數ニモ滿タサル状態ニアリ。

然ルニ大同二年ニ入ルヤ政府ノ工業用鹽輸出暫行辦法ノ發布、輸出税ノ免除等ノ積極的獎勵策ノ實施、隣邦日本工業界ニ於ケル需要ノ増加並天候ノ順調等好條件ニ惠マレ一躍五百三十萬擔ノ生産ヲ見ルニ至レリ。  
次ニ「關東州及滿洲國鹽業統計」ニ依リ最近五個年ノ生産額ノ増減趨勢及大同二年ニ於ケル各鹽場別ノ生産狀況ヲ示スニ次ノ如シ。

最近五個年間製鹽高

大同二年	五、二七三、〇〇〇 擔
同 元 年	三、七〇一、〇〇〇
民國二十年	三、三三六、〇〇〇
同 十九年	四、五〇三、〇〇〇
同 十八年	四、六三七、〇〇〇
同 十七年	四、六五〇、〇〇〇
同 十六年	四、二一九、〇〇〇

精鹽狀況 我國ニ於テハ鹽ノ利用ハ原鹽ノ儘ナルヲ普通トシ、爲ニ原鹽ノ採取古キ歴史ヲ有スルニ拘ラス、精鹽業ハ漸ク民國十年營口ニ福海公司ノ工場ニ依リ初メテ操業セラレタルノ状態ナリ。爾來營口ニ五工場、復縣ニ二工場設立セラ

レ、年々三百萬擔内外ノ生産ヲ見ルニ至レリ、因ニ七工場ノ概況ヲ示セハ次ノ如シ。

公司名	資本額	工場所在地	設立年月	生産高
福海公司	二十萬圓	營口東雙橋街	民國十年十二月	三三、八九四
利源公司	二十五萬圓	營口牛家屯	民國十四年六月	五一、八〇四
奉天公司	三十萬圓	營口三道溝街	民國十二年五月	九四、九五〇
華豐公司	十六萬圓	營口三道溝	民國十四年四月	九一、〇六二
裕華公司	二十五萬圓	營口採運局街	民國十年十月	一三八、七九八
洪源公司	三十萬圓	復縣松木島	民國十七年十月	一一、一四〇
華安公司	四十萬圓	復縣松木島	民國二十年二月	七三、四五八

註 但シ華安公司生産高ハ大同元年ヲ示ス

五 運銷狀況

各鹽場ニ於テ生産セラレタル鹽ノ運銷ニハ、官鹽商鹽ノ二種アリ。官鹽トハ吉黑樵運署ノ所轄スル在營口採運局ニ依リ吉黑兩省ノ各縣下ノ鹽倉ニ輸送販賣セララルモノヲ謂ヒ、商鹽トハ鹽棧、鹽店、鹽場附近居民及蒙古、熱河方面ノ需要ニ依リ販賣セララル鹽ヲ稱ス。鹽棧トハ鹽務署ヨリ特許證ノ下附ヲ受ケタルモノニシテ、直接鹽場ヨリ大量購入シ、各鹽店ニ分賣スル卸商ヲ謂ヒ、鹽店トハ鹽務署ヨリ、特許店帖ノ下附ヲ受ケタルモノニシテ鹽棧ヨリ鹽ヲ購入シ需要者ニ小賣スルモノ即チ小賣商ヲ指シ、居民食鹽トハ各鹽場十里以内ニハ鹽棧、鹽店ノ開設ヲ許可セサルヲ以テ、該地方居住民ハ自ラ灘務所ニ赴キ、小聯單ノ下附ヲ受ケ、灘戶ヨリ直接購入スルモノナリ。次ニ興安、熱河省方面需要鹽トハ興安省熱河省方



面ノ商人或ハ居住民カ直接遼西ノ各鹽務局ニ納税シテ購入スル鹽ヲ謂フ。

次ニ各鹽場別運銷狀況ノ梗概ヲ略述スレハ營蓋鹽場ハ各鹽場ニ比較シ水陸ノ交通甚タ便利ニシテ、陸路ハ蓋平及太平山ヨリ搬送スルヲ以テ、滿鐵、四洮、海海線等ノ沿線住民ハ均シク本鹽場ニ供給ヲ仰ケリ。尙帆船ニ依リテ營口又ハ遼河ノ上流各縣ニ運銷シ、或ハ營口ヨリ鐵道ニ依リ各地方ニ搬出スル等本鹽場ノ運銷數量ハ各鹽場ノ首位ニ在リ、商鹽總數量ノ五割六、七分ヲ占ム。復縣鹽場ハ官鹽運銷ヲ主要トス。吉黑兩省ノ所要鹽ハ其ノ四五割ヲ營蓋鹽場ニ仰キ、残り五、六割ハ復縣鹽場ヨリ水路營口ニ運送シ、後鐵道ニ依リ吉黑兩省ノ各地ニ供給セラルルモノナリ。然レトモ右官鹽ヲ除キテハ陸路ノ交通極メテ不便ナル爲、僅ニ復縣及蓋平縣一部ノ需要ヲ充スニ過キス。大同二年ノ運銷數量ハ商鹽數量ノ約二割五分ニ當レリ。莊河鹽場ハ水路ノ交通甚タ便ナル爲、安東ヲ初メ鴨綠江上流各縣ニ對シテ帆船ヲ以テ運送シ、陸路ハ莊河、鳳城、岫巖ノ各縣ニ運送ス。販銷高ハ商鹽總量ノ六分ナリ。錦縣、興綏鹽場ハ熱河ヲ主要販路トシ春秋冬ノ三季ニ於テ驢馬ニ依リ輸送スル外、尙附近諸縣及打通線ヲ經テ通遼方面ニ搬出ス。其ノ運銷高ハ錦縣鹽場商鹽總量ノ五分五厘、興綏鹽場同シク三分ニシテ共ニ甚タ少量ナリ。盤山鹽場ハ陸路鐵道ニ依リ新民、黑山、北鎮ノ各縣及打通線ヲ利用シ通遼一帶ニ運銷ス。近年營口溝帮子間ノ鐵道貨車不足シ、加フルニ地方匪賊ノ跋扈甚タシキ爲、販銷高遂次減少ノ勢ニ在リ。販商高ハ商鹽總量ノ二分九厘ニ當レリ。

## 第六章 鑛業

### 第一節 概況

#### 一 鑛業一般

邦土ニ於ケル鑛業ハ其ノ源ヲ探スレハ遠ク高句麗時代ニ發シ遼、金時代ニ至リテハ各地ニ鑛山ノ開發ヲ見タリト雖モ之等ハ何レモ偶然且部分的發見ニシテ、其ノ探掘亦極メテ原始的ナル方法ニ依レリ。稍近代の設備ヲ具ヘテ開發スルニ至リシハ露國ノ侵入シテ以來ノ事ニ屬ス。即チ露國ハ其ノ東方政策ニ基キテ漸次南下シ、夙ニ鑛山ノ開發ニ着目シテ一八九六年「カシニ一條約」ヲ初メトシテ、各種鑛業利權ニ關スル條約ヲ締結シ、遂ニ鐵道敷設權ト共ニ滿洲ニ於ケル鑛業權ヲ獲得スルニ至レリ。

而シテ日露戰爭ノ結果ニ依リ、從來露國ノ保有セル鑛山探掘權ハ日本國ノ繼承スル所トナリ、撫順、煙台兩炭鑛、鞍山製鐵所、本溪湖煤鐵ノ諸鑛山ノ開發成リ、滿洲鑛業ノ名頓ニ世界ノ注目ヲ惹クニ至リタリ。之ニ刺戟セラレ南滿ニ於ケル鑛業ノ勃興ヲ見タルモ、交通ノ不便、資力ノ缺乏並舊政權者ノ政策宜シキヲ得サリシ爲、著シク其ノ發達ヲ阻害セラレ、尙舊態ヲ脱シ得スシテ我國ノ建國ニ及ヘリ。

斯クテ建國廿二年、國內ノ治安恢復シ産業立國ノ大本定マリ、鑛業ノ開發亦新生面ヲ打開セントスルニ至リシハ周知



ノ如クニシテ、蓋シ我國ノ鑛業資源ノ豐富ナルト鑛業企業條件ノ良好ナルトハ相俟テ鑛業開發ノ前途ニ多大ノ希望ヲ與フルモノト謂フヘシ。

國內鑛業資源ノ豐富ナルコトハ從來内外人ノ等シク認ムル所ナルモ、其ノ資源ノ經濟的價値ニ關シテハ尙今後ノ精査ニ俟タサルヘカラス。現在判明セル有用鑛トシテ舉ゲ得ヘキモノハ金屬鑛物トシテ金(砂金ヲ含ム)鐵、銅、鉛、滿俺、硫化鐵鑛等、非金屬鑛物トシテ石灰石、石灰石、苦灰石、菱苦土鑛、耐火粘土、油母頁岩、滑石、石棉、長石、硅石等ニシテ、就中金、鐵、石灰石、菱苦土鑛、苦灰石、耐火粘土、油母頁岩等ハ鑛量豐富ニシテ實ニ我國鑛產ノ大宗ヲ爲ス、之等ノ鑛業企業ノ成果ハ滿日兩國ノ經濟政策上重大ナル使命ヲ有スルモノト謂フヘシ。現在迄ノ調査ニ依ル其ノ主ナル資源ノ埋藏量ヲ舉クレハ次ノ如シ。

- 石 炭 四八億噸
- 鐵 一三億噸 (品位三五%以上)
- 菱苦土鑛 五〇億噸
- 耐火粘土 一・五億噸
- 油母頁岩 五四億噸
- 砂 金 (多量)
- 石灰石、硅石、苦灰石 (多量)

斯クノ如ク我國内ニハ製鐵、製鋼原料トシテ缺ク可カラサル鐵鑛、石灰石、石灰石等ヲ豐富ニ包藏スルノミナラス、近世化學工業ノ原料トシテノ耐火粘土、苦灰石、菱苦土鑛、硝石及製油原料タル油母頁岩等ノ重要鑛物ヲ埋藏スルヲ以テ、其

ノ資源利用化完成ノ曉ニ於テハ東洋ニ於ケル重要原料國トシテ常ニ重要ノ地位ヲ占ムヘク、從テ鑛業開發ノ促進ハ一ニ國內産業開發ノ一手段トシテノミナラス、隣邦諸國ノ諸工業ニ及ホス裨益亦尠カラサルヘシ。

滿洲鑛產額

(單位噸、但金鑛ハ兩)

(滿鐵地質調査所調査)

鑛種別	大同二年	大同元年	民國二十年	民國十九年	民國十八年	民國十七年	民國十六年	民國十五年
鐵鑛	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100
錳鑛	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100
鉛鑛	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100
銅鑛	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100
錫鑛	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100
鎳鑛	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100
鉻鑛	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100
石油	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100
煤	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100
石灰石	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100
苦灰石	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100
菱苦土鑛	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100
耐火粘土	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100
油母頁岩	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100
砂金	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100	1,180,100



## 二 鑛業行政

八七〇

前述セルカ如ク我國産業上鑛業ノ占ムル地位ノ重要ナルニ鑑ミ、政府ハ鑛業資源ノ開發ヲ急務トシ、建國ノ初メ中央ニ在リテハ實業部ニ農鑛司ヲ、又興安總署ニ勸業處ヲ置キ鑛業ニ關スル一般行政事務ヲ管掌セシメ又地方各省公署實業廳ヲ督勵シテ之カ事務ヲ處理セシメ鑛權ノ保護獎勵並鑛業ノ振興ニ意ヲ注ケリ。

斯クテ大同二年ニ入り、産業開發ノ方策具體化スルニ從ヒ、新ニ鑛務司ヲ獨立セシメ、鑛政、鑛業ノ二科ヲ置キ鑛業行政事務ノ充實ヲ圖ルコトトセリ。

**鑛業資源開發方針** 政府ハ鑛業資源ノ開發ニ關シ左ノ如ク根本方針ヲ確立セリ。

- (一) 石炭ハ諸炭鑛ヲ統一シ合理的生産ト供給トヲ行ヒ以テ低廉豐富ナル燃料ヲ提供スルト共ニ輸出ノ増進ヲ圖ル。
- (二) 國防鑛業資源ハ原則トシテ特殊會社ヲシテ其ノ鑛業權ヲ確保セシメ、以テ無統制濫掘ヲ戒ムルト共ニ其ノ開發ニ使用ス。
- (三) 砂金及金鑛ハ國有ト然ラサルモノトニ區分シ、國有以外ノモノハ之ヲ一般ニ開放ス。
- (四) 鑛業資源ヲ探究シ其ノ利用更正ノ途ヲ講シ鑛業開發ニ資ス。

而シテ石ノ方針ヲ具現センカ爲實施セル主要ナル施設ヲ舉クレハ次ノ如シ。

**鑛業關係法規ノ立案制定** 鑛業ニ關スル法規ハ建國ノ當初之ヲ制定セス、臨時辦法トシテ舊鑛業條例其ノ他ヲ援用シ來レルモ、此等ハ我國ノ鑛業開發上不便ノ點尠カラサルヲ以テ、我國ノ國情ニ鑑ミ、將來鑛業行政ノ根本的準據法タル新鑛業法ノ立案ニ着手シ成案ヲ得、近ク制定公布ヲ見ル豫定ナリ。尙鑛業法施行細則、鑛業登錄令及同施行細則ニ關シテモ目下取急キ立案中ナリ。

**舊鑛業權ノ審查及確認** 舊政權時代舊法ニ依リ合法的ニ設定セラレ且現在迄合法的ニ存在スル鑛業權及舊法ニ依ル鑛業出類人ノ權利ニ就テハ、其ノ内容新鑛業法令ノ趣旨ニ反セサルモノニ限り既得ノ權益ヲ尊重スルノ方針ノ下ニ之カ審查ニ資スル爲權利ノ存在ヲ主張スル者ニ對シ諸般ノ證據資料ヲ提出セシメ、且出願鑛區ノ内容、納稅及稼行狀況調査ヲ實施シツツアリ。

而シテ之等ノ權利ハ新鑛業令施行後之ニ基キ慎重審查ノ上其ノ内容新法令ト抵觸セサルモノニ限り其ノ存續ヲ確認セントス。

**特殊會社ノ設立** 前掲鑛業資源開發ノ根本方針ニ基キ、國內ノ石炭鑛業及採金鑛事業ノ開發統制ヲ圖ル爲、此等事業ノ經營ニ當ラシムル目的ヲ以テ大同三年二月二十七日滿洲炭礦株式會社法ヲ、又康德元年五月三日滿洲採金株式會社法ヲ制定公布セリ。政府ハ右法規ニ基キ設立セラレタル滿洲炭礦株式會社ニ對シテハ、八道濠、復州及他拉廟等各炭礦ノ鑛業權(附屬財產ヲ含ム)ヲ、又滿洲採金株式會社ニ對シテハ、黑龍江省羅北縣、漠河縣及呼瑪縣(興安東分省ニ跨ル)内ニ於ケル砂金ノ鑛業權ヲ夫々現物出資シタリ。

**特別國有鑛區ノ設定** 吉林省及黑龍江省並興安嶺ノ一部ヲ包含セル地域ヲ以テ國有鑛區トシ、前掲滿洲採金株式會社ニ對シ此ノ鑛區ノ開發ヲ爲サシムルノ外、他ニ之カ採掘ヲ許ササル方針ナルモ、當該區域内ニ於テ民間採金事業進出ノ途トシテ、滿洲採金株式會社ト委任契約ヲ締結セシムル方針ナリ。

**鑛業ニ關スル調査** 前掲各項ニ關スルモノノ外、實業部ニ在リテハ鑛業ニ關スル各般ノ調査ヲ實施中ナリ。其ノ主ナルモノヲ舉ゲレハ次ノ如シ。



- イ、留官官辦鑛區ノ調査
- ロ、鑛業現狀ニ關スル調査
- ハ、地質及鑛床ニ關スル調査
- ニ、三角測量
- ホ、國有鑛區ノ調査

尙以上ノ外鑛業ノ技術的指導監督ニ關シテハ現在未タ放置ノ狀態ニアルヲ以テ、康徳元年七月ヨリ實業部主轄ノ地方鑛業行政機關トシテ奉天、吉林、承德及齊々哈爾ニ各鑛業監督署ヲ設置シ、各所管内ニ於テ鑛業法令ノ施行ニ關スル事務ヲ處理セシメ以テ鑛業ノ保護獎勵並ニ振興ヲ期セントシツツアリ。

### 三 鑛區及鑛產額

鑛區並鑛產額ニ關シテハ未タ詳細ナル調査行ハレサルヲ以テ、正確ナル數字ヲ示スコト困難ナルモ、其ノ概況ヲ示セハ即チ次ノ如シ。

奉天省各縣鑛種別鑛區數及鑛區面積 (其一)

縣別	金		銅		鐵		鉛		滿		石	
	鑛區數	面積	鑛區數	面積	鑛區數	面積	鑛區數	面積	鑛區數	面積	鑛區數	面積
遼海遼寧	1	5,966.4	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
復州	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
鳳城	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼寧	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼西	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼東	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼北	1	7,600.0	1	11,100.0	1	1,250.0	1	1,100.0	1	100.0	1	1,000.0
遼南	1	7,600.										



縣別	第四篇 第六章 鑛業										
	鑛別	百分比	長	面積	鑛區	面積	鑛區	面積	鑛區	面積	鑛區
與錦錦義	城西	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
黑洗鐵清西	山安嶺原豐	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
西撫臨輯恒	安松江安仁	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
通金輝海柳	化川南龍河	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
與本鳳岫復	京溪城巖	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
蓋海遼撫瀋	平城陽順陽	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(其三)

縣別	第四篇 第六章 鑛業										
	鑛別	百分比	長	面積	鑛區	面積	鑛區	面積	鑛區	面積	鑛區
與錦錦義	城西	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
黑洗鐵清西	山安嶺原豐	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
西撫臨輯恒	安松江安仁	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
通金輝海柳	化川南龍河	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
與本鳳岫復	京溪城巖	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
蓋海遼撫瀋	平城陽順陽	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(其二)



縣別	鑛區	積				鑛區	面	計	鑛區	面	百分比
		積	面	積	面						
蓋海遼撫瀋	阿	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
興本鳳岫復	阿	11.11	11.11	11.11	11.11	11.11	11.11	11.11	11.11	11.11	
通金輝海柳	阿	12.12	12.12	12.12	12.12	12.12	12.12	12.12	12.12	12.12	
西撫臨輯桓	阿	13.13	13.13	13.13	13.13	13.13	13.13	13.13	13.13	13.13	
黑洗鐵清西	阿	14.14	14.14	14.14	14.14	14.14	14.14	14.14	14.14	14.14	
與錦錦義	阿	15.15	15.15	15.15	15.15	15.15	15.15	15.15	15.15	15.15	
城西	阿	16.16	16.16	16.16	16.16	16.16	16.16	16.16	16.16	16.16	
平城陽順陽	阿	17.17	17.17	17.17	17.17	17.17	17.17	17.17	17.17	17.17	
京溪城巖	阿	18.18	18.18	18.18	18.18	18.18	18.18	18.18	18.18	18.18	
化川南龍河	阿	19.19	19.19	19.19	19.19	19.19	19.19	19.19	19.19	19.19	
安松江安仁	阿	20.20	20.20	20.20	20.20	20.20	20.20	20.20	20.20	20.20	
山安嶺原豐	阿	21.21	21.21	21.21	21.21	21.21	21.21	21.21	21.21	21.21	
城西	阿	22.22	22.22	22.22	22.22	22.22	22.22	22.22	22.22	22.22	
總計	阿	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	

(其五)

縣別	鑛區	積				鑛區	面	計	鑛區	面	百分比
		積	面	積	面						
蓋海遼撫瀋	阿	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
興本鳳岫復	阿	11.11	11.11	11.11	11.11	11.11	11.11	11.11	11.11	11.11	
通金輝海柳	阿	12.12	12.12	12.12	12.12	12.12	12.12	12.12	12.12	12.12	
西撫臨輯桓	阿	13.13	13.13	13.13	13.13	13.13	13.13	13.13	13.13	13.13	
黑洗鐵清西	阿	14.14	14.14	14.14	14.14	14.14	14.14	14.14	14.14	14.14	
與錦錦義	阿	15.15	15.15	15.15	15.15	15.15	15.15	15.15	15.15	15.15	
城西	阿	16.16	16.16	16.16	16.16	16.16	16.16	16.16	16.16	16.16	
平城陽順陽	阿	17.17	17.17	17.17	17.17	17.17	17.17	17.17	17.17	17.17	
京溪城巖	阿	18.18	18.18	18.18	18.18	18.18	18.18	18.18	18.18	18.18	
化川南龍河	阿	19.19	19.19	19.19	19.19	19.19	19.19	19.19	19.19	19.19	
安松江安仁	阿	20.20	20.20	20.20	20.20	20.20	20.20	20.20	20.20	20.20	
山安嶺原豐	阿	21.21	21.21	21.21	21.21	21.21	21.21	21.21	21.21	21.21	
城西	阿	22.22	22.22	22.22	22.22	22.22	22.22	22.22	22.22	22.22	
總計	阿	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	

(其四)







縣別	金		石		炭		計	縣別百分比
	面積	積	面積	積	面積	積		
訥敏	二	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇.〇〇
湯原	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇.〇〇
穆稜	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇.〇〇
呼瑪	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇.〇〇
漢河	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇.〇〇
計	六	六〇〇,〇〇〇	五	五〇〇,〇〇〇	五	五〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇.〇〇

熱河省

縣別	金		石		炭		計	縣別百分比
	面積	積	面積	積	面積	積		
承德	二	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇.〇〇
平泉	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇.〇〇
化州	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇.〇〇
場子	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇.〇〇
泉陽	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇.〇〇
源峰	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇.〇〇
計	六	六〇〇,〇〇〇	五	五〇〇,〇〇〇	五	五〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇.〇〇

礦種別百分比	與早朝		隆新陽	
	面積	積	面積	積
一〇.〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
三〇.〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇
一〇〇.〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇

第二節 金屬鑛業

一金鑛業

金鑛業ハ砂金ノ採取ヲ主トシ、山金ノ探掘ニハ未ダ見ルヘキモノナシ。産金地ハ全國ニ亘リ存在スルモ、就中奉天、吉林兩省ノ東部地域、黑龍江省ノ黑龍江右岸及松花江左岸流域、熱河省東半部地域ヲ主要ナルモノトス。而シテ右ノ中主要山金鑛區トシテ舉ゲ得ルモノニ吉林省延吉縣ノ八道溝、奉天省清原縣ノ大金廠、景家溝、通化縣ノ大廟溝、輯安縣ノ寶馬川等アルモ現ニ稼行中ノモノハ僅カニ八道溝金鑛一ヶ所ニ過キス。

次ニ主要砂金地トシテハ吉林省牡丹江流域ノ依蘭縣ノ黑背山、駝腰子、小青背、大活溝、琿春縣ノ東溝、圖們江支流海蘭河流域ノ和龍縣ノ三道溝、蜂窩溝、夾皮溝、黑龍江省羅北縣ノ太平溝、梧桐河、呼瑪縣ノ庫瑪、餘慶、漠河縣ノ小北溝



小溝、興安北分省額爾克納右翼旗一間房、額爾克納左翼旗ノ吉拉林等特ニ著名ナリ。  
 産額ニ關スル確實ナル數字ハ得難キモ徵稅關係等ヨリ推測セハ年産二千萬圓内外ナルヘシ。參考ノ爲滿鐵地質調査所調  
 査ニ係ル民國十五年以降ノ産出高ヲ示セハ次ノ如シ。

金 鑽 (砂 金) 産 額

(單位兩)

(滿鐵地質調査所調査)

省 別	産 地	大同二年	大同元年	民國二十年	民國十九年	民國十八年	民國十七年	民國十六年	民國十五年
吉 林	延 稜	1,250	1,000	10,000	10,000	10,000	10,000	1,000	2,000
	和 川	1,250	1,000	11,000	1,000	6,000	1,000	1,000	2,000
黑 龍 江	達 源	1,250	1,000	10,000	10,000	10,000	10,000	1,000	1,000
	德 源	1,250	1,000	10,000	10,000	10,000	10,000	1,000	1,000
	古 源	1,250	1,000	10,000	10,000	10,000	10,000	1,000	1,000
	利 源	1,250	1,000	10,000	10,000	10,000	10,000	1,000	1,000
	大 成	1,250	1,000	10,000	10,000	10,000	10,000	1,000	1,000
	裕 邊	1,250	1,000	10,000	10,000	10,000	10,000	1,000	1,000
	至 興	1,250	1,000	10,000	10,000	10,000	10,000	1,000	1,000
	安 興	1,250	1,000	10,000	10,000	10,000	10,000	1,000	1,000
	振 興	1,250	1,000	10,000	10,000	10,000	10,000	1,000	1,000
	呼 瑪	1,250	1,000	10,000	10,000	10,000	10,000	1,000	1,000

會 計	伊 爾 奇 奇 吉 太 梧 赫 合	青 翠 河 罕 拉 乾 拉 林 平 河 河 金 河	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
計	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

我國ニ於ケル金鑽ノ賦存ハ極メテ豐富ナリト稱セラレ、産金地隨所ニ存スルモ、之カ採取事業ニ至リテハ、從來匪害、  
 氣候ノ不良、交通ノ不便等ニ加ヘ、採掘技術ノ低劣、經營施設ノ不備及政權當路ノ無關心等ニ禍セラレテ不振ヲ極メ、何  
 等開發ノ跡ヲ見ス、現在稼行ノ見ルニ足ルヘキモノナシ。

政府ハ這般ノ實情ニ鑑ミ、産金事業ノ重要性ニ對應スル爲、建國以來此等ノ缺陷ヲ掃除シ、本事業ニ對スル指導獎勵、  
 産金買上制度並産金資金化ニ關スル方策ヲ確立シ、民間ニ於ケル本事業ヲ指導助長スルト共ニ優秀ナル技術及大規模ノ資  
 本ニ依リ企業ニ統制アラシメ、以テ我國産金鑽業ノ健全ナル開發經營ヲ期シテ康德元年五月三日滿洲採金株式會社ヲ制  
 定シ、政府監督ノ下ニ同社ヲシテ一定地域内ニ於ケル金鑽ノ採掘及製鍊ニ關スル業務ヲ營マシムルコトトナセリ。

二 鐵 鑽 業

鐵鑽ノ分布ハ主トシテ奉天省ニ局限セララルト雖モ、其ノ埋藏量極メテ豐富ニシテ石炭ト共ニ我國鑽産資源ノ大宗ヲ爲  
 第四篇 産 業 第六章 鐵 鑽 業



シ、將來ニ多大ノ期待ヲ懷カシムルモノナリ。  
 鑛石ハ所謂精狀鐵鑛ト稱セラルル赤鐵鑛及磁鐵鑛ニシテ、鐵ノ含有量豐富ナラサルモ鑛量極メテ大ナリ。其ノ他局部的ニ接觸變質鑛床ノ磁鐵鑛或ハ小規模ノ赤鐵鑛アルモ經濟的價值ヲ有セス。  
 從來我國内ニ於ケル鐵鑛ノ開發ハ多ク日本ノ投資並經營ニ俟テ今日ノ發達ヲ見タルモノニシテ、既ニ稼行中ノモノトシテ鞍山、本溪湖兩鐵山アリ、此ノ他弓張嶺鐵山ハ永ク未稼行ノ儘放置セラレシモ、大同二年滿日合併組織ニ依リ探掘ニ着手セリ。

現在鐵鑛產地トシテ舉ケ得ルモノハ奉天省鞍山地方、弓張嶺、廟兒溝、歪頭山、八盤嶺、通遠堡等ニシテ、特ニ鞍山地方、弓張嶺、廟兒溝ノ各鐵山最モ著名ナリ。此ノ外吉林省磐石縣地方、熱河省朝陽縣地方等モ鐵鑛產地トシテ注目セラレツツアリ。

鐵鑛ノ埋藏量ハ現在調査未了ノ區域アルヲ以テ確實ナル計數ヲ示シ得サルモ、其ノ主要ナルモノニ付推定埋藏量、品位及最近六個年間に產出高ヲ示セハ次ノ如シ。

鐵鑛推定埋藏量及產出高

鐵山名	所在地	推定埋藏量 (千噸)	品位 %	產出高					
				大同二年	大同元年	民國二十年	民國十九年	民國十八年	民國十七年
鞍山	奉天省遼陽縣	7,000		7,712	7,712	7,712	7,712	7,712	7,712
西鞍山	奉天省	1,000							
東鞍山	奉天省	1,000							
大孤山	奉天省	900							

鐵山名	所在地	推定埋藏量 (千噸)	品位 %	大同二年	大同元年	民國二十年	民國十九年	民國十八年	民國十七年
櫻桃園	奉天省	110,000		富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛
王家堡子	奉天省	110,000		富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛
廟兒溝	奉天省本溪縣	3,000	60-65	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛
弓張嶺	奉天省遼陽縣	3,000	60-65	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛
八盤嶺	奉天省	3,000	60-65	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛
歪頭山	奉天省本溪縣	10,000	60以上	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛
大栗子溝	奉天省臨江縣	1,000	60以上	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛
七道溝	奉天省通化縣	1,000	60以上	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛
于西溝	奉天省鳳城縣	1,000	60以上	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛
鐵洞子	吉林省磐石縣	1,000	60以上	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛	富鑛

尙右ノ鐵鑛原料トシ鞍山及本溪湖兩製鐵所ニ於テ生産セラレシ銑鐵產出高ヲ示セハ次ノ如シ。

鐵山名	大同元年	民國二十年	民國十九年	民國十八年	民國十七年
鞍山	3,711,111	3,711,111	3,711,111	3,711,111	3,711,111
本溪湖	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
計	4,811,111	4,811,111	4,811,111	4,811,111	4,811,111

三 其ノ他金屬鑛業

前記金及鐵ヲ除ク其ノ他ノ金屬鑛物トシテハ銀、鉛、亞鉛、銅、硫化鐵鑛等ヲ舉ケ得ルモ、大規模ナル經營ニ適セス。



從ツテ從來繼續シテ稼行セルモノトシテハ數鑛山ヲ數フルニ過キス、其ノ主ナルモノヲ舉クレハ次ノ如シ。

- 銀、鉛鑛 奉天省鳳城縣青城子
- 銅 鑛 奉天省本溪縣馬鹿溝及盤嶺、吉林省盤石及天寶山
- 硫化鐵鑛 奉天省本溪縣本溪湖及揚木溝、遼陽縣煙台、鳳城縣林家台
- 滿俺鑛 奉天省興城縣黑松林

鑛山埋藏量及產出高 (單位噸)

鑛種	省別	縣別	產地別	推定埋藏量	品位	產出						
						二大元二	二民	十九	十八	十七	十六	十五
						年	年	年	年	年	年	年
鉛鑛	奉天	鳳城	青城子	1,100,000	10%	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800
				10,000	10%							
銅鑛	奉天	同計	盤鹿溝	1,000,000	15%	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700
				1,000,000	15%							
滿俺鑛	同	同	黑松林	1,000,000	10%	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700
				1,000,000	10%							
硫化鐵鑛	同	同	本溪湖	1,000,000	10%	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700
				1,000,000	10%							
同	同	同	楊木溝	1,000,000	10%	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700
				1,000,000	10%							
同	同	同	計	1,000,000	10%	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700
				1,000,000	10%							

### 第三節 非金屬鑛業

#### 一 石炭鑛業

石炭ハ鐵ト共ニ我國鑛産ノ大宗ヲナスモノニシテ、最モ廣ク開發セラレ、其ノ分布廣ク然モ埋藏量大ナルハ夙ニ周知セラルル所ナリ。而シテ特ニ石炭鑛業今日ノ隆盛ヲ見ルニ至リタルハ日本ノ努力ニ依ルコト多大ナルモノアリ。我國石炭ノ生成ヲ地質時代ニ依リ分類セハ、二疊石炭紀、侏羅紀、第三紀ニ分ツコトヲ得。而シテ二疊石炭紀ニ屬スル石炭ハ主トシテ無煙炭質ニシテ、本溪湖、復州、煙台等之ニ屬シ、侏羅紀ニ屬スルモノハ亞無煙炭又ハ有煙炭質ニシテ、西安、八道溝、北票、新邱、鶴立崗等知ラレ、又第三紀ニ屬スル石炭ハ褐炭又ハ瀝青炭ニシテ、撫順、札賚諾爾等名アリ今主ナル炭鑛ヲ地質時代別ニ分類スレハ左ノ如シ。

#### (一) 疊石炭紀 炭鑛地質時代分類

炭鑛名	省別	縣別	炭質	炭性	炭鑛名	省別	縣別	炭質	炭性
豐盛堡	奉天	遼陽	無煙炭	不粘結	牛心台	奉天	復遼	無煙炭	不粘結
尾明山	奉天	遼陽	無煙炭	不粘結	五湖	奉天	復遼	無煙炭	不粘結
豐盛堡	奉天	遼陽	無煙炭	不粘結	五湖	奉天	復遼	無煙炭	不粘結
豐盛堡	奉天	遼陽	無煙炭	不粘結	五湖	奉天	復遼	無煙炭	不粘結







省	縣	礦名	民國十五年	民國十六年	民國十七年	民國十八年	民國十九年	民國二十年	大同元年	大同二年
奉天	錦州	五湖(復州)	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	木子湖	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	炸心窩	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	牛馬心	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	藥師集	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	小田付	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	大鹿(西安)	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	狗鹿(西豐)	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	杉松	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	八家	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	紅廟子	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	穆子	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	沙石	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	火石	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	南河	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	紅石	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	棒槌	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	老頭	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	三道溝	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	小六溝	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	計	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

更ニ過去八個年間ニ於ケル石炭及散炭產出高ヲ示セハ左ノ如シ。

石炭散炭產出高

省	縣	礦名	民國十五年	民國十六年	民國十七年	民國十八年	民國十九年	民國二十年	大同元年	大同二年
奉天	錦州	尾山	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	石門	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	阿金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	南溝	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	撫昌	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
奉天	錦州	計	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

(單位噸) (滿鐵地質調査所調査)



省別	炭礦名	大同二年	大同元年	民國二十年	民國十九年	民國十八年	民國十七年	民國十六年	民國十五年
龍江	鶴立崗	三六,〇〇〇	三六,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
興安	甘河	七,〇〇〇		一〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
熱河	北票	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
熱河	新邱	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
熱河	孫家	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
熱河	南票	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
合計		七六,〇〇〇	七六,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇

二、骸炭

省別	產地別	大同二年	大同元年	民國二十年	民國十九年	民國十八年	民國十七年	民國十六年	民國十五年
奉天	本湖	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇
奉天	鞍山	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
奉天	西崗	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
奉天	杉松崗	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
合計		四五,〇〇〇	四五,〇〇〇	四五,〇〇〇	四五,〇〇〇	四五,〇〇〇	四五,〇〇〇	四五,〇〇〇	四五,〇〇〇

前述セルカ如ク政府ハ鑛業開發ノ方針ニ則リ、石炭鑛業ヲ統制シ、國內燃料資源ノ合理的開發ト其ノ低廉ナル供給トヲ圖リ、以テ諸般生産工業ノ發達ヲ助長シ、海外輸出ヲ増進センカ爲、大同三年二月二十七日滿洲炭鑛株式會社ヲ制定公布シ、同會社ヲシテ石炭ノ採掘及販賣ニ關スル事業ヲ營マシムルコトト爲セリ。

同會社ハ滿日合辦ニ依ル資本金一千六百萬圓ノ株式會社ニシテ、康德元年四月三十日創立總會ヲ開催シ設立ノ手續ヲ了シ、本店ヲ新京ニ置キ其ノ業務ヲ開始セリ。同會社ノ創立ニ依リ國內石炭鑛業ハ其ノ開發上更ニ一段ノ進展ヲ加フヘシ。

二 油母頁岩鑛業

滿鐵ノ經營ニ係ル撫順炭鑛ノ炭層上ヲ蔽フ油母頁岩ハ層厚平均一二〇乃至一七〇米ヲ有シ其ノ埋藏量ハ無慮五四億噸ト稱セラル。鑛石ハ比重二乃至二・二、含油量四％ニシテ更ニ其ノ約六〇％ハ平均六％ノ採油率ヲ有シ、古城子露天掘計畫ニ依リ剝岩セラルル部分ノミニシテ推定可採量約二億噸ニ上リ、之カ全量ヲ處理スルトキハ粗油年額三三萬噸ヲ得ヘシ。而シテ同炭鑛ニ於ケル油母頁岩ハ其ノ礦量多キト、採掘費用ヲ要セサルト、殘滓ヲ坑内充填用ニ供スルコト等ノ爲、營業採算上有利ノ條件ヲ具フルヲ以テ、其ノ將來極メテ有望ナリ。

滿鐵會社ニ於テハ大正十年（民國十年）以來右油母頁岩ヲ原料トスル製油事業ニ關シ研究ノ結果、前後二個年ニ亘リ能力五十噸ノ試驗爐ヲ設ケテ試驗ヲ行ヒタルカ其ノ成績良好ナルニ鑑ミ、更ニ昭和三年（民國十七年）一月一千萬圓ヲ投シテ、月額四千噸ヲ處理シ得ル乾餾爐及粗油蒸餾工場並抽蠟工場ノ建設ヲ企圖シ、昭和四年十二月竣工ト共ニ作業ヲ開始セリ。今撫順炭鑛ニ於ケル油母頁岩及原油產出高ヲ示セハ左ノ如シ。



年次	油母頁岩	頁岩油
大同二年	二、六八三、四四〇噸	八七、〇七六噸
大同元年	一、四二二、五五四	七〇、六三一
民國二十年	一、二四五、〇九四	六一、〇八一
民國十九年	九八一、〇〇四	四七、八一五

### 三 高礬土及菱苦土鑛業

高礬土及菱苦土鑛ハ共ニ輕金屬ノ原鑛トシテ、貴重ナルモノニシテ高礬土ハアルミニウム、後者ハマクネシウム製造ノ原料タリ。航空機自動車ノ發達ハ共ニ右兩金屬ノ需要益々多ク、其ノ工業化ハ極メテ緊要ノ事ニ屬ス。高礬土即硬質粘土ニハアルミナ七〇%ヲ含有スル優良鑛アリ。本溪湖、煙台、五湖嚙、關東州大魏家屯等ノ區域ニ亘リテ賦存シ、推定埋藏量一億五千萬噸ト稱セラル。未タ工業化セラルルニ至ラサル爲、アルミニウム原鑛トシテノ採掘ヲ見ルニ至ラサルモ、將來極メテ有望ナルモノアリ。

次ニ菱苦土鑛ハ奉天省營口縣大石橋、海城縣東方山地一帶ニ賦存シ、轉子山、牛心台、白虎山、官馬山、聖水寺、宋官堡子、大嶺等ヲ主要産地トス。推定埋藏量五十億噸ニシテ良質ナルモノハ苦土ノ含有率四五乃至四七%ニ及フ。

菱苦土鑛ハ目下製鋼用耐火爐材及耐火塗料トシテ年額約二萬噸ヲ日本ニ輸出スルニ過サレ共近キ將來ニ於テハ其ノ發達見ルヘキモノアルヘシ。

試ニ滿鐵地質調査所調査ニ依ル産額ヲ示セハ次ノ如シ、  
菱苦土鑛産出高 (單位噸)

大同二年	七、三三六
大同元年	五、三八六
民國二十年	三六、〇三四
民國十九年	二九、〇一六
民國十八年	三二、六八一
民國十七年	二五、四五四
民國十五年	一一、四〇〇
民國十六年	二〇、〇〇〇

次ニ滿鐵中央試驗所ノ分析試驗結果ヲ掲ケ一般觀測ノ資料ニ供ス。  
(滿鐵中央試驗所調査)

#### 菱苦土鑛分析表

鑛區別	硅酸	礬土	第二酸化鐵	石灰	苦土	灼熱減量	計	比重
官馬山	1.7%	5.2%	0.10%	1.02%	44.0%	5.3%	100.00%	3.00
牛心台	1.8%	0.8%	0.7%	1.6%	44.8%	4.2%	100.00%	2.99
白虎山	1.0%	0.5%	1.0%	0.5%	45.0%	0.5%	99.9%	3.00
大嶺	0.7%	0.3%	0.8%	1.1%	46.2%	0.6%	99.9%	2.99
海城(南十軒地)	0.6%	0.2%	0.8%	0.4%	47.0%	1.0%	99.9%	3.01
聖水寺	1.2%	0.3%	0.3%	1.0%	45.7%	0.5%	99.9%	2.99
朱家堡	1.0%	0.4%	0.5%	0.8%	46.5%	0.7%	100.00%	2.99
平石	1.3%	0.5%	0.5%	0.7%	46.7%	0.8%	99.9%	2.97
花子山	1.3%	0.5%	0.5%	0.7%	46.7%	0.8%	99.9%	2.97
轉子山	1.6%	0.1%	1.1%	1.5%	44.8%	0.9%	99.9%	2.98



### 四 耐火粘土鑛業

製鐵業ノ確立ニ伴ヒ、鐵、石炭ニ亞ク必要原料ハ耐火粘土トス。我國ニ於ケル耐火粘土ノ產地ハ高攀土鑛ト同シク本溪湖、煙台、五湖嘴等ニシテ其ノ埋藏量極メテ豐富ナリ。其ノ耐火度ハ通常SK三四—三五ナルモ、稀ニ三七ニ達スル良質ノモノアリ。地質ハ古生代二疊石炭紀層ニ屬シ、粘土ハ炭田ヲ構成セル一岩層ナリ。參考ノ爲滿鐵ノ調査ニ係ル產出高並分析表ヲ示セハ左ノ如シ。

耐火粘土產出高

年次	煙台	五湖嘴	本溪湖	計
大同二年	—	111,090	—	111,090
大同元年	—	51,790	—	51,790
民國二十年	3,920	3,920	—	7,840
十九年	4,700	4,700	—	9,400
十八年	4,211	4,211	—	8,422
十七年	10,710	10,710	—	21,420
十六年	4,191	4,191	—	8,382
十五年	11,022	11,022	—	22,044

耐火粘土分析表

鑛產地	硅酸	礬土	第二酸化鐵	石灰	苦土	微渣	加里	曹達	灼熱減量
五湖嘴 第三層	45.48%	29.21%	0.21%	0.11%	—	—	0.76%	—	12.1%
第四層	51.90%	31.06%	0.10%	0.21%	—	—	0.76%	—	12.1%
選擇品	45.97%	27.78%	0.27%	0.11%	—	—	0.76%	—	12.1%
普通品	43.71%	27.78%	0.20%	0.11%	—	—	0.76%	—	12.1%
煙台	43.20%	27.78%	0.20%	0.11%	—	—	0.76%	—	12.1%
本溪湖	39.68%	27.78%	10.1%	—	—	—	0.11%	—	12.1%

### 五 滑石鑛業

滑石ハ菱苦土鑛產地ヨリ隨伴鑛物トシテ產出スルモノニシテ、奉天省海城、蓋平兩縣地方ニ分布シ、產地トシテ大嶺、崑耳峪、聖水寺、賈家堡子、楊家甸、宋家堡子等名アリ。地質ハ寒武利亞紀ニ屬ス。滑石ハ製紙、製絲工業用及化粧品原料トシテ日本ニ輸出セラレ、其ノ將來有望ナリ。產出高及分析表ハ次ノ如シ。

滑石產出高

大同二年	六二,四三〇
大同元年	四四,三一六
民國二十年	四〇,〇九二
十九年	二五,七二六



年	滑石分析表
十八年	四〇、〇〇〇
十七年	三五、〇〇〇
十六年	一三、〇〇〇
十五年	三四、九〇六

鑛產地	硅酸	酸化鐵	礬	土	石	灰	酸化鐵
海城	六三・一二	〇・四八	〇・五二	〇・五二	〇・五六	三一・四六	三一・四六
大嶺	六二・五六	微量	〇・四二	〇・四二	〇・四七	三一・三〇	三一・三〇
宋家堡子	六三・三四	〇・二五	一・七一	〇・四七	〇・四七	三一・四五	三一・四五
賈家堡子	六一・九六	〇・四四	一・五六	〇・三六	〇・三六	三一・八六	三一・八六
魯子峪	六三・五〇	〇・三五	〇・九七	〇・四四	〇・四四	三一・二六	三一・二六
藤耳峪	六三・二四	〇・三五	一・二七	〇・四〇	〇・四〇	三一・一〇	三一・一〇
楊家甸子	六二・六二	〇・五八	一・六二	〇・四八	〇・四八	三一・二四	三一・二四
滑石嶺							

### 六 其ノ他非金屬鑛業

前掲以外ノ非金屬鑛物トシテハ天然曹達、石綿、石灰石、方解石、硅石、長石、螢石、黑鉛等アリ。  
 天然曹達ハ四洮及洮昂鐵道沿線方面ヨリ産出シ、特ニ大布蘇諾爾、龍江、海拉爾等著名ナリ。年産額二五、二七五噸ト稱セラル。天然曹達ノ分析結果ハ次ノ如シ。

天然曹達分析表

鑛產地	城	食鹽	芒硝	不溶物	水分
玻璃山城土	一〇乃至五〇	〇・五八	〇・五〇	八二・三六	一三・三〇
大布蘇諾爾及千家屯	二・一八	一・六七	〇・三二	八五・五八	三・三一
大布蘇大平川南城土	七・五五	〇・二二	〇・五一	〇・七一	五七・六七
大布蘇盒城	四〇・八三	一九・三八	三・一〇	五・〇〇	二七・〇〇
大布蘇磚城	四三・四四				

石綿ハ耐火、保温料トシテ用ヒラレ、奉天省寬甸縣大荒溝及海城縣地方ニ産出スルノ外、關東州内金州和尚屯ヨリ出ツルモ何レモ鑛床ノ規模小ナリ。  
 石灰石ハ、セメント、硝子製造原料及製鐵用熔煤劑トシテ用ヒラレ、本溪湖、煙台、五湖嘴等ノ外關東州周水子附近ヨリ多量ニ採取サレツツアリ。  
 方解石ハ硝子製造原料トシテ採掘セラレ、關東州内諸所ノ石灰岩中ヨリ脈狀ヲナシテ産出ス。  
 硅石ハ耐火煉瓦原料、カッツトグラス原料トシテ用ヒラレ、主トシテ關東州内旅順、金州、普蘭店等ヨリ豊富ニ産出ス。長石ハ窯業用原料トシテ用ヒラレ、奉天省海城縣地方及關東州普蘭店附近ヨリ産出ス。  
 螢石ハ奉天省蓋平深蘆家屯、沙崗台附近ノ外關東州内普蘭店附近隨家屯ヨリ産出スルモ、近年何レモ採取ヲ休止セリ。石炭、油母頁岩、菱苦土、滑石、耐火粘土以外ノ非金屬鑛物ノ産出高ヲ示セハ次ノ如シ。

### 非金屬鑛種別累年産出額

(單位地)



種別	地方別	産地別	大同二年	大同元年	二十一年國	十九年國	十八年國	十七年國	十六年國	十五年國
石灰石	關東州	和尙屯	10,000	110	1,211	110	111	111	111	111
方解石	關東州	大連湖	10,000	110	1,211	110	111	111	111	111
矽石	關東州	甘井子	10,000	110	1,211	110	111	111	111	111
長石	關東州	周水子	10,000	110	1,211	110	111	111	111	111
螢石	關東州	金州管内	10,000	110	1,211	110	111	111	111	111
計	奉天省蓋平縣 海城縣	海濱家 城屯	10,000	110	1,211	110	111	111	111	111

# 第七章 工業

## 第一節 概説

### 一 工業一般

由來我邦土ハ豊富ナル資源ヲ擁スルニモ不拘在來諸工業ノ規模一般ニ小ニシテ未タ手工業ノ域ヲ脱セス、大資本ヲ投下シ最新ノ技術設備ヲ取入ルルカ如キ近代の工業ハ甚々僅少ナリ。即チ關東州及滿鐵沿線附屬地ニ於ケル日本側諸工業ヲ除キテハ、僅カニ主要都市ニ於ケル製粉、油房、燒鍋等ヲ擧ケ得ルニ止マリ、重工業ニ屬スヘキモノハ勿論、輕工業ニ於テモ其ノ發達極メテ遅々タル現況ニアリ。

我國カ豊富ナル工業原料ヲ有シ且ツ動力、燃料、工業用水、勞銀等ノ企業條件ニ極メテ優レタルモノアルニ不拘、從來永ク工業ノ發達ヲ見サリシハ工業知識及資本ノ缺如ト舊政權時代ニ於ケル官憲ノ搾取トニ因ルモノニ外ナラス。然レ共近代工業ノ發達ハ滿鐵附屬地並ニ哈爾濱ヲ中心トシテ、交通ノ利便、市場ノ擴大等ニ刺戟セラレテ、漸次各都市ニ波及シ、殊ニ歐洲大戰當時ニ在リテハ全滿特ニ北滿ニ於ケル特産工業ノ全盛期ヲ呈シタリ。然ルニ民國九年以來ハ世界經濟ノ恐慌ト共ニ工業界モ一般ニ頗ル不況ヲ來シ、經營上幾多ノ整理ヲ行ヒ堅實ナル更生ノ途ヲ啓キ得スシテ今日ニ及ヘリ。故ニ一見在來ノ各種工業中休業狀態ニ在ルカ如キモノ少カラス存スルモ、之等ハ寧ロ夙ニ整理セラルヘカリシモノナルニ拘ハラ



ス、未タ何等ノ方途ヲ講セラレシテ今日ニ及ヒタルモノト見ルヘシ。  
 政府ハ如上ノ缺陥アルニ鑑ミ、先ツ原始産業ノ發展ニ努力スルト共ニ統制經濟ニ於ケル工業發展ノ分野ヲ明確ニシ、曩ニ發表セル經濟建設綱要ニ則リ滿日經濟プロツクノ主旨ニ添フヘク、且軍事上、國防上、公益上ノ重要性ヲ顧慮シ、工業ニ對シテ、統制企業ト自由企業トヲ分チ、又滿日工業ノ衝突及一部資本家ノ利益壟斷ヲ防止シ、以テ自由競争ニ依ル共倒ヲ防ク等大イニ意ヲ用ヒ充分ナル統制監督ノ下ニ疲弊セル諸工業ノ發展ニ主力ヲ注キツツアリ。  
 從來我國ノ工場狀態ノ調査ハ從來關東廳並ニ滿鐵ニ依リテ部分的ニ調査セラレタルニ止リ、未タ全般的ニ實施セラレタル例ヲ見ス、此期ニ政府ハ工業政策樹立上工場調査ノ實施ヲ企圖シ、大同三年一月滿鐵並ニ關東廳ト協力ノ下ニ全國ニ亘リテ一齊ニ工廠調査ヲ實施セリ。然レ共未タ其ノ調査結果ヲ得ルニ至ラサルヲ以テ、以下參考ノ爲ニ滿鐵經濟調查會刊行ニ係ル「昭和七年滿洲產業統計」ニ據ル計數ヲ掲ケ以テ我國工業現勢ノ大觀ヲ示サントス。

工場數	四、〇七九
投資額	一四二、三三〇、一〇七
生産額	
大豆油	三二、六二八、三七二
大豆粕	七二、一二四、七六六
麥粉	二二、八三二、七七五
鐵	一一、〇八〇、六三六
其他	一八六、七二二、五九七
合計	三三四、三八九、一四六

原動機	二九一、三五五
職工數	一〇八、九〇六
發電所發電量	五五四、九一五、四八二
瓦斯製造量	一五、二四四、六三〇、二六五

### 二 工業行政

世界經濟プロツク形式ノ銳角化セル渦中ニアリテ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ圖ランカ爲、政府ハ工業政策樹立ヲ目途シテ曩ニ發表セル經濟建設綱要ノ根本方針ニ則リ著々之カ實行ノ歩ヲ進メツツアリ。蓋シ盟邦日本國トノ經濟的協調融合政策ハ刻下世界經濟ノ必然的一過程ナリト確信セラルルカ故ナリ。故ニ我工業政策ノ目標ハ基礎的國防資源ノ開發並ニ國民經濟ノ發達ニ在ルモノニシテ就中農畜產ヲ原料トスル化學工業ハ其ノ樞軸タルヘキモノトス。

**工業行政機關** 現在我國ノ工業行政機關ニ就テハ、中央ニ實業部工商司(工務科)、興安總署勸業處(工商科)アリ。地方ハ各省公署實業廳(工商科)、各特別市公署行政處、北滿特別區公署行政處、興安各分省公署民政廳(勸業科)更ニ各縣公署ノ實業局各旗公署ノ內務科アリ。中央ノ統制下ニ各所轄區域ニ於ケル工業行政ヲ掌ル。

**工業ノ統制** 建國以來工業ノ發達ニ關シテハ最モ國情ニ適シ妥當ナル助成方法ヲ考究シ來リタル結果、一定ノ企業ニ對シテハ國內ノ需要ニ伴ヒ所要ノ統制ヲ加ヘ以テ其ノ發達ヲ期セリ。今其ノ種類ヲ示セハ次ノ如シ。

金屬工業、機械工業、油脂工業、バルブ工業、曹達工業、酒精工業、柞蠶絲工業、紡績工業、製粉工業、セメント工業、



而シテ前記以外ノ企業ニ對シテハ差當リ自然ノ發達ニ委ヌヘキモ將來必要ニ應シ所要ノ統制ヲ加フル方針ヲ樹立セリ。斯クテ之ニ應センカ爲現在統制ヲ加ヘラレシモノヲ舉クレハ即チ次ノ如シ。

**石油工業** 國內ニ於ケル石油資源ヲ確保シ、需要ノ調整ヲ圖ル爲大同三年二月二十一日滿洲石油株式會社法ヲ制定シ、官民ノ出資ヲ以テ滿洲石油株式會社ヲ設立シ、石油ノ採掘、精製及賣買ニ關スル業務ヲ營マシメタリ。

**自動車工業** 自動車工業ノ統制アル健全ナル發達ヲ圖ランカ爲、康徳元年三月二十二日同和自動車工業株式會社法ヲ制定シ、同和自動車株式會社ヲ設立セシメ、實業部大臣ノ監督ヲ受ケ自動車ノ組立、製造、修理及賣買ニ關スル業務ヲ營マシムルコトトセリ。

**電氣工業** 國內電氣事業ノ統一經營ヲ行ヒ低廉ナル電力ノ供給ヲ圖ランカ爲ニ先ツ電氣事業及電氣利用ノ進歩發達ヲ圖ルヲ目的トシテ、政府ハ補助金ヲ交付シテ電氣協會ノ指導ニ努メ、或ハ電氣統制上周波ヲ五十サイクルニ公定スル等著者之カ實施ヲ進メツツアルモ、尙電氣關係法規ヲ整備シ近キ將來ニ於テ特殊會社ノ設立ヲ見ントスルニ至レリ。

其ノ他株式會社組織ニ依リ企業ヲ許可シタルモノニ煙草、酒精、セメントノ各工業アリ。尙一般工業ノ統制ニ關シ其ノ根本方針ヲ明確ニスル爲、工業法ノ制定ヲ急キツツアリ。

**工業ノ指導獎勵** 工業行政上最モ顧慮スヘキハ中小工業ノ指導、監督、助成トス、國內ノ各種工場ヲ見ルニ薄資微力ニシテ製造加工ノ設備充分ナラサルハ勿論、製造販賣ニ至ル迄極メテ不合理ナル慣習ヲ固執スルモノ多シ。即チ之等ニ對シテハ須ラク指導獎勵ノ方途ヲ講スヘキ要アルヲ以テ、其ノ一方法トシテ吉林地方ニ於テハ、工藝ノ改善ヲ圖ランカ爲、同省立工藝廠、女工廠ヲ改組シテ工業講習所ト爲シ、工藝指導ノ改善ヲ圖リタル外、車輛工業改善ニ關シ滿蒙車輛研究委員會ヲ

設置シ、之ニ補助金ヲ交付シテ地方農村ニ於ケル運搬器ノ改善研究ヲ獎勵セリ。

尙工業者間ノ連絡提携ニ缺陷アリ、且從來工商同業公會ヲ以テシテハ能ク之等ノ缺陷ヲ矯正シ得サルニ鑑ミ、政府ハ新ニ工業組合法ヲ制定シテ同業團體ノ強化ニ依リ舊弊ヲ除去シ、長所ノ助長ヲ圖ルヘク攻究ヲ進メツツアリ。次ニ輸出工業產品殊ニ柞蠶糸ニ就テハ、從來砂糖ヲ使用シテ増量ヲ圖リタルモノ多ク、對外信用ヲ失墜スル虞アルモノアリ、斯クノ如ク重要輸出品ニ就キテハ品質検査ヲ嚴重ニ行フ必要アルヲ以テ、政府ハ重要工業產品ノ品質ノ向上ト之ニ伴フ信用ノ増進ヲ圖リ次テ該工業ノ振興ヲ圖ルヘク検査所ヲ設置シテ不正品取締ヲ實施スル方針ナリ。

**各種調査ノ實施** 各種工業ヲシテ眞ニ充分ナル發達ヲ圖ラシメンカ爲、叙上ノ如ク政府ハ漸次割切ナル統制又ハ助長ノ方途ヲ講シ來レルモ、從來此等工業ノ實狀ニ關シテハ闡明セラレタル資料缺如セルヲ以テ、實業部ニ於テハ全國工場調査、油房調査、製粉工業調査、柞蠶糸工場調査、燒鍋業調査、紡績工業調査、洋襪製造工業調査等ヲ計畫シ既ニ實施中ナリ。

### 三 工場及職工數

大同元年度ニ於ケル全滿(關東州及滿鐵附屬地ヲ含ム)ニ於ケル工場數ハ四千七十九ニシテ、內國人ノ經營ニ係ル工場數三千二百五十二ニシテ、總數ノ約八〇%ヲ占メ、日本系七百五十四ニシテ之ニ次キ、其ノ他各國側七十五ナリ。次ニ之ヲ滿鐵沿線及滿鐵以外ノ鐵道沿線ニ於ケル各主要都市ニ就テ見ルニ、前者ニ於ケル工場數ハ後者ノ夫レニ約二倍シ、然モ前者地域ニ所在スルモノノ數カ總計ノ五七%ヲ占ムル點ヨリ見テ我國工場ノ大半ハ滿鐵沿線主要都市ニ集中セラレ居ルモノト言ヒ得ヘシ。尙之ヲ各都市別ニ付テ見レハ奉天ノ八百三十三(二三%)ヲ最トシ、以下安東四百十三(一〇%)、哈爾濱三百五十六(八%)、新京二百八十八(七%)等ヲ主ナルモノトス。

又之ヲ各業種別ニ就テ見ルニ、紡績工業最モ多ク、化學工業之ニ次キ、飲食品工業、窯業、金屬工業、機械器具工業ノ



順ナリ。即チ次表ノ如シ。

(其ノ一) 工場數

地別	滿洲側										日本側									
	滿洲側	日本側	其他	計	滿洲側	日本側	其他	計	滿洲側	日本側	其他	計	滿洲側	日本側	其他	計				
金	10	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
屬工業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
其他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
計	10	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
機械器具工業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
滿洲側	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
日本側	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
其他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
窯業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
滿洲側	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
日本側	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
其他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
紡織工業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
滿洲側	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
日本側	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
其他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				

地別	滿洲側										日本側									
	滿洲側	日本側	其他	計	滿洲側	日本側	其他	計	滿洲側	日本側	其他	計	滿洲側	日本側	其他	計				
化學工業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
其他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
食料品工業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
其他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
雜業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
其他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				

第四編 產業 第七章 工業



地 別	化學工業			食料品工業			雜工業			總計		
	滿洲側	日本側	其他	滿洲側	日本側	其他	滿洲側	日本側	其他	滿洲側	日本側	其他
關東	1,000	2,000	3,000	1,000	2,000	3,000	1,000	2,000	3,000	1,000	2,000	3,000
大連	1,000	2,000	3,000	1,000	2,000	3,000	1,000	2,000	3,000	1,000	2,000	3,000
其他	1,000	2,000	3,000	1,000	2,000	3,000	1,000	2,000	3,000	1,000	2,000	3,000
計	3,000	6,000	9,000	3,000	6,000	9,000	3,000	6,000	9,000	3,000	6,000	9,000
其他地方	1,000	2,000	3,000	1,000	2,000	3,000	1,000	2,000	3,000	1,000	2,000	3,000
合 計	4,000	8,000	12,000	4,000	8,000	12,000	4,000	8,000	12,000	4,000	8,000	12,000

備考 (一) ハ休業ヲ示ス滿鐵沿線都市ハ滿鐵附屬地及其ノ附近一帯ヲ含ム

次ニ職工數ハ關東州ヲ含ミテ十萬八千九百六名ニシテ、滿人共ノ九十四%ヲ占メ、日本人ハ其ノ大部分滿鐵沿線各都市並大連ニ在リ、其ノ數六千四十七名、(内朝鮮人約二千入)、蘇聯人僅カ四十五名ニ過キス。更ニ之ヲ各業種別ニ就テ見ルニ、常用職工數ハ工場數ト比例シ、其ノ最モ多數ヲ占ムルハ紡績工業ニシテ總數ノ三分ノ一ニ當リ、以下化學工業、製業、機械工業、飲食品工業、金屬工業之ニ次ク。

(其 一) 職工數及賃金

地 別	金 屬 工 業		機 械 工 業		工 具 工 業	
	滿 洲 側	日 本 側	滿 洲 側	日 本 側	滿 洲 側	日 本 側
新 京	100	200	150	300	120	250
地 別	職 工 數	職 工 數	職 工 數	職 工 數	職 工 數	職 工 數
	日 常 數	日 常 數	日 常 數	日 常 數	日 常 數	日 常 數
	職 工 延 數	職 工 延 數	職 工 延 數	職 工 延 數	職 工 延 數	職 工 延 數
	總 計 賃 金	總 計 賃 金	總 計 賃 金	總 計 賃 金	總 計 賃 金	總 計 賃 金

地 別	鐵 道 沿 線		滿 鐵 以 外 鐵 道 沿 線		關 東 州		其 他 地 方	合 計
	滿 洲 側	日 本 側	滿 洲 側	日 本 側	滿 洲 側	日 本 側		
天 陽	100	200	150	300	120	250	100	1,000
遼 東	100	200	150	300	120	250	100	1,000
安 東	100	200	150	300	120	250	100	1,000
營 口	100	200	150	300	120	250	100	1,000
其 他	100	200	150	300	120	250	100	1,000
計	400	800	600	1,200	480	960	400	4,000
大 連	100	200	150	300	120	250	100	1,000
其 他	100	200	150	300	120	250	100	1,000
計	200	400	300	600	240	480	200	2,000
關 東 州	100	200	150	300	120	250	100	1,000
其 他	100	200	150	300	120	250	100	1,000
計	200	400	300	600	240	480	200	2,000
其 他 地 方	100	200	150	300	120	250	100	1,000
合 計	1,000	2,000	1,500	3,000	1,200	2,400	1,000	10,000







備考 日人職工中ニハ朝鮮人ヲ含ム。印ハ蘇聯人職工ヲ……ハ不詳ヲ示ス。( )ハ職工延數及賃金不明なり

地別	職工延數	總計賃金	滿人日常數	職工延數	總計賃金	滿人日常數	職工延數	總計賃金
滿新	1,171,744	1,110,000,000	110	1,171,744	1,110,000,000	110	1,171,744	1,110,000,000
地別								
奉天	1,171,744	1,110,000,000	110	1,171,744	1,110,000,000	110	1,171,744	1,110,000,000
遼陽	...	...	...	...	...	...	...	...
安東	...	...	...	...	...	...	...	...
營口	...	...	...	...	...	...	...	...
其他	...	...	...	...	...	...	...	...
沿線	...	...	...	...	...	...	...	...
哈爾濱	...	...	...	...	...	...	...	...
齊齊哈爾	...	...	...	...	...	...	...	...
吉林	...	...	...	...	...	...	...	...
洮南	...	...	...	...	...	...	...	...
鄭家屯	...	...	...	...	...	...	...	...
其他	...	...	...	...	...	...	...	...
關東州	...	...	...	...	...	...	...	...
大連	...	...	...	...	...	...	...	...
其他	...	...	...	...	...	...	...	...
其他地方	...	...	...	...	...	...	...	...
合計	1,171,744	1,110,000,000	110	1,171,744	1,110,000,000	110	1,171,744	1,110,000,000

(其四)

地別	職工延數	總計賃金	滿人日常數	職工延數	總計賃金	滿人日常數	職工延數	總計賃金
滿新	1,171,744	1,110,000,000	110	1,171,744	1,110,000,000	110	1,171,744	1,110,000,000
地別								
奉天	1,171,744	1,110,000,000	110	1,171,744	1,110,000,000	110	1,171,744	1,110,000,000
遼陽	...	...	...	...	...	...	...	...
安東	...	...	...	...	...	...	...	...
營口	...	...	...	...	...	...	...	...
其他	...	...	...	...	...	...	...	...
沿線	...	...	...	...	...	...	...	...
哈爾濱	...	...	...	...	...	...	...	...
齊齊哈爾	...	...	...	...	...	...	...	...
吉林	...	...	...	...	...	...	...	...
洮南	...	...	...	...	...	...	...	...
鄭家屯	...	...	...	...	...	...	...	...
其他	...	...	...	...	...	...	...	...
關東州	...	...	...	...	...	...	...	...
大連	...	...	...	...	...	...	...	...
其他	...	...	...	...	...	...	...	...
其他地方	...	...	...	...	...	...	...	...
合計	1,171,744	1,110,000,000	110	1,171,744	1,110,000,000	110	1,171,744	1,110,000,000



#### 四 工業資本金

工業資本金ハ可及的實際ノ投資額ニ依リ計上セルモノニシテ、其ノ總額約二億四千餘萬圓ニ達ス。然レ共之ヲ各國別ニ見レハ我國ハ内六千七百九十餘萬圓ニシテ總額ノ約二八%ヲ占ムルニ過キス。其他各國ノ一千九百餘萬圓(總額ノ八%)ヲ除キタル一億五千四百餘萬圓ハ實ニ日本側ノ投資セルモノニシテ總額ノ約六三%ヲ占ム。尙日本以外ノ前記各國投資額中特ニ注意スヘキハ英國ニシテ、日本ヲ除ク各國ノ約四八%ヲ占メ、専ラ煙草工業ニ投下セラレタルモノナリ。投資額ヲ示セハ次ノ如シ。

#### 工業資本金

(業種別及比率)

業種別	滿洲側		日本側		其他		計	
	總額	比率	總額	比率	總額	比率	總額	比率
金屬工業	五、七五〇、〇〇〇圓	八・六%	一、七二〇、〇〇〇圓	二・五%	二、九七〇、〇〇〇圓	四・三%	一〇、七〇〇、〇〇〇圓	一三・一%
機械器具工業	五、七五〇、〇〇〇圓	八・六%	一、七二〇、〇〇〇圓	二・五%	二、九七〇、〇〇〇圓	四・三%	一〇、七〇〇、〇〇〇圓	一三・一%
窯業	二、七〇〇、〇〇〇圓	三・九%	一、九〇〇、〇〇〇圓	二・七%	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一・四%	五、六〇〇、〇〇〇圓	七・一%
紡績工業	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一・四%	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一・四%	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一・四%	三、〇〇〇、〇〇〇圓	三・九%
化學工業	三、七〇〇、〇〇〇圓	五・一%	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一・四%	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一・四%	五、七〇〇、〇〇〇圓	七・四%
飲食品工業	三、〇〇〇、〇〇〇圓	四・一%	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一・四%	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一・四%	五、〇〇〇、〇〇〇圓	六・五%
雜工業	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一・四%	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一・四%	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一・四%	三、〇〇〇、〇〇〇圓	三・九%
計	六、七〇〇、〇〇〇圓	九・一%	六、七〇〇、〇〇〇圓	九・一%	六、七〇〇、〇〇〇圓	九・一%	二十、〇〇〇、〇〇〇圓	二五・〇%

工業資本金ヲ業種別ニ見ルニ、其ノ順位ハ化學工業、飲食品工業、金屬工業等ニシテ、其ノ最モ代表的ナルモノヲ舉クレハ、化學工業ニ於テハ大豆油工業(二千九百餘萬圓)、飲食品工業ニ於テハ製粉工業(一千七百餘萬圓)、金屬工業ニ於テハ製鐵業(三千二百餘萬圓)等ナリ。

而シテ一工場ノ平均投資額ハ約六萬圓ナルモ、我國ニ於テハ平均僅カ二萬圓台ニ過キス。日本及其他各國ノ平均ハ二十萬圓ヲ超ヘ、我國ノ平均投資額ノ十倍以上ニ當ル、之レ我國工業界ノ現勢ヲ示スモノニシテ注目スヘキ事實ナリ。

#### 五 工業生産額

大同元年度現在ニ於ケル工業生産額總額ハ三億二千四百餘萬圓ニシテ、主ナル種業別ニ就テ見ルニ、化學工業ノ一億二千四百餘萬圓(三八%)、飲食品製造工業ノ六千餘萬圓(一九%)、紡績工業ノ四千餘萬圓(一二%)、機械器具工業ノ二千八百萬圓(九%)等ナリ。

而シテ更ニ之ヲ各業種別ニ就キ檢討スルニ、化學工業ニ於テハ大豆油工業ノ一億五百餘萬圓(三九%)、飲食品製造工業ニ於テハ製粉業ノ二千四百餘萬圓(三九%)、紡績工業ニ於テハ綿絲綿織物業ノ二千三百餘萬圓(五七%)、機械器具製造工業ニ於テハ鐵道車輛工業ノ二千餘萬圓(七一%)、金屬工業ニ於テハ製鐵業ノ一千百餘萬圓(七八%)等ナリ。

次ニ地方別ニ就キ之ヲ見レハ、滿鐵沿線各都市ト關東州トノ合計ハ二億五千餘萬圓ニシテ總額ノ約八〇%ヲ示シ、其ノ工業資本金ト比例シテ著シキ數額ヲ示セリ。



備考 休業中ノ工場ヲ除ク

地 別	化學工業		飲食品工場		雜業		紡績工業	
	工場數	生産額	工場數	生産額	工場數	生産額	工場數	生産額
新 京	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
奉 天	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
遼 陽	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
安 東	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
營 口	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
其 他	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
計	6	60,000,000	6	60,000,000	6	60,000,000	6	60,000,000
滿 鐵 沿 線	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
齊 齊 哈 爾	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
哈 爾 濱	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
齊 齊 哈 爾	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
吉 林	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
遼 寧	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
其 他	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
計	6	60,000,000	6	60,000,000	6	60,000,000	6	60,000,000
關 東 州	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
大 連	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
其 他	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
計	2	20,000,000	2	20,000,000	2	20,000,000	2	20,000,000
其 他 地 方	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
合 計	13	130,000,000	13	130,000,000	13	130,000,000	13	130,000,000

地 別	金屬工業		機械器具工業		窯業		紡績工業	
	工場數	生産額	工場數	生産額	工場數	生産額	工場數	生産額
新 京	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
奉 天	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
遼 陽	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
安 東	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
營 口	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
其 他	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
計	6	60,000,000	6	60,000,000	6	60,000,000	6	60,000,000
滿 鐵 沿 線	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
齊 齊 哈 爾	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
哈 爾 濱	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
齊 齊 哈 爾	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
吉 林	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
遼 寧	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
其 他	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
計	6	60,000,000	6	60,000,000	6	60,000,000	6	60,000,000
關 東 州	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
大 連	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
其 他	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
計	2	20,000,000	2	20,000,000	2	20,000,000	2	20,000,000
其 他 地 方	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000	1	10,000,000
合 計	13	130,000,000	13	130,000,000	13	130,000,000	13	130,000,000

業種別生産額



## 第二節 主要工業

### 一 窯 業

セメント工業 滿洲ニ於ケルセメント工業ハ 明治四十一年 關東州周水子ニ小野田セメント會社大連支社工場ノ設置セラレタルヲ以テ其ノ初メトナス。即チ此時ヨリ以前ニ在リテハ日露兩國其ノ他ノ鐵道敷設及土木建築工事ノ増加ニ依リセメントノ需要亦少カラサリシモ専ラ之ヲ輸入ニ仰キ居タリ。

由來我國ハ石灰石、菱苦土礦、白雲石頁等ノセメント原料ニ富ミ且製鐵工業ニ伴フ鑛錳ノ產出アル外、本企業ニ對スル有利ナル條件ノ存在及需要ノ増加ハ特ニ歐洲大戰直後以來セメント工業ノ發達ヲ促スニ至レリ。其ノ主ナルモノ滿洲セメント會社、東洋セメント會社(ポートランドセメント)等ノ如シ。然レトモ唐山セメント、沿海州スバスカセメント、日本其ノ他外國産セメントノ競争アリ、加フルニ一般經濟界ノ不況ト共ニ本工業亦自ラ不振ノ状態ニ陥レリ。尙鞍山製鐵所、本溪湖製鐵所、南滿鑛業株式會社、葦沖鑛業公司、滿洲微粉工業會社其ノ他ノ工場ニ於テ高爐セメント、マグネシヤセメント、ドロマツチクセメント等ノ生産ヲ行ヒタルモ事業好調ヲ迎ラス、此ノ間僅カニ小野田セメント會社工場ノミハ漸次其ノ規模ヲ擴張シ全滿需要量ニ相當スルポートランドセメントヲ生産スルニ止マリタリ。

然ルニ我建國以來一般土木建築工事頓ニ激增シ、セメントノ需要亦巨額ニ及ヒタル爲、本工業ハ未曾有ノ好況ヲ呈スルニ至レリ。此ノ機運ニ乘シ新ニ興レルモノトシテハ大同洋灰股份有限公司(生産能力十一萬噸)ノ吉林ニ設立セラルルアリ。

更ニ滿洲セメント株式會社(十二萬噸)ヲ遼陽ニ設立計畫中ナリ。其ノ他鞍山製鐵所ノ鑛錳セメント作業復活ノ議アリ、撫順頁岩セメントノ產出亦遠カラサルカ如シ。

滿洲産業統計ニ據ル大同元年度ニ於ケルセメントノ生産額ハポートランドセメント、生産額一〇八、四〇八噸、價額一、四〇八、〇五〇圓、其ノ他ノセメント、生産額三一、九八一噸、價額七〇八、五六二圓ナリ。更ニ其ノ輸出入額ヲ示セハ次ノ如シ。

大同二年	大同元年	輸入	輸出
三、四一八、九一五	四一六、一九六	六、三三八、一三三	二四〇、三三四
一、〇〇四、七六六	一、〇〇四、七六六	五九四、八八一	三七六、五九〇
九三三、四三三	九三三、四三三	九三三、四三三	九三三、四三三

煉瓦製造業 我國ニ於ケル煉瓦ノ製造ハ極メテ古キ沿革ヲ有シ、古代ノ遺物トシテ現ハルモノニハ其ノ質相當優秀ナルモノヲ見ルモ、現今使用セラレツツアル黒煉瓦ハ其ノ質脆弱粗惡ニシテ家内工業的ニ隨所ニ生産セラルルモノナリ。其ノ主産地ヲ奉天、新京、齊々哈爾、洮南等トス。一般ニ赤煉瓦ト稱スルモノハ前者ト異ナリ相當ノ工場ニ於テ生産セラルルモノニシテ一九一〇年頃ヨリ產出ヲ見ツツアリシカ、近時新興建設事業ノ増加ニ伴ヒ機械製赤煉瓦ノ需要亦増加シ業務ノ好況ヲ來セリ。

滿洲産業統計ニ依レハ大同元年度ニ於ケル煉瓦製造業ニ對スル投資額ハ普通煉瓦四百餘萬圓、特殊煉瓦六十餘萬圓合計四百六十餘萬圓ニシテ、其ノ生産額ハ普通煉瓦一九七、五八九、三四〇個、價額一、七四四、五七三圓、耐火煉瓦二三、七〇八噸、價額三〇〇、四一三圓、屋根瓦一、八九四、九〇〇個、價額四四、四二六圓ニシテ其ノ總價額二百餘萬圓ニ達ス。

### 二 製鐵工業

國內ニ於ケル製鐵原料ハ滿鐵鑛ヲ除ク外極メテ豊富ニシテ、現在ニ發見採掘セラレツツアル鐵鑛々區トシテハ鞍山附



近二十數個所、本溪湖附近二十二個所並ニ弓張嶺鐵山アリ、其ノ埋藏量十二億噸ヲ超ユト稱セラレ、其ノ他石灰、石炭、耐火材料共ニ豊富ニシテ勞賃ノ低廉等ト相俟チ製鐵事業ノ將來ヲ有望ナラシムルモノト謂フヘシ。只憾ムラクハ鐵礦石ノ含鐵分低ク、富礦ニ乏シキモ、鞍山製鐵所ニ於ケル貧礦處理法ノ完成ハ、國內ニ於ケル製鐵業ノ將來ニ多大ノ期待ヲ與ヘシメタルト共ニ、最近ニ至リ銑鋼一貫主義ノ實現セラレタルハ獨リ經濟建設途上ニアル我國ノ爲ノミナラス、滿日兩國ノ製鐵國策上慶賀ニ堪ヘサル所ナリ。

國內ニ於ケル製鐵事業トシテハ現在本溪湖煤鐵公司及昭和製鋼所ノ二者ヲ算スルノミナリ。本溪湖煤鐵公司ハ宣統三年日支合辦事業トシテ創立セラレタルモノニシテ、大正六年ニ至リ諸般ノ設備ヲ完成シタルモ、引續キ歐洲大戰後ノ經濟界ノ不況ニ禍セラレ縮小ヲ重ネ、一時事業ノ中止ヲ見タルモ、大正十二年ヨリ復活シ漸次好調ヲ迎リツツアリ。大同二年ニ於ケル銑鐵生産額ハ八一、〇五六噸、價額三、三七五、六二六圓ナリ。

昭和製鋼所ハ昭和二年以來滿鐵ヲ中心トシテ鞍山製鐵所トノ合理的經營ヲ企圖シテ計畫セラレタルモノニシテ、昭和四年五月日本政府ノ認可ヲ得タルモ、工場敷地其ノ他ノ問題ノ爲遷延シツツアル間偶々滿洲事變ノ勃發ニ遭ヒ一時中絶ノ状態ニアリシカ、建國ト共ニ本問題亦解決ノ緒ニ就キ銑鋼一貫主義ニ基キ既存ノ鞍山製鐵所ヲ合併シテ工場ヲ鞍山ニ置クコトト定メ大同二年六月ヨリ新工事ニ着手シ、康徳二年竣工ノ豫定ナリ。

同製鋼所ハ資本金一億圓、生産能力年産四〇萬噸（鋼材一三〇、〇〇〇噸、銑鐵七九、六〇〇噸、鋼片二〇〇、〇〇〇噸）ニシテ、製品ハ銑鐵及鋼片ハ主トシテ之ヲ日本内地ニ供給スル外、中華民國、南洋方面ニ市場ヲ開拓セントス。大同二年ニ於ケル同製鋼所ノ生産額ハ銑鐵二八七、二二四噸、價額七、七〇五、〇一〇圓ナリ。

一方國內ニ於ケル鐵及鋼ノ需要ハ各般經濟建設ノ發表ニ伴ヒ益々増加シ、其ノ國內自給自足ノ途未タ遠キヲ感セシム。

今大同元年及二年ニ於ケル銑鐵輸出額並ニ鐵及鋼ノ輸出入額ヲ見ルニ左ノ如シ。

	輸出		輸入	
	數量	金額	數量	金額
大同二年	八、二四	一〇、四四六	—	三九、九九六
大同元年	六、一〇〇	一五、〇六九	—	二二、三〇八

### 三 機械器具製造業

機械工業トシテハ從來大連其ノ他ニ滿鐵鐵道工場、大連機械製作所等約十工場アリタル外、建國以來多數ノ新計畫現ハレ逐次増加ノ趨勢ニアリ。其ノ主ナルモノヲ擧クレハ奉天ニ於ケル奉天造兵所、滿洲工廠、日滿鋼材工場、鞍山ニ於ケル日本レール會社軌條工場等アリ。

滿鐵鐵道工場ハ同社ニ使用スル車輛ノ製作、組立、修繕ヲ目的トシ明治四十一年（光緒三十四年）沙河口ニ設立セルモノニシテ大連機械製作所ハ大正七年（民國七年）ノ創立ニ係リ、主トシテ滿鐵鐵道工場ノ下請ヲ爲スモノニシテ、車輛、線路用品、機械類等ノ製作ヲ爲シツツアリ。

奉天造兵所ハ舊政權ノ設立セル奉天造兵廠ノ設備ヲ利用シ大同元年十月日本ノ出資ニ依リ株式會社奉天造兵所トシテ設立セラレタルモノナリ。各種兵器彈藥類、火藥類及其ノ原料品、諸器具機械類、金屬各種材料及其ノ製品ノ製造、修理、販賣ヲ爲スヲ目的トス。

尙自動車工業ニ關シテハ之ニ統制ヲ加ヘ以テ健全ナル發達ヲ圖ル要ヲ認メ、同和自動車工業株式會社ヲ設立シ、實業部



大臣監督ノ下ニ自動車ノ組立、製造、修理及賣買ニ關スル業務ヲ營マシムルコトナレリ。  
各般建設事業ノ進展ハ各種機械器具ノ需要ヲ激増スヘク、本工業ノ將來亦洋々タルモノアリ。今機械器具、鐵道及其ノ他車輛及造船工業生産額ヲ見ルニ左ノ如シ。

工場數	生産額
機械器具	一〇五
鐵道車輛	五、七九二、七三八
其他車輛	二〇、六三四、三七〇
造船	四七六、八九〇
計	一、三二七、四八〇
	二八、三三一、四七八

又參考ノ爲大同元年及同二年度ニ於ケル、車輛類ノ輸入額ヲ示セハ大同元年五、二五〇千圓、大同二年二二、六九八千圓ナリ。

### 四 製油工業

油房業 油房業ノ初メテ現ハレシハ約六十年前ノコトニシテ、既ニ日清戰役ノ頃牛莊(現在ノ營口)ニハ油房三十餘ヲ算シタリ。而シテ此等ハ何レモ小規模ニ經營セラレタルモノナルカ、其ノ後水壓式壓搾機ノ利用普及ハ遂ニ今日ノ如キ大工業發達ノ礎地ヲ爲スニ至レリ。

油房ノ目的ハ初メ豆油ノ生産ニアリ、豆粕ハ其ノ副産物トシテ家畜ノ飼料ニ供セララルニ過キサリシカ、逐年豆粕ノ肥

料トシテノ價值高マリ、日本其ノ他ニ於ケル需要ノ激増ハ延イテ油房ノ主目的ヲ逆轉シ、豆粕ノ製造ヲ主體トシ豆油ヲ副産物ト爲サシムルニ至リタリ。斯クテ歐洲大戰ヲ機トシ油房業ハ異常ナル發達ヲ來シタルモ、近年ニ至リ經濟界ノ世界的不景氣、輸出入貿易上ノ障礙、硫酸ノ進出等ニ因リ多大ノ打撃ヲ蒙リ不振ノ状態ニ陥レリ。

現在國內ニ散在スル油房工場ハ其ノ數三千ニ餘ルモ、内相當ノ能力設備ヲ有スルモノヲ示セハ次ノ如シ。

#### 油房

(大連油房聯合會調査ニ據ル)

地方別	工場數	機械種類及台數		一日製造能力	
		水壓式	螺旋式	豆粕	豆油
大連	五〇	二、三六八	一、一七	一四八、八一四	七四四、〇七〇
營口	二〇	五二六	一八六	三三、一七六	一六五、八八〇
安東	二二	二三四	一〇九〇	三七、〇一〇	一八五、〇五〇
哈爾濱	四三	一、〇四一	一、〇三二	九三、五一〇	四六七、五五〇
南滿各地	二三八	三四四	三、二七八	八七、九二〇	四三九、六〇〇
北滿各地	二八	四一四	三五四	三八、一三〇	一九〇、六五〇
計	四〇二	四、九二七	七、〇五七	四三八、五六〇	二、一九二、八〇〇

又滿洲産業統計ニ從ヘハ大同元年ニ於ケル大豆油及豆粕ノ生産額次ノ如シ。

工場數	數量	金額
大豆油	一五九、一五九	三一、六二八、三七二
豆粕	四七三	七二、一二四、七六六

而シテ大同元年及同二年ニ於ケル此等豆油及豆粕ノ輸出ヲ見ルニ左ノ如シ。



大豆 數量 價額  
 大同二年 一七、八〇〇圓  
 大同元年 一七、八〇〇圓  
 大豆 數量 價額  
 明治四十一年 一七、八〇〇圓  
 光緒三十四年 一七、八〇〇圓  
 撫順炭礦ニ於テ油母頁岩ノ發見セラレタルハ 明治四十一年ノコトニシテ爾來之ヲ原料トスル採油事業ニ就キ研究中ナリシカ、昭和三年金一十萬圓ヲ投シ内熱式乾留ニ依リ一日四千噸ヲ處理スヘキ撫順炭礦製油工場ヲ設置スルコトナリ、昭和五年一月工場ノ完成ト共ニ綠葉ヲ開始シタリ。撫順炭礦々區内ニ埋藏セララル油母頁岩ハ約五十四億噸ト稱セラレ、其ノ含油平均五・五%トスルトキハ原油ノ總額三億噸ニ達スヘシ。殆無盡藏ナル原料ノ包藏ト製油設備ノ擴張トハ相俟テ將來ノ滿日燃料國策上重要ナル貢獻ヲ爲スヘキモノト期待セララル。

最近三箇年間ニ於ケル同製油工場ノ作業成績ハ次ノ如シ。

年次	油母頁岩		粗油		生油		重油		粗蠟		燬炭		硫安					
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額				
昭和八年	一、三三三、二八六	六三、〇五九	四〇、一六一	一一、六四〇	三、四四五	一五、八〇二	一、四一七、六五八	七二、一〇八	四三、二七五	一三、八九七	三、五九七	一六、四一五	一、五八九、八八八	九〇、七四二	五四、七七二	一九、〇六六	四、六七〇	一九、八六三
昭和七年	一、四一七、六五八	七二、一〇八	四三、二七五	一三、八九七	三、五九七	一六、四一五	一、四一七、六五八	七二、一〇八	四三、二七五	一三、八九七	三、五九七	一六、四一五	一、四一七、六五八	七二、一〇八	四三、二七五	一三、八九七	三、五九七	一六、四一五
大同元年	一、四一七、六五八	七二、一〇八	四三、二七五	一三、八九七	三、五九七	一六、四一五	一、四一七、六五八	七二、一〇八	四三、二七五	一三、八九七	三、五九七	一六、四一五	一、四一七、六五八	七二、一〇八	四三、二七五	一三、八九七	三、五九七	一六、四一五
昭和六年	一、五八九、八八八	九〇、七四二	五四、七七二	一九、〇六六	四、六七〇	一九、八六三	一、五八九、八八八	九〇、七四二	五四、七七二	一九、〇六六	四、六七〇	一九、八六三	一、五八九、八八八	九〇、七四二	五四、七七二	一九、〇六六	四、六七〇	一九、八六三

硬化油工業 硬化油工業ハ比較的近年ニ於テ發達セル工業ニシテ、大連油脂工業株式會社(資本金一〇〇萬圓)現在五〇萬圓ニ減資ス一年産五七〇萬斤)ハ唯一ノ工場ニシテ、現在豆油一ヶ月五〇〇噸ヲ硬化シ得ル設備ヲ有シ、石鹼、人造ラ、マガリン等ノ製造ヲナス。將來豆油ノ中間加工トシテ又食料油脂ノ製造業トシテ斯業ノ發展ヲ期待サル。

### 五 其他化學工業

**肥料工業** 肥料製造工業トシテ骨粉及硫安ノ製造アリ。前者ハ大連滿蒙殖産株式會社之ヲ行ヒ、後者ハ撫順炭礦、昭和製鋼所、南滿瓦料會社等ニ於テ副産物トシテ生産セララル。硫安ノ工業ハ軍需工業ト密接ナル關係ヲ有スルノミナラス、滿日兩國共硫安ノ需要ハ益々増加スヘキ趨勢ニアルヲ以テ將來最モ矚目セララル工業ノ一トナス。即チ之ニ鑑ミ、將來國內ニ於ケル需要ヲ考慮シ、滿日兩國ノ硫安ノ自給ヲ策スルト共ニ海外進出ヲ圖ル爲大同二年滿洲化學工業會社ノ設立ヲ見タリ。會社ハ硫安其ノ他各種ノ窒素肥料、化學工業品及副産物ノ製造ヲ目的トスルモノニシテ、資本金二千五百萬圓ヲ以テ、本社ヲ大連ニ置キ工場ヲ甘井子ニ建設シ、差當リ年額十八萬噸ノ硫安ヲ製造スル計畫ナリ。

大同元年ニ於ケル動物質肥料並硫安ノ生産額ヲ示セハ次ノ如シ。

動物質肥料	數量		金額	
	數量	價額	數量	價額
硫安	六、五八四	三、八五、八三四	二二、七四〇	八、九四、四二五

**酒精工業** 酒精工業ハ約三十年前露人チャイコフスキーカ舊哈爾濱ニ酒精製造工場ヲ設立セルヲ以テ其ノ濫觴トナス。現在我國ニ於ケル酒精製造業ハ殆ト北滿ニ限ラレ、同地方産ノ包米高梁ヲ主要原料トナシ、品質優秀ナリ。而シテ其ノ販路ハ之ヲ極東露西亞方面ニ求メタリシカ、一九二二年蘇聯邦ニ禁酒令布カレタル爲國內ノ生産亦自ラ過剩トナリ、業者舉リテ經營難ニ陥リタリ。仍テ翌一九二三年同業者間ニシンチケートヲ組織シ、生産販賣ノ統制ヲ圖ラントセルモ、加盟



者ハ、昭和酒精公司、廣記酒精廠以下六工場ニ止マリタリ。斯クテ大同二年ニ入り當事者間ニ本工業統制提唱セラレ、其ノ前提トシテ北滿ニ於ケル最大工場タル前記昭和酒精公司及廣記酒精廠ヲ合併シ、國內ニ於ケル酒精事業ノ統制ニ順應シ、特産穀物ヲ原料トスル酒精、飲料及燃料ノ生産ヲ行フ爲、新ニ滿日合辦ニ依ル大同酒精公司ヲ起スコトナリ、同年末創立ノ手續ヲ了セリ、

大同元年ニ於ケル全國酒精生産額ハ二八五、九七五噸、其ノ價額四、三五三、五〇〇圓ナリ。(滿洲産業統計ニ據ル)

**燐寸工業** 滿洲ニ於ケル燐寸工業ハ、光緒三十二年長春ニ廣仁津火柴公司設立セラレ、翌年同公司ヲ買收シテ日清燐寸株式會社ノ設立セラレタルヲ以テ濫觴トナス。其ノ後歐洲大戰ノ影響ニ依リ大連、安東、吉林、奉天、營口等ニ續々工場ノ設立セララルアリ、相互ノ競争激甚ヲ極メシカ、後南滿北滿共ニ同業會ヲ組織シ、販賣區域ヲ定メ其ノ成績良好ナリシカ、民國十三年頃ヨリ瑞典燐寸會社ノ進出ニ依リ壓迫ヲ受クルコト甚ク、遂ニ之カ支配ニ歸シタルモノ尠カラス。仍テ舊政權ハ民國二十年東北燐寸專賣制度ヲ定メ其ノ代行ヲ日支聯合會ニ一任セリ。斯クテ滿洲專賣勃發後瑞典燐寸會社亦聯合會ニ加入ヲ申込ミタルヲ以テ、改メテ全滿ノ企業者ヲ網羅シテ東北火柴維持會ヲ組織シ、販賣機關トシテ公賣處ヲ設置シ、其ノ資本全額ヲ日本側同業者ニ於テ負擔セリ。

我國成立後大同元年七月前記公賣處ヲ財政部ノ直轄ト爲シ、同十一月滿洲火柴公賣承辦處ト改メ、東北火柴維持會亦滿洲火柴聯合會ト改稱、漸次販賣高ヲ増加セリ。一方瑞典燐寸系ハ漸次情勢不利トナリシ爲其ノ所有株ヲ賣渡シ、我國燐寸界ヨリ退クニ至リタリ。大同元年ニ於ケル國內燐寸工場數ハ一九ニシテ、其ノ生産數量一九三、四六三箱、價格一、二二七、二九一圓ナリ。(滿洲産業統計ニ據ル)

**石鹼工業** 石鹼製造ハ光緒三十二年頃日本人ニ依リ大連ニ創設セラレタル以來、滿日露人ノ工場漸次増加シ現在ニ於テ

ハ之ニ從事スル工場數國內ヲ通シテ四十九ニ及ビ、大同元年ニ於ケル化粧石鹼ノ生産額一七〇、二三七打、價額一二九、四三五圓、其ノ他石鹼二、四二七、一〇八打 六〇八、六四六圓ナリ。(滿洲産業統計ニ據ル)

### 六 纖維工業

**綿絲紡織業** 滿洲ニ近代工業トシテ紡織業起リシハ民國十二、三年頃ノコトニシテ、多數ノ工場ノ設立ヲ見タルカ、其ノ業績概ネ不振ニシテ、僅カニ滿洲紡績會社、内外棉花會社、滿洲福紡會社、奏天紡紗廠、營口紡紗廠ノ活動ヲ見ルニ止マル。

而シテ右ノ内奉天紡紗廠ハ官商合辦ノ株式組織ニシテ、資本金四百五十萬圓、職工約千八百名ヲ擁シ、繰業鍾數三六、〇〇〇鍾、織機二百五十臺、一日ノ生産綿絲十六番手五十俵、十番手十俵、平番手十俵及細布百二十俵ナリ。又營口紡紗廠ハ資本金二百萬圓、半額拂込ニシテ、紡機二十八臺、織機三百四十臺ヲ有シ、其ノ原料ノ大部分ハ國內棉花ヲ使用シ居レリ。

要スルニ本工業ハ國內棉花増産計畫ノ實施ト製品需要ノ増加トに伴ヒ、益々發展ノ餘地多大ナルトニ鑑ミ、其ノ將來極メテ有望ナルモノト爲スヘシ。大同元年ニ於ケル綿絲綿布生産額ヲ示セハ次ノ如シ。

綿	數	價
綿	九〇、〇二四捆	一四、二〇六、四四〇圓
布	二、五三七、六一七疋	八、八八四、五〇三圓

尙輸出入綿絲及綿布ノ金額ヲ示セハ次ノ如シ。

第四編 産業	第七章 工業
第四編 産業	第七章 工業



大同二年 輸出 六、九九九  
大同元年 八、二〇二

輸入 (單位千圓)  
二〇、九二七  
一一、三二九

**製麻業** 由來滿洲ハ麻袋ノ需要多キノミナラス、氣候風土麻ノ栽培ニ適セル爲製麻工業ハ夙ニ有望トセラレタル所ニシテ、民國六年大連ニ滿洲製麻會社、同八年ニ奉天製麻會社設立セラレタリシカ、印度產麻袋ニ壓迫セラレ經營不振ニ陥リ後者ハ遂ニ工場ヲ閉鎖シタルモ、最近ニ至リ再ヒ復活ヲ辿リツツアリ。我國ノ麻袋輸入ハ每年新麻袋大約三千萬枚、古麻袋同シク千五百萬枚ナルモ、國內ニ於ケル需要ハ每年七千萬枚ヲ超ユト稱セラレ、從ツテ尙其ノ間多大ノ不足ヲ感シツツアルヲ以テ、本工業ノ前途ハ極メテ有望ナルモノトイフヘシ。大同元年ニ於ケル國內生産額ハ四、七五六、五一三枚、價額一、三三一、八二三圓ニ過キス。

**毛織工業** 由來我國ハ國內到ル處ニ羊毛ヲ產出スルヲ以テ、毛織工業亦當然發達スヘキニ拘ハラズ、然モ尙微々振ハサルハ畢竟羊毛ノ品質劣等ナルニ因ル。從ツテ現在ニ於テハ原毛ノ儘國外ニ輸出セラルルモノ多ク、毛織工業トシテノ發達亦見ルヘキモノナキ狀態ニアリ。

我國ニ於ケル毛織工業トシテハ民國七年設立セラレタル滿蒙毛織會社ヲ以テ最初トシ、其ノ後民國十三年哈爾濱ニ裕慶德毛織工廠ノ設立セラレタルモ、共ニ事業振ハサリシカ、改良羊毛増產獎勵ニ伴ヒ漸次發達ニ到ルヘキヲ信ス。

大同元年ニ於ケル毛織物毛布其ノ他毛織物ノ生産額ヲ示セハ次ノ如シ。(滿洲産業統計ニ據ル)

工場數	數量	價額
毛織物	八	六三四、〇六八
毛布	二二	一七二、一六七
		一、七三九、七九四圓
		二、八九〇、〇七四圓

其ノ他毛織物 一二

二四八、三三三圓

尙毛織物類ノ輸入ヲ見ルニ、大同元年ニ於テ六、三二四千圓、大同二年ニ於テ七、八三二千圓ナリ。

**柞蠶絲工業** 柞蠶業ハ蓋平ヲ中心トスル各地ヨリ起リ、光緒三十年頃大柞絲ノ製造ヲ見タルカ爾來海城、安東、岫巖、鳳城、西豐等諸縣ニ擴マリ、多數ノ柞蠶絲製造工場ノ設置ヲ見ルニ至レリ。現在柞蠶絲ハ大豆、豆粕、石炭ニ次ク重要輸出品ノ一ニシテ柞蠶繭ノ年收約六〇—一〇〇億粒、平均八五—六億粒ト推定セラル。

柞蠶絲ノ輸出ハ日本ヲ主要得意先トシテ支那、米國ニモ相當輸出サレタルモ、現今殆ト日本方面ニ限ラル。製絲工場トシテハ大規模ナル工場組織ニ依ルモノト、農家ニ於ケル副業トシテ小規模ニ營ムモノトアリ、工場組織ニ依ルモノハ柞蠶ノ集散地ニ集中セラル、其ノ主ナルモノハ安東ヲ首トシテ西豐、海城、蓋平、岫巖、鳳城等ニ最モ多シ。柞蠶製絲工場及絹紬製絲工場ノ分布ヲ見ルニ左ノ如シ。

產地別	柞蠶製絲工場			絹紬製絲工場		
	工場數	機械台數	一日生産能力(斤)	工場數	機械台數	生産額(圓)
安東	四三	九、二一五	五、二六一	一七	一八六	三二、七〇〇
蓋平	一四	三、〇六〇	六五五	五	二〇〇	—
海城	一二	六、〇九〇	二、二四〇	三	二〇〇	—
奉天	—	—	—	—	—	—
西豐	四四	四、一四五	八七六	—	—	—

尙柞蠶絲及同製品ノ輸出ヲ見ルニ次ノ如シ。



柞蠶繭及同輸移出額

品種別	大同二年		大同元年	
	數量	價額	數量	價額
野蠶繭及同層繭	八八、一三六斤	一〇〇、〇〇〇圓	九〇、〇〇〇斤	一一〇、〇〇〇圓
柞蠶繭	一、一六六、〇〇〇斤	一、一六六、〇〇〇圓	一、一六六、〇〇〇斤	一、一六六、〇〇〇圓
絹層繭	一、一六六、〇〇〇斤	一、一六六、〇〇〇圓	一、一六六、〇〇〇斤	一、一六六、〇〇〇圓
絹製絲	一、一六六、〇〇〇斤	一、一六六、〇〇〇圓	一、一六六、〇〇〇斤	一、一六六、〇〇〇圓
合計	三、一八〇、〇〇〇斤	三、一八〇、〇〇〇圓	三、一八〇、〇〇〇斤	三、一八〇、〇〇〇圓

七 製紙及バルブ工業

製紙工業ハ其ノ發達極メテ遅々トシテ、民國六年吉林ニ日支合辦ノ富寧製紙公司設立セラレタルヲ初メトシ、年來多數ノ企業起リタルモ、其ノ大部分ハ業績舉ラス萎微ノ状態ニ在リ。此ノ間<sup>民國</sup>八年安東ニ創立セラレシ鴨綠江製紙會社及同十二年同地ニ設立セラレシ六合紙廠等二三會社ノ事業ヲ繼續スルノミナリ。

次ニバルブ工業ハ從來前記鴨綠江製紙會社ニ於テ少量ノ生産ヲ爲シ來リタルモ、我國建國後ニ於ケル事情ノ變轉ニ伴ヒ、國內ノ木材ヲ材料トスル本工業ノ勃興ヲ見、康徳二年ニ於テバルブ工業ヲ目的トスル企業ノ成立ヲ見ントスル計畫ナリ。要之現在國內ニ於ケル紙類及バルブノ生産ハ到底需要ヲ充スニ足ラス、尙多クヲ國外ヨリノ輸入ニ俟ツ現状ニアリ。次ニ大同元年ニ於ケルバルブ及紙類生産狀況及大同元年及二年ニ於ケル紙類輸入額ヲ示セハ次ノ如シ。

バルブ及紙類生産狀況	數量		價額	
	工場數	數量	數量	價額
バルブ	一	三、三七九	一	二八七、六二〇圓
紙類	一八	—	—	—
紙類輸入額	大同二年	一〇、〇一一	大同元年	七、四六一
		千圓		

八 製材工業

我國ノ製材事業ハ古ク宣統二年以來大連、安東方面ニ起リタルヲ初メトシ、歐洲大戰後ニ於テハ時局ノ影響ニ依リ木材ノ海外輸出旺盛ヲ極メ、鴨綠江材ノ異常ナル活躍ヲ見、製材業ノ勃興ヲ促シタルモ其ノ後ニ襲來セル世界の不況ノ爲殆ト解散ノ悲運ニ陥レリ。斯クテ滿洲事變起リ我國建國成ルヤ各種土木建築材料トシテ木材ノ需要激増シ、爲ニ各地ニ製材工場ノ設置ヲ計畫スルモノ尠カラズ。大同元年ニ於ケル製材生産額ハ三三〇、二二八立方尺、價格七、二二六、四七一圓ニ達シタルモ、尙需要ヲ充スニ足ラス。大同元年ニ於テ約一百八十餘萬圓、大同二年ニ於テ約九百六十餘萬圓ヲ輸入セリ。

九 食料品類製造業

製粉工業 製粉業ハ磨房ト稱セラレ古クヨリ各地ニ發達シ、地方ノ需要ニ應ジ國內工業上重要ノ地位ヲ占メ來リタリ。



滿洲ニ新式製粉工場ノ現ハレシハ光緒二十六年（一九〇〇年）哈爾濱ニ露人經營ノ滿洲製粉會社設立セラレタルヲ初メトシ、以來急速ナル發達ヲ遂ケ、民國七、八年頃ヲ以テ其ノ最盛期ヲ爲セシモ、其ノ後原料小麥ノ產出減少、關稅ノ障礙、運費ノ高率等ニ基キ大半其ノ操業ヲ停止シ、全般ニ不振ノ狀態ニ陥リタリ。

小麥ノ產地トシテハ、北滿ヲ主トスル關係上、製粉業亦哈爾濱ヲ中心トシテ盛ナレ共、上述ノ諸原因ニヨリ外國產ニ壓迫サレ現狀スラ維持シ難キ狀況ニアリ。然レ共將來ハ政府ノ小麥增產獎勵ニ依ル原料安ト、消費ノ増加トニ伴ヒ本工業ノ前途ハ極メテ有望ナリト稱スヘク、既ニ康德元年三月ニハ日滿合辦ニ依ル日滿製粉會社ノ創立ヲ見タリ。滿洲產業統計ニ從ヘハ大同元年ニ於ケル製粉工場數ハ南北滿洲ヲ通シテ三〇七、生産額一八四、四一六廳、價額二二、八三二、七七五圓ナリ。然レ共右ヲ以テシテハ到底國內ノ需要ヲ充スニ足ラス、年々外國品ノ輸入増加ノ傾向ニアリ。即チ大同元年ニ於テ四、〇八六、四六七擔、其ノ價額三二、二五九、四六八圓ナリシカ大同二年ニ入りテハ輸入更ニ増加シテ八、三六九、八七九擔、五八、六七八、九四六圓ニ達シタリ。

製糖業 我國ニ於ケル製糖業ハ氣候ノ關係ヨリ甘蔗ノ栽培ニ適セス、甜菜ヲ以テ原料トナス。甜菜ノ栽培ハ光緒三十二、三年（一九〇六、七年）ノ頃ヨリ試ミラレタルモノナルカ、之ヲ原料トスル製糖事業ハ宣統元年阿什河ニ製糖工場ノ創立セラレタル時ニ始マリ、爾來南北滿洲ニ工場ノ設立セラルルモノ尠カラサリシカ、經營思ハシカラス、南滿ニアリテハ南滿洲製糖會社ハ昭和二年（民國十六年）ニ至リ事業ヲ中止シ、北滿ノ各工場亦時々事業ヲ中止セル狀態ニアリタリ。斯クテ我國成立後ニ至リ北滿ノ糖業再ヒ有望視セラレ、康德元年ニ入り新タニ北滿製糖株式會社、康德製糖公司等ノ設立ヲ計畫セラレツツアリ。

現在我國ニ輸入セラレツツアル砂糖ハ、大同元年ニ於テ一四、六〇八千圓、同二年ニ於テ一六、〇二八千圓ニ達ス。

高粱酒釀造業 高粱酒釀造業ハ燒鍋業ト稱シ、我國ニ於ケル重要工業ノ一タルコト周知ノ如クニシテ遼陽、奉天、新京等ヲ主產地ト爲スモ邊陲ノ地ト雖モ存セサル所ナシ。

高粱酒ハ安價ニシテ一種特有ノ香味ヲ有スル爲、一般ノ嗜好ニ適シ其ノ需要極メテ多ク、且本事業ハ其ノ經營ニ危險多カラサルヲ以テ、今後ハ人口増加ト原料増産トニ伴ヒ益々發達スヘキモノト思考ス。

現在ニ於ケル生産額ハ正確ナル數字ヲ得サルモ、大概年額一億八千萬斤ヲ生産シツツアルモノト見ルヘシ。

醬油釀造業 醬油釀造ハ隨所ニ見得ル所ナルモ、其ノ大半ハ在來方法ニ依リ釀造セラレ、且小資本ノ經營ニ過キス、新式醬油工場ノ萌芽ハ僅カニ最近十年間ノ事ニシテ舊式小形工場ノ壓迫ヲ受ケ未タ發達ノ域ニ至ラス。

滿洲產業統計ニ依レバ、大同元年ニ於ケル工場數七九ニシテ生産額一〇五、七七八廳、一、五九九、五四八圓ノ生産アリ。將來ハ人口ノ増加ニ伴フ需要ノ増加ニ伴ヒ、發達ノ餘地多分ニ存ス。

煙草製造業 本邦煙草製造業ハ古クヨリ哈爾濱ニ露西亞式口付煙草製造業者トシテロバート、チウウリンノ二工場アリシカ、其ノ後南支那ヨリ英米煙草公司ノ進出スルアリ、更ニ光緒三十二年ニ至リ日本系東亞煙草株式會社營口ニ設立セラレタリ。斯クテ民國十四年頃露系煙草ノ進出ヲ見ルニ及ヒ激烈ナル競争ヲ見ルニ至レリ。爾來需要ノ増加ニ伴ヒ煙草製造工場續々出現シタルモ、價格ニ於ケル競争ノ結果下級品ノ生産多ク遂ニ英米トラストノ活動ニ依リ全國需要ニ對スル供給ノ大部分ハ同社ノ占ムル所トナレリ。斯クテ我國建國ト共ニ煙草工業ニ統制ヲ加フルノ必要ヲ認メ、本工業ニ對シテ許可主義ヲ採用スルニ至リタリ。

滿洲產業統計ニ從ヘハ大同元年ニ於ケル煙草生産額ハ卷煙草二五一、四三七箱、二九、五三九、四四二圓、刻煙草一一三箱、一一、一二七圓ナルモ尙自給ノ域ニ達セス、需要ノ大部ハ之ヲ海外ニ仰キツツアリ。即チ大同元年度ニ於ケル各種煙



### 10 電氣及瓦斯

**電氣** 我國内ニ於ケル電氣事業ハ創始以來日未タ淺ク、且關東州及滿鐵附屬地ヲ根幹トシテ發達セリ。即チ光緒二十八年十月露國カ東清鐵道ノ附屬事業トシテ大連濱町發電所ヲ建設シタルヲ以テ嚆矢トス。日露戰後電氣事業ハ先ツ日本側ニ其ノ勃興ヲ見 明治三十八年ニ旅順ノ點燈ヲ開始シ、同年又營口水道電氣株式會社ノ創立アリ、明治四十年ニハ安東電氣株式會社創設セラレタリ。同年南滿洲鐵道株式會社創業セラレルヤ同社ニ於テ直チニ大連ノ電氣供給事業ヲ始メ、次テ明治四十一年撫順、奉天ニ、明治四十二年長春ニ何レモ發電所ヲ新設開業シ、極メテ順調ナル發達ヲ迎リタリ。特ニ大正五年滿鐵ヨリ南滿洲電氣株式會社ノ分離獨立スルヤ、撫順ヲ除ク關東州及滿鐵附屬地ニ於ケル殆ト全部ニ對シ電氣供給事業ヲ營ミ、業績頗ニ盛大ヲ加ヘ來レリ。

本邦系電氣事業ノ沿革ヲ見ルニ 明治三十八年東清鐵道會社カ自家用トシテ哈爾濱ニ發電施設ヲ創始セルヲ初メトシ、翌年滿洲里ニ露人經營ノ電燈局創設セラレタルカ、上述日本側ノ事業ノ發展好調ト其ノ利便ニ刺戟セラレ電氣企業熱旺盛トナリ、即チ光緒三十三年ニハ吉林電燈廠、光緒三十五年ニハ奉天電燈廠、宣統三年ニハ長春電燈廠等官公營ノ事業開設セラレタリ。斯クテ自用又ハ一般供給ヲ目的トスル電氣事業ノ實現ハ逐次主要都市ニ躍進的增加ヲ見ルニ至リタリ。

然レトモ斯クシテ創設セラレタル企業モ前記大都市ニ於ケル官公營事業ヲ除ク外、悉ク需要ノ中心地ニ小規模ナル火力發電所ヲ建設シタルニ過キス、其ノ設備不良ニシテ經營法亦當ヲ得サリシノミナラス監督ノ不徹底ナルモノアリ、民衆ノ

利益ヲ度外視シタル爲メ萎微不振ノ境ニアリタリ。

然ルニ我國建國後ハ諸般ノ情勢一變シ在來電氣事業ヲ重壓セル不安一掃セラレタルヲ以テ概ネ類勢ヲ挽回シ邊陲ノ地ニモ亦新事業勃興ノ氣運ヲ醸成セリ。而シテ斯業ノ將來ハ國內産業ノ開發、文化ノ普及其ノ他萬般施設ノ擴充ニ伴ヒ必然的ニ電力ノ需要急増スヘキコト明カナルヲ以テ、政府ニ於テハ銳意電氣事業ノ公共性ヲ強調シ、技術、資本ニ對スル監督ヲ加重シ其ノ發達ヲ期スルト共ニ統制ノ實ヲ舉ケント努力ヲ拂ヒツツアリ。即チ過去ニ於ケル滿日兩國間斯業對立ニヨル暗雲ヲ拂拭シテ兩者ノ連繫緊密ヲ加ヘ、事業ノ合理的進展ヲ容易ナラシメントシ、其ノ第一着手トシテ全滿ニ於ケル標準周波數ヲ統一シ、標準電壓ヲ制定シテ電氣方式ノ技術統制ヲ期シ、其ノ實現ニ邁進シツツアリ。又豐富低廉確實ナル電力供給ノ大目的ノ爲滿日主要電氣事業ノ大合同ヲ圖レリ。又更ニ滿日兩政府ニ於テハ事業ノ保護助長並指導統制上電氣事業法ノ創設ヲ急務トシテコレヲ審議シ次年度發布ノコトトナレリ。一方國內電氣事業ノ永續的發展ヲ確保センカ爲電力資源トシテ水力發電開拓ノ基本調査ニ着手シ、斯クテ我國經濟立國ノ基礎的的使命ヲ有スル電氣事業ノ將來ハ一段ノ多幸ナル光彩ヲ放チ其ノ寄與亦愈々大ナラントス。

我國ノ電氣事業ニ對スル投資額ハ公稱資本大略三千四百萬圓ニシテ他ニ日本側約五千三百萬圓ニ達ス、今之等ノ現勢ヲ示セハ次ノ如シ。

#### 本邦側

省別	企業		電燈		電力	
	形勢別	事業數	發受電設備數	需要家數	燈數	裝置數
奉天	官營	二五	1,000,000	100,000	100,000	100,000
天省	民營	三五	1,500,000	150,000	150,000	150,000



省別	企業形態別	事業數	發受電設備(KW數)	電燈		電力	
				需要家數	燈數	裝置數	容量KW
吉林省	官營	二	二九,七〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一,七七一	〇〇〇
黑龍江省	官營	一	三,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	〇	一三
興安省	官營	一	六,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	〇	一三
熱河省	官營	一	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	〇	一三
計	官營	五	一四八,七〇〇	一三,〇〇〇	一三,〇〇〇	一,七七一	一三

備考 右ノ他自家用數ハ奉天省一三、吉林省二四、黑龍江省二、興安省四、熱河省一アリ。

日本側

地方	企業形態	事業數	發受電設備(KW數)	電燈		電力	
				需要家數	燈數	裝置數	容量KW
關東州及滿鐵附屬地	官廳及會社	一	一〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一三

備考 右ノ他自家用數三三三算ヘ内二四ハ滿鐵停車場用ノモノナリ

瓦斯 瓦斯事業ハ明治四三年滿鐵カ大連ニ營業ヲ開始セルニ初マリ、後撫順炭礦ニ起業セルアリ、爾來 大正九年 鞍山、大正十二年奉天、大正十三年安東、大正十四年長春(新京)等ノ主要都市ニ該企業ノ進出ヲ見タルカ、民國十四年滿鐵ハ撫順ヲ除ク各地ニ於ケル瓦斯事業ヲ分離シテ、新ニ資本金一千萬圓ノ南滿洲瓦斯會社ヲ設立シ、之ニ一切ノ業務ヲ管マシムルニ至リタリ。爾來各地ニ於ケル瓦斯供給ハ同社之ヲ行ヒ其ノ成績見ルヘキモノアリ、即チ其ノ現勢ヲ示セハ次ノ如シ。

種別	南滿洲瓦斯株式會社		滿鐵撫順炭礦瓦斯製造所		計
	大連	鞍山	奉天	新京	
需要家戶數	三,〇〇〇	一,二〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	二四,〇〇〇
瓦斯製造能力(立方米)	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇
瓦斯製造量(一ヶ年間)	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇
瓦斯販賣量(一ヶ年間)	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇
石炭消費量(一ヶ年間)(噸)	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇
石炭一應當生産量(立方米)	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇

註 瓦斯製造量ノ欄中ハ括弧ヲ施シタルモノハ他ノ瓦斯事業ヨリ供給ヲ受クルモノナリ

因ニ我國内ニハ未タ瓦斯供給ニ關スル事業現存セサルモ、將來各種産業文化ノ發達、都市施設ノ完備ニ伴ヒ必スヤ本事業亦長足ノ發達ヲ遂クヘキコト豫想ニ難カラス。



(增補) 主要農作物豫想收穫高 (康德二年九月一日) (單位適) 滿洲農產物豫想調查聯合會

作物	前年若クハ平年ヲ一〇〇トス (康德二年九月一日)											
	吉林省	龍江省	黑河省	三江省	濱江省	開島省	安東省	奉天省	錦州省	計	對比前年	對比平年
大豆	4,000,000	4,000,000	7,000,000	3,900,000	1,000,000	4,000,000	3,000,000	7,000,000	1,000,000	3,000,000	100	101
其他豆	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	100	101	
高粱	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	100	101	
粟	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	100	101	
玉米	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	100	101	
小麥	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	100	101	
水稻	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	100	101	
雜糧	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	100	101	
麻(小麻子)	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	100	101	
花(麻子)	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	100	101	
平均	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	101	101

### 第五編 商業、金融

#### 第一章 總說

營口ノ清朝末ニ開港セラレテ以來、遼河水運ニ依リ南下セシ大豆カ歐洲及日本へ輸出セラルル端緒トナリ、日本ニテハ鐵嶺大豆トシテ漸ク著聞スルニ至ル頃、帝政ロシアハ滿洲交通ノ大動脈トシテ東清鐵道ヲ敷設セリ。東清鐵道ノ開通後幾許モナク日露戰爭勃發セルモ、其間早クモ其ノ大量輸送ト海港ノ活用ハ京奉線ニモ活力ヲ與へ、滿洲商業開發ノ重要ナル役割ヲ勤メタリ。東清南部線長春以南ヲ日本カ繼承スルニ及テ船車ノ連絡ハ一層圓滑トナリ、從來單ニ居住民食糧ノ域ヲ出ツルコト少カリシ農産物ハ玆ニ完全ニ世界ノ重要輸出品トナリ、他面輸入物資ノ増加トモナリ、自ラ工業其他ノ企業與リ商業貿易ノ滿洲トシテ輝カシキ歩ヲ進ミ出テタリ。然ルニ時ノ爲政者ノ政權濫用、金融ノ擾亂ハ商民ヲシテ困憊ニ陥ラシメ趨ク所ヲ知ラサリシカ、建國以來努メテ産業ノ開發、商業、貿易ノ振興ヲ圖ルト共ニ重點ヲ商取引ノ媒介タル通貨統一安定ニ置キ概ネコレヲ完成シタリ。

商業 由來我國民ハ農業ニ適スルト共ニ又商才ニ長ケ、商店組織モ同族其他ノ合資ニ依ルモノ、少數者出資シ且共同シテ經營スルモノ、又ハ手腕アル經理人ニ一切ヲ委ヌルノ方法ニ依ルモノ等多ク、其ノ資金モ自他ノ勞務者カ貯蓄預金ヨリ



寧ロ一步進ミタル投資トシテ出資、或ハ信託預金ノ如キ性質ヲ以テ預入レラルル事多ク爲ニ金融機關ノ發達充分ナラヌレテ猶ヨク有無相融通スルトコロアリ、更ニ國民ハ一般的ニヨク私經濟ヲ緊縮シ餘利ヲ多クシテコレヲ資金化スル等アリ、商業、貿易伸張ノ素質ナシトイフヘカラス。

政府ハ大同二年三月公布セル經濟建設綱要商業助長ノ項ニ於テ

一般商業ニ對シテハ努メテ之ヲ助長獎勵シ、取引ノ圓滑ヲ期シ、國內產物ノ販路ヲ廣ク世界ニ求メ、以テ商業ノ繁榮ヲ計ラントストノ建前ノ下ニ其ノ助長獎勵ヲナシツツアリ。

政府ハ工業所有權保護ノ目的ヲ以テ、大同二年九月商標法及同施行法ヲ公布シ、同月實業部ニ商標局ヲ置キテ出願登錄ノ事務ヲ取扱ハシムルコトトナセリ。

各都邑ニ於ケル商會ハ從來何等統制ナカリシタメ之カ統制ニツキ研究ヲ進メツツアリ。商業ハ一般ニ專賣品代賣及警察取締ヲ要スルモノノ外ハ自由ナルモ、交易所ニツキテハ考慮ヲ要スルモノアリ、哈爾濱糧食交易所ヲ改組シテ滿日合辦ノ株式會社トナシタル外、今後經濟界ノ推移ニヨリ新設ノ必要ヲ生スルトキ迄ハ當分新設ヲ認メサルコトトセリ。即チ之ハ拒否スルモノニアラスシテ取引所ノ性質上大市場ニ於テ機能ヲ發揮シ得ルモノノ活動ヲ充分ナラシムルト共ニ、濫設ニ陥リテ公定市價ヲシテ歸趨ナキニ至ラシムルコトヲ避ケ、商人ヲシテ不測ノ損害ヲ蒙ラシメサルヲ期スルニ外ナラス。

貿易 逐年高率ナル増加ノ一路ヲ辿レル貿易ハ滿洲事變後歐洲ノ不況ト日本ノ米價安等アリ、大豆モ稀ニ見ル低價トナリ、更ニ當然ノ事ナカラ對中華民國輸出入ヲ外國扱トナセル爲、對民國貿易殊ニ輸出ノ一時不振ニ陥レル等アリ、世界經濟界ノ大勢ヲ知ラサル國民中ニハ時トシテ新國家建設カ茲ニ至ラシメシヲ思ハシムルノ難アリシカ、大同三年ニ移ルト共ニ特產物需要モ起リ、マタ南方民國ヘノ仕向モ漸ヲ迫ウテ復舊ノ途ニ入リタリ。他方輸入ハ建設材料ノ増加著シク結局大

同二年中ノ輸出ハ前年ヨリ少キコト一億六千七百餘萬圓、輸入ハ前年ヨリ多キコト二億一千四百餘萬圓ニテ總貿易額九億六千四百餘萬圓、前年ニ比シテ四千七百餘萬圓ヲ増加セルモ差引六千七百餘萬圓ノ入超ヲ見タリ、但之ハ建設物資當然ノ輸入トシテ却ツテ將來ノ輸出ニ期待セラルル所ナリ。

稅關ハ建國當時其接收後稅率ト共ニ暫行的ニコレヲ踏襲シ居タリシカ、適當ニコレヲ改廢新設スルトコロアリ。稅率ハ滿日經濟ブロツクノ建前ヲ考慮シ、自主的見地ヨリシテ大同元年九月一部修正ヲナシ、更ニ商業、貿易ノ圓滑ヲ期シ大同二年七月及康德元年六月之ヲ修正シタリ、コノ新稅率制定ニ當リテハ

- 一、著シク排外的ナルモノ
- 二、生活必需品ニシテ高率不當ナルモノ
- 三、産業開發上必要ト認ムルモノ
- 四、都市計畫上必要ナル材料

等ニツキテハ考慮シ又國內産業ヲ顧テ適宜ニ加減セルモノナリ。

通貨 建國前ニ於ケル幣制ノ亂雜ハ世界ニ類ナシトモ云フヲ得ヘク、各省紙幣ハ額面ヲ考慮ニ入レヌシテ熱河ヲ除ク三省ニテ十七種、券種百四十餘ニ及ヒ、更ニ黑龍江省ニ馬占山ノ軍用券通稱馬大洋、奉天省東邊ノ唐聚伍軍票、單ニ振替記入ノミヲ以テスル營口ノ過爐銀、安東ノ鎮平銀、其他地方錢莊及商人ノ發行スル帖子(私幣)、甚シキハ匪賊ノ私幣ナトアリ。コレニ補助貨トシテ紙幣ト同シク價值ノ變動當ナク、名目通り十進ノ實ナキ小洋銀及銅幣アリ、貨幣一切ヲ擧ケテ朝夕高低當ナク、然モ多種ノ紙幣ハ大勢漸落ノ一途ヲ辿ル如キハ幣制確立セル他國人ノ想像モ及ハサル混亂ナリ。サレハコレカ整理ハ匪賊討伐ニ次ク重要題目トシテ研究ヲ重ネ、大同元年六月貨幣法ヲ公布シ、國內ノ通貨ハ銀二三・九一グラム



而シテ之カ商會ニ關シテハ我國建國後未タ商會法ノ制定ヲ見サル爲暫ク從前ノ法例ヲ援用シツツアリ。惟フニ地方ノ經濟機構内ニ於ケル商會ノ占ムル地位ハ重大ナルカ故ニ、之カ健全ナル發達ヲ期シ、以テ商工業ノ保護増進ヲ圖ラサル可カラス。然ルニ現在商會ハ其ノ間ニ何等ノ統制連絡ナキ爲、政府ハ此點ニ深ク鑑ミル所アリ、夙ニ商會ノ組織其他統制ニ關スル法制ヲ整備スル必要ヲ認メ、可及的速ニ新商會法ヲ施行スル方針ノ下ニ目下其ノ草案ニ付慎重審議中ナリ。

各省所在ノ商會ハ更ニ各商會聯合會ヲ組織シテ之カ統制ヲ司リ現在奉天、吉林、齊々哈爾、哈爾濱ノ四個處ニアリ。個々ノ商會ニ就テハ目下全國的ニ調査中ナルモ、現在判明セル商會及商會聯合會ノ概況ヲ示セハ次ノ如シ。

全國商會概況

(康德元年三月末現在)

商會名	入會商號數	商會名	入會商號數	商會名	入會商號數
奉天全省商會聯合會	八、五二六	海城縣中莊城商會	六八	莊河縣青堆子商會	五九
奉天市商會	?	海城縣第八區商會	一一二	莊河縣孤山鎮商會	八四
遼陽縣商會	?	營口縣大石橋商會	五一	岫巖縣商會	三〇六
瀋陽縣軍屯商會	二〇六	營口縣田庄台商會	八〇	鳳城縣龍王廟商會	七六
撫順縣商會	七五〇	營口縣平縣商會	二二三	安東縣三道鎮商會	二五八一
遼陽縣子溝鎮商會	八一九	蓋平縣熊岳鎮商會	二八二	安東縣中興鎮商會	一四〇
遼陽縣立山商會	二五	復縣瓦房店商會	二五〇	安東縣長甸鎮商會	一九〇
遼陽縣沙河商會	八五	復縣瓦房店商會	一四三	寬甸縣長甸鎮商會	一三四
遼陽縣沙河商會	三七	遼源縣茂林市商會	一五〇		五一
海城縣商會	四七				

本溪縣商會	二四六	昌圖縣商會	二五〇	通遼縣商會	二〇一
興京縣街商會	二三四	昌圖縣通江口商會	三六	通遼縣大林鎮商會	?
興京縣永陵街商會	一〇四	昌圖縣八面城商會	一四二	康平縣商會	三〇
興京縣河南商會	一六一	昌圖縣鸞樹街商會	?	彰武縣商會	四八
興京縣第三區商會	二〇二	梨樹縣四平街商會	二六六	新民縣商會	?
柳河縣商會	四六	梨樹縣合鎮商會	八二	遼中縣商會	五〇
海龍縣商會	二〇〇	梨樹縣郭家店商會	四四	遼中縣商會	五〇
海龍縣山城子商會	四三五	梨樹縣三田鎮商會	六二	遼中縣商會	五〇
安圖縣商會	二二	懷德縣鎮南鎮商會	八〇	遼中縣商會	五〇
輝南縣商會	二〇〇	懷德縣公主嶺鎮商會	五七	遼中縣商會	五〇
清原縣商會	三九	懷德縣范家屯鎮商會	八〇	遼中縣商會	五〇
金川縣商會	五三	懷德縣楊大成子鎮商會	五二	遼中縣商會	五〇
通化縣商會	二五六	懷德縣楊大成子鎮商會	一八	遼中縣商會	五〇
桓仁縣商會	七七	遼中縣商會	九一三	遼中縣商會	五〇
桓仁縣沙尖鎮商會	六二	遼中縣商會	?	遼中縣商會	五〇
長白縣商會	一四三	遼中縣商會	三二	遼中縣商會	五〇
西豐縣商會	三二二	遼中縣商會	二六	遼中縣商會	五〇
東豐縣商會	二四〇	遼中縣商會	六	遼中縣商會	五〇
西豐縣商會	二六八	遼中縣商會	八六	遼中縣商會	五〇
開原縣商會	一六五	遼中縣商會	五二	遼中縣商會	五〇
鐵嶺縣商會	二八九	遼中縣商會	三三	遼中縣商會	五〇
法庫縣商會	三四一	遼中縣商會	二五	遼中縣商會	五〇



## 第二章 商業

九四四

### 第一節 概 說

我國ノ商業ヲ大觀スルニ、鐵道沿線ノ主要都市、即チ關東州及滿鐵沿線ノ諸都市竝ニ北滿哈爾濱等ニ於テハ、日本其他各國資本ノ流入ニ依リ科學的經營ヲ行フ新式ノ商業組織ヲ見得ルト雖モ、之ヲ除キテハ國內全般概ネ其ノ組織未ダ舊態ヲ脱シ得ス、未開放地帯ニ在リテハ今猶隊商ニ依ル物々交換行ルルカ如キ状態ナリ。

斯ノ如ク我國ノ商業カ其ノ發達ニ於テ未ダ幼稚ナル段階ニ低迷シ居ルコトハ、畢竟未ダ資本主義經濟ノ發展ニ於テ極メテ低度ノ状態ニ在ルコトニ歸セシメ得ヘシト雖モ、更ニ此趨勢ヲ助長シタルハ建國前ノ經濟界カ舊軍閥竝ニ之トノ連繫濃厚ナル官商ノ手ニ委ネラレ、或ハ恣ニ不換紙幣ヲ濫發シテ特産物ノ買占ヲ敢行シ、或ハ重要ナル事業ヲ獨占經營シテ爲ニ民衆ノ生活ヲ壓迫シ、商民ノ利益ヲ無視シ、延イテハ全般ノ經濟的發展ヲ人爲的ニ阻害シタルコトヲ最大ノ原因ト爲スヘシ。

**商業ノ開發助長** 斯クノ如キ状態ニ置カレタル我國ノ商業ニ激瀾ノ生氣ヲ與ヘ、以テ健全ナル發達ヲ遂ケシメンコトハ最モ急務トスル所ニシテ、此故ニ我國建國以來實業部ニ工商司ヲ設ケ、之ヲ中心トシテ一意カ達成ニ努力シ來リタル所ナリ。而シテ政府ノ商業助長ニ關スル方針トシテハ、大同二年三月一日ニ發シタル滿洲國經濟建設ニ關スル聲明書中ニ最モ能ク明示セララル所ニシテ、今之ヲ採録スレハ

一、一般商業ニ對シテハ努メテ之ヲ助長獎勵シ取引ノ圓滑ヲ期シ、國內産業ノ販路ヲ廣ク世界ニ求メ以テソノ繁榮ヲ計ラントス、之カ爲我商民ノ特徴ハ益益之ヲ助長セシメ、舊慣ノ改ムヘキハ之ヲ矯正シ以テ取引ノ合理化ヲ期ス又生活ノ必需品其ノ他國民生活ニ重要ナル關係ヲ有スル商品ニツキテハ、適切ナル供給ト價格ノ調節トヲ以テス

二、新ニ特許法商標法等ヲ發布シ工業所有權ノ保護ヲ計リ、寄託保險等ニ關スル法制ヲ定メ、度量衡ノ制度ヲ統一シ、其ノ他取引所ノ制度ヲ改善スル等、商取引ニ關スル文明的施設ヲナサントス

三、關稅政策ハ貿易ノ振興ヲ旨トシ國際取引ノ增進ヲ期ス。

政府ハ右ノ方針ノ下ニ一般商業ノ助長獎勵ニ努メ、商民亦能ク之ト協力經營ニ從ヘルヲ以テ、着々成果ヲ收メツツアリ。即チ政府ハ取引組織ノ合理化ヲ圖ル爲交易所ニ關スル制度ヲ攻究中ニシテ、差當リ哈爾濱糧食交易所ノ改組ヲ行ヒ滿日合辦ノ株式會社トナシ、又國産品ノ市場開拓ノ爲大同二年ニ於テシカゴ博覽會並ニ大連滿洲博覽會ニ參加出品セル等不斷ノ努力ヲ怠ラス。商業機關トシテノ工商會ニ關シテハ之カ統制ノ合理化ニ就キ銳意攻究中ナルカ、更ニ商業發達上從來最大ノ缺陷タリシ度量衡ニ關シテハ之カ統一ヲ急務トシテ、大同三年二月新ニ度量衡法ヲ制定公布シ、同時ニ從來ノ商工司權科ヲ擴張シテ權度局ヲ設ケ之カ實施ニ當ラシメツツアリ。又商標ノ保護ニ關シテハ、大同二年九月商標法及同施行細則ヲ制定シ、新設セル商標局ヲシテ之カ登錄其ノ他ニ關スル事務ヲ執ラシメツツアリ。尙商業ノ登記ニ關シテ定ムル所アリ、又工業所有權ニ對スル保護ニ關シテハ法制ノ制定ヲ企圖研究中ナリ。

### 第二節 商業機關

商會 從來我國各地ニハ商工業ノ利益ヲ保護增進シ同業者ノ圓滑ナル連絡ヲ圖ルヲ目的トスル商會アリ。











商會名	入會商號數	商會名	入會商號數
北滿特別區商會聯合會	九九	海拉爾商會	九九
一面坡商會	九九	富拉爾商會	九九
綏芬河商會	九九	宋拉爾商會	九九
海林商會	九九	長春商會	九九
昂溪商會	九九	穆稜商會	九九
滿洲里商會	九九	廣道子商會	九九
博克圖商會	九九	小高子商會	九九
滿洲里商會	九九	博克圖商會	九九
安達站商會	九九	安達站商會	九九
計	二七	計	二七

商會名	入會商號數	商會名	入會商號數
興安各省	九九	興安各省	九九
安達站商會	九九	安達站商會	九九
滿洲里商會	九九	滿洲里商會	九九
博克圖商會	九九	博克圖商會	九九
小高子商會	九九	小高子商會	九九
滿洲里商會	九九	滿洲里商會	九九
昂溪商會	九九	昂溪商會	九九
海林商會	九九	海林商會	九九
綏芬河商會	九九	綏芬河商會	九九
一面坡商會	九九	一面坡商會	九九
北滿特別區商會聯合會	九九	北滿特別區商會聯合會	九九
計	二七	計	二七

商會名	入會商號數	商會名	入會商號數
布魯西商會	五四	布魯西商會	五四
雅魯縣商會	五四	雅魯縣商會	五四
呼倫縣商會	五四	呼倫縣商會	五四
索倫商會	五四	索倫商會	五四
計	二五四	計	二五四

商會名	入會商號數	商會名	入會商號數
新京市商會	一二九一	新京市商會	一二九一
計	一二九一	計	一二九一

商會名	入會商號數	商會名	入會商號數
哈爾濱道外商會	?	哈爾濱道裡商會	?
計	二	計	二

工商同業公會 工商同業公會ハ工商同業者ノ公共ノ利益ヲ維持シ、營業上ノ弊害ヲ矯正スルヲ目的トスル一種ノ同業組合ナリ。同業公會ニ關スル法令ハ目下政府ニ於テ立案中ナルモ、現在ハ暫行法規トシテ民國七年四月二十七日公布ノ修正工商同業公會規則及工商同業公會規則施行辦法ヲ援用ス。同業公會ハ商會ト緊密ナル關係ヲ有シ、各業公會ノ代表即チ商會ノ構成分子タル商會員ニシテ事實上商會長ノ監督下ニ在リ。

而シテ從來各地ニ於テハ公會類似ノ團體存在シ、之等ハ法規ニ準據セサルモノ多ク、其ノ組織名稱等モ區々タル狀態ニ



シテ早急ニ之カ劃一ヲ期スルコト困難ナルモ、政府ハ銳意之カ整備統一ヲ期シ居レリ。  
交易所 我國ニ於ケル取引所ハ鐵道沿線主要都市ニアル日本側ノ取引所ヲ除ケハ未タ十分發達ノ域ニ至ラサルモ、錢  
鈔糧食ノ交易所竝ニ交易所類似ノモノ各地ニ存在ス。

交易所ノ健全ナル發達ハ地方ノ經濟金融ニ貢獻スル所多大ナリト雖モ、其ノ組織不良ニシテ専ラ投機事業ニ轉化センカ  
其ノ惡影響ハ恐ルヘキモノアリ。政府ハ交易所ニ對スル根本政策ヲ樹立センカ爲大同元年ニ全國交易所ノ情況ヲ詳細ニ調  
査シタルカ、其ノ結果現在己ニ休業中ノモノノ再開及交易所類似ノ施設ヲ有スルモノノ營業ヲ禁止シ、且新ニ設立セント  
スルモノノ申請ハ實業部ノ許可ヲ要スルモノト爲シ、實業部ハ右ノ申請アル場合ニハ情勢ヲ考慮シ統制ノ方策ヲ調査研究  
シタル上更メテ其ノ許否ヲ決定スルコトトセリ。

現在暫行援用法規タル民國十八年公布ノ交易所法ニ準據シテ認可セラレタルモノハ哈爾濱交易所一個處ナリ。哈爾濱交  
易所ノ前身ハ濱江糧食交易所ニシテ之ヲ改組シ滿日合辦ノ株式會社トシテ組織セラレタルモノナリ。其ノ取引物件ハ大豆  
豆粕、豆油、小麥、雜穀等ナリ。

哈爾濱交易所定期取引

(自大同二年九月)  
至康德元年十月)

月別	限月別立會	大豆			小麥						
		出	來	定	出	來	定				
10.10	10.10	最高	最低	出	來	受渡	最高	最低	出	來	受渡
10.11	10.11	最高	最低	出	來	受渡	最高	最低	出	來	受渡
10.12	10.12	最高	最低	出	來	受渡	最高	最低	出	來	受渡
11.01	11.01	最高	最低	出	來	受渡	最高	最低	出	來	受渡
11.02	11.02	最高	最低	出	來	受渡	最高	最低	出	來	受渡
11.03	11.03	最高	最低	出	來	受渡	最高	最低	出	來	受渡
11.04	11.04	最高	最低	出	來	受渡	最高	最低	出	來	受渡
11.05	11.05	最高	最低	出	來	受渡	最高	最低	出	來	受渡
11.06	11.06	最高	最低	出	來	受渡	最高	最低	出	來	受渡
11.07	11.07	最高	最低	出	來	受渡	最高	最低	出	來	受渡
11.08	11.08	最高	最低	出	來	受渡	最高	最低	出	來	受渡
11.09	11.09	最高	最低	出	來	受渡	最高	最低	出	來	受渡
11.10	11.10	最高	最低	出	來	受渡	最高	最低	出	來	受渡
11.11	11.11	最高	最低	出	來	受渡	最高	最低	出	來	受渡
11.12	11.12	最高	最低	出	來	受渡	最高	最低	出	來	受渡

月一	月二十	月一十
計	計	計
10.10	10.10	10.10
10.11	10.11	10.11
10.12	10.12	10.12
11.01	11.01	11.01
11.02	11.02	11.02
11.03	11.03	11.03
11.04	11.04	11.04
11.05	11.05	11.05
11.06	11.06	11.06
11.07	11.07	11.07
11.08	11.08	11.08
11.09	11.09	11.09
11.10	11.10	11.10
11.11	11.11	11.11
11.12	11.12	11.12







備考  
一、建值ハ鈔票又ハ金票  
二、呼值單位ハ一〇〇〇圓  
第五編 商業、金融 第二章 商業

年	月	別	種	別	最	當	月	中	最	相	場	當	月	中	出	來	高
大	同	二	年	鈔	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票
七	同	七	月	鈔	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票
八	同	八	月	鈔	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票
九	同	九	月	鈔	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票
十	同	十	月	鈔	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票
十	同	一	月	鈔	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票
十	同	二	月	鈔	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票
一	大	同	三	年	鈔	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票	對	金
二	同	一	月	鈔	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票
三	康	總	元	年	鈔	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票	對	金
四	同	三	月	鈔	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票	對	金	票

九六五、〇〇〇	九四七、五〇〇
一、〇七四、七〇〇	一、〇二九、五〇〇
九五三、〇〇〇	九三九、〇〇〇
一、〇〇四、〇〇〇	一、〇四七、三〇〇
九五四、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇
一、一三八、〇〇〇	一、〇九七、三〇〇
九五二、五〇〇	九三六、五〇〇
一、一三〇、〇〇〇	一、〇九〇、五〇〇
九八四、〇〇〇	九四八、八〇〇
一、一三一、〇〇〇	一、〇七〇、〇〇〇
九八三、五〇〇	九六〇、五〇〇
一、一四四、〇〇〇	一、一〇一、五〇〇
九五二、〇〇〇	九四六、〇〇〇
一、一九七、〇〇〇	一、一五六、〇〇〇
九四八、八〇〇	九三六、五〇〇
一、二二一、五〇〇	一、一六三、〇〇〇
九四〇、〇〇〇	九三五、五〇〇
一、二二四、五〇〇	一、一八三、五〇〇
九三六、〇〇〇	九〇八、〇〇〇
一、一九五、五〇〇	一、一〇一、〇〇〇

二、〇九八、〇〇〇	八、八五八、〇〇〇
二、七一九、〇〇〇	二、七一九、〇〇〇
三、〇八九、〇〇〇	六、六一九、〇〇〇
三、九四二、〇〇〇	一、九〇七、八〇〇
二、七九三、〇〇〇	三、九四二、〇〇〇
四、〇〇三、〇〇〇	二、七九三、〇〇〇
四、〇五二、〇〇〇	四、〇〇三、〇〇〇
四、〇二二、〇〇〇	四、〇五二、〇〇〇
三、二七一、〇〇〇	三、二七一、〇〇〇
五、六七九、〇〇〇	五、六七九、〇〇〇
八、四五九、〇〇〇	八、四五九、〇〇〇
二、一四二、〇〇〇	二、一四二、〇〇〇
二、七九三、〇〇〇	二、七九三、〇〇〇
三、六九二、〇〇〇	三、六九二、〇〇〇
七、一七八、〇〇〇	七、一七八、〇〇〇
四、九九六、〇〇〇	四、九九六、〇〇〇
六、二四二、〇〇〇	六、二四二、〇〇〇

備考  
一、呼值單位、一布度  
二、取引單位、千布度

年	月	別	種	別	最	當	月	中	最	相	場	當	月	中	出	來	高
九	月	九	豆	三	最	當	月	中	最	相	場	當	月	中	出	來	高
八	月	八	豆	三	最	當	月	中	最	相	場	當	月	中	出	來	高

月	別	限	日	會	出	來	受	渡	最	出	來	受	渡
九	月	九	日	會	出	來	受	渡	最	出	來	受	渡
八	月	八	日	會	出	來	受	渡	最	出	來	受	渡

二、〇九八、〇〇〇	八、八五八、〇〇〇
二、七一九、〇〇〇	二、七一九、〇〇〇
三、〇八九、〇〇〇	六、六一九、〇〇〇
三、九四二、〇〇〇	一、九〇七、八〇〇
二、七九三、〇〇〇	三、九四二、〇〇〇
四、〇〇三、〇〇〇	二、七九三、〇〇〇
四、〇五二、〇〇〇	四、〇〇三、〇〇〇
四、〇二二、〇〇〇	四、〇五二、〇〇〇
三、二七一、〇〇〇	三、二七一、〇〇〇
五、六七九、〇〇〇	五、六七九、〇〇〇
八、四五九、〇〇〇	八、四五九、〇〇〇
二、一四二、〇〇〇	二、一四二、〇〇〇
二、七九三、〇〇〇	二、七九三、〇〇〇
三、六九二、〇〇〇	三、六九二、〇〇〇
七、一七八、〇〇〇	七、一七八、〇〇〇
四、九九六、〇〇〇	四、九九六、〇〇〇
六、二四二、〇〇〇	六、二四二、〇〇〇

新京城內交易所相場及出來高

(自康大元二年四月至同二年七月)



市場 從來我國ニ於ケル市場ノ發達ハ自然ニ放任セラレ、然モ其ノ多クハ組織統制無ク、國民生活上及産業開發上却ツテ不利益ナル點尠カラス。政府ハ目下各重要都市ニ於テ制定ヲ急キツツアル市場規則ノ完備ト相俟テ組織統制アル近代的市场ノ發達ヲ策シツツアリ。尙日本側ノ市場ハ近代的市场ノ設備ヲ有スルモノ多ク、市民ノ需要ニ多大ノ利益ヲ與ヘ居レリ。因ニ中央卸賣市場法ハ近々公布ノ見込ナリ。  
全國市場ノ概況左ノ如シ。

市場一覽

(大同二年十二月末調査)

都市別	名稱及所在地	市場種類	販賣品及店舗數	備考
新 京	西四馬路菜市場	小賣市場	肉野菜二 雜貨一八	
奉 天	西五馬路市場	露店市	雞菜五五、鹽魚三三、鮮魚一一、猪行一六五、牛 羊一五〇、果品一六四	
奉 天	東三道街野菜市	卸賣市場	鳥肉ヲ主トシ牛羊豚野菜兼營二二	
奉 天	小東門外魚菜肉市場	卸賣市場	菜果一一、兼營一三	
奉 天	小東門內果實市場	小賣市場		
奉 天	大西關平康里市場	小賣市場		
奉 天	大西邊門外平康里南市場	小賣市場		
奉 天	小西邊門外皇寺市場	小賣市場		
奉 天	北區市場	露賣市		
奉 天	西北區市場	露賣市		

撫 順	工業區平康里市場	小賣市場	兼營一六 魚類一七二萬斤、鳥獸肉二九二萬斤、野菜一、〇三 五萬斤、果實、魚類、小賣店舖貸付七六、內未貸付 一〇、社用一四	撫順市場會社經營 商務會所有家屋 總商會所有 縣公署指定
本 溪	千 金 市 場	卸小賣市場	魚菜肉一八	
安 東	本溪湖新市場(河東街)	卸小賣市場	魚商一一、肉商一〇、野菜商一四、雜貨商五	
營 口	六 通 什 魚 菜 市	露店小市場	菜果魚肉	
吉 林	中 東 市 場	露店小市場	魚 肉	
吉 林	西 市 場	露店小市場	豚肉、魚類、野菜、乾物	
吉 林	菜 樓 (牛馬行大街)	小賣市場	牛肉、羊肉	
吉 林	肉 市 (牛馬行大街)	小賣市場	野菜	
吉 林	菜 市	小賣市場	川魚、鵝	
吉 林	菜 市 (東 市 街)	小賣市場	野菜、肉類	
吉 林	菜 市 (東 市 街)	小賣市場	豚肉、魚類、野菜、乾物	
齊 齊 哈 爾	不 明 (菜市街合當胡同)	小賣市場	野菜商六、雞鴨商四、牛肉商五、猪肉商七、魚店八	哈爾濱市營
齊 齊 哈 爾	南 大 街 菜 市 場	小賣市場		
齊 齊 哈 爾	南 崗 東 市 場	小賣市場		
齊 齊 哈 爾	南 崗 西 市 場	小賣市場		
齊 齊 哈 爾	南 崗 南 市 場	小賣市場		
齊 齊 哈 爾	道 裡 北 市 場	小賣市場		
齊 齊 哈 爾	道 裡 南 市 場	小賣市場		



組合名	組合員數		出資拂込金	新昭和八年度 規貸付高
	員數	口數		
大連商會	1,533	3,813	92,411	2,226,501
奉天商會	36	1,744	1,889	95,705
新天商會	30	2,703	3,336	89,784
其他	209	1,189	118,388	799,079
計	1,808	54,958	226,024	3,121,069
旅大	1,533	3,813	92,411	2,226,501
營口	36	1,744	1,889	95,705
鞍山	30	2,703	3,336	89,784
遼陽	209	1,189	118,388	799,079
遼寧	1,533	3,813	92,411	2,226,501
奉天	36	1,744	1,889	95,705
撫順	30	2,703	3,336	89,784
本溪	209	1,189	118,388	799,079
安東	1,533	3,813	92,411	2,226,501
鐵嶺	36	1,744	1,889	95,705
開原	30	2,703	3,336	89,784
四平街	209	1,189	118,388	799,079
公主嶺	1,533	3,813	92,411	2,226,501
吉林	36	1,744	1,889	95,705
哈爾濱	30	2,703	3,336	89,784
計	1,808	54,958	226,024	3,121,069

三、輸入組合

(昭和八年末現在)

都市別	組合數	組合員數		經費
		日本國人	滿洲人	
大連	153	38,132	54,089	22,265
奉天	36	1,744	1,889	95,705
新天	30	2,703	3,336	89,784
其他	209	1,189	118,388	799,079
計	428	54,958	161,066	3,121,069

二、諸同業組合

(昭和七年度)

名稱	職員數	選舉權者數	收入		支出	
			賦課金	補助金	其他	其他
大連商工會議所	153	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
奉天商工會議所	36	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
鐵嶺商工會議所	30	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
新天商工會議所	30	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
安東商工會議所	30	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
營口商工會議所	30	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
哈爾濱商工會議所	30	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
計	428	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

附 日本側各種商業機關二關入凡參考表

(昭和七年度)







大同二年度一件、康德元年度二件アリ。尙特殊會社トシテ滿日兩國間ノ條約ニ依ルモノ一件、教令ニ依ルモノ二件、勅令ニ依ルモノ二件ヲ含ム。

大同元年三月一日以前ニ設立セラレタル公司ハソノ數尠カラサルモ之カ整備統一ハ緊急ノ問題ナリ。政府ニ於テハ右ニ關スル法令ノ草案ニ付着手ナリ。

公 司 一 覽 (實業部調査)

年 度 別	件 數	資 本 金 總 額
大同元年度	一	三、八五〇、〇〇〇圓
大同二年度	一五	六七、八二〇、〇〇〇圓
康德元年度	二〇	五三、〇一五、五〇〇圓
計	三六	一二四、六八五、五〇〇圓

(註) 金、銀資本ハ同一ニ取扱ヒテ合計セリ。

一、股 份 有 限 公 司 (自大同元年十二月至康德元年六月)

公 司 名 稱	設 立 年 月 日	資 本 額	本 店 所 在 地	事 業 目 的	出 資 狀 況	
					員 數	株 數
滿洲航空株式會社	大同元年二月二十六	三、八五〇千圓	奉天商埠地三經路	航空運輸事業及附帶事業	滿日	二人 五、四〇株

敦化電業股份有限公司	大同二年	三、一八〇	吉林省敦化縣城	電燈、電力ノ供給並ニ其ノ附帶事業	滿日	二人 一、六七株
營口紡織股份有限公司	"	三、二四〇	營口青堆子街々大街	紡織及染色	滿日	二人 一〇、〇〇株
延吉電業股份有限公司	"	四、八〇〇	吉林省延吉縣城	電燈、電力ノ供給並ニ其ノ附帶事業	滿日	二人 六、七〇株
大興股份有限公司	"	七、一〇〇	奉天省特別市西四道街	製油、酒精、製油、有價證券ノ募集及引受並ニ前各項ニ附帶スル一切ノ業務	滿日	二人 六、七〇株
安東電業股份有限公司	"	七、二八〇	奉天省安東商埠地	電燈、電力ノ供給並ニ其ノ附帶事業	滿日	二人 一〇、〇〇株
滿洲電信電話株式會社	"	八、三二〇	奉天省西豐縣城	電信、電話、無線電信無線電話、及其他電氣通信事業	滿日	二人 一〇、〇〇株
西豐電業股份有限公司	"	九、三三〇	奉天省西豐縣城	電燈、電力ノ供給並ニ其ノ附帶事業	滿日	二人 一〇、〇〇株
大同酒糟股份有限公司	"	一、一、二四〇	哈爾濱市道裡地段街	酒糟及其ノ加工品ノ製造並ニ販賣及ヒ前項ノ附帶事業	滿日	二人 一〇、〇〇株
營口商業銀行	"	一、一、一〇〇	營口西大街	一般銀行業及倉庫業	滿日	二人 一〇、〇〇株
北票煤鑛股份有限公司	"	一、一、一〇〇	新 京 市	石炭ノ採掘、販賣及其ノ附帶事業、前項事業ニ必要ナル不動産及有價證券ノ取得	滿日	二人 一〇、〇〇株
營口水道電氣株式會社	"	一、一、一〇〇	營口南大街	電氣、電力ノ供給並ニ其ノ附帶事業	滿日	二人 一〇、〇〇株
鐵法長途汽車股份有限公司	"	一、一、一〇〇	奉天省鐵嶺西關	旅客及貨物ノ輸送並ニ其ノ附帶事業	滿日	二人 一〇、〇〇株
大同洋灰股份有限公司	"	一、一、一〇〇	吉林省商埠地大馬路	セメント及セメント材料ノ製造及販賣、其他セメント工業ニ關スル必要事業	滿日	二人 一〇、〇〇株
滿洲自動車交通股份有限公司	"	一、一、一〇〇	新 京 西 五 馬 路	旅客、貨物ノ運輸並ニ一切ノ附帶事業及前項事業ヘノ投資	滿日	二人 一〇、〇〇株
哈爾濱交通有限公司	大同三年	一、一、一〇〇	哈爾濱傳家街	大豆、豆粕、豆油、小麥、麥粉、麻袋、棉絲布、雜穀ノ取引	滿日	二人 一〇、〇〇株
蓋平電業股份有限公司	"	一、一、一〇〇	奉天省蓋平縣城	電燈、電力ノ供給並ニ其ノ附帶事業	滿日	二人 一〇、〇〇株